EPSON

Endeavor

NA103

ユーザーズマニュアル

Windows XP

ご使用の前に

- ご使用の際は、必ず「マニュアル」をよくお読みの上、正しくお使いください。
- 「マニュアル」は、不明な点をいつでも解決できるように、すぐに取り出して見られる場所に保管してください。

安全にお使いいただくために

このマニュアルおよび製品には、製品を安全に正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために絵表示が使われています。
その表示と意味は次のとおりです。内容をよく理解してから本文をお読みください。

警 告 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

注 意 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

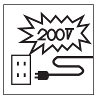
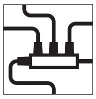
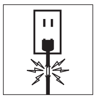
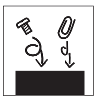
障害や事故の発生を防止するための禁止事項の内容を表しています。

	製品の取り扱いにおいて、してはいけない行為（禁止行為）を示しています。

障害や事故の発生を防止するための指示事項の内容を表しています。

	必ず行う事項（指示、行為）を示しています。
	電源プラグをコンセントから必ず抜くことを示しています。

⚠ 警告

	交流100V以外の電源は、使用しないでください。 交流100V以外の電源を使うと、感電・火災の原因となります。
	ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。 感電の原因となります。
	雷が鳴りだしたら、電源プラグをさわらないでください。 感電の原因となります。
	電源プラグを取り扱う際は、次の点を守ってください。 取り扱いを誤ると、火災の原因となります。 ・電源プラグはホコリなどの異物が付着したまま差し込まない。 ・電源プラグは刃の根元まで確実に差し込む。 ・電源プラグを長期間コンセントに差したままにしない。 電源プラグは、定期的にコンセントから抜いて、刃の根元や刃と刃の間を清掃してください。
	電源コードのたこ足配線はしないでください。 発熱し、火災の原因となります。 家庭用電源コンセント（交流100V）から電源を直接取ってください。
	破損した電源コードを使用しないでください。感電・火災の原因となります。 電源コードを取り扱う際は、次の点を守ってください。 ・電源コードを加工しない。 ・無理に曲げたり、ねじったり、引っぱったりしない。 ・電源コードの上に重いものを載せない。 ・発熱器具の近くに配線しない。 電源コードが破損したら、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。カスタマーサービスセンターへの連絡方法は、『サポート･サービスのご案内』（別冊）をご覧ください。
	本機から異臭や異音がする、発煙するなど、異常状態のまま使用しないでください。 感電・火災のおそれがあります。 すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、バッテリパックを本機から取り外して、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。カスタマーサービスセンターへの連絡方法は、『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧ください。 お客様による修理は危険ですから絶対にしないでください。
	通風孔など開口部から、本機内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落としたりしないでください。 感電・火災の原因となります。

⚠ 警告

警告
バッテリパックの金属端子を水、コーヒー、ジュースなどの液体でぬらさないでください。 感電・火災・火傷の原因となります。
水などの液体や異物が本機内部に入った場合は、そのまま使用しないでください。 感電・火災の原因となります。 すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、バッテリパックを本機から取り外して、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。カスタマーサービスセンターへの連絡方法は、『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧ください。
本機の分解・改造や、マニュアルで指示されている以外の増設・交換はしないでください。 けが・感電・火災の原因となります。
メモリの増設・交換をするときは、電源プラグをコンセントから抜いて、本機からバッテリパックを取り外してください。 感電や火傷の原因となります。
バッテリパックを、指定以外の方法で充電しないでください。 発熱や発火、液漏れによる被害の原因となります。
本体や付属のバッテリパックなどを火中に入れたり、火気に近づけたり、加熱したり、高温状態で放置したりしないでください。 破裂などで火傷の原因となります。
バッテリパックの金属端子をショートさせないでください。 火傷の原因となります。
付属のACアダプタやバッテリパックを、分解・改造しないでください。 また、本機には、指定以外のACアダプタやバッテリパックを使用しないでください。 感電や火傷、化学物質による被害の原因となります。 当社指定以外のACアダプタやバッテリパック、または分解・改造したACアダプタやバッテリパック（当社での修理対応は除く）での本機の使用は、安全性や製品に関する保証ができません。
小さなお子様の手の届く所にバッテリパックを保管しないでください。 なめたりすると、火傷や化学物質による被害の原因となります。
バッテリパックには、落下させる、ぶつける、先の尖ったもので力を加える、強い圧力を加えるなど、強い衝撃を与えないでください。 破裂や液漏れにより、火傷や化学物質による被害の原因となります。

警 告	
	バッテリ駆動時間が極端に短くなった場合は、当社指定の新しいバッテリパックと交換してください。 駆動時間が短くなったバッテリパックは、内部に使用されている電池の消耗度合いにばらつきが発生している可能性があります。電池の消耗度合いにばらつきがあるバッテリパックをそのまま使用し続けると、発熱・発火・破裂の原因となります。
	航空機や病院など、電波の使用を禁止された区域に本機を持ち込むときは、本機の電源を切るかBluetooth機能および無線LAN機能の電波を停止してください。 電波が電子機器や医療用電気機器に影響を及ぼす場合があります。 また、自動的に電源が入る機能が搭載されている場合は、設定を解除してから、本機の電源を切ってください。
	医療機関の屋内でBluetooth機能および無線LANを使用するときは、次のことを守ってください。 ・手術室・集中治療室（ICU）・冠状動脈疾患監視室（CCU）には、本機を持ち込まない。 ・病棟内では、本機の電源を切るか電波を停止する。 ・病棟以外の場所でも、付近に医療用電気機器がある場合は、本機の電源を切るか電波を停止する。 ・医療機関が個々に使用禁止、持ち込み禁止などの場所を定めている場合は、その医療機関の指示に従う。 ・自動的に電源が入る機能が搭載されている場合は、設定を解除してから、本機の電源を切る。
	植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器を装着している場合、Bluetooth機能および無線LAN機能を使用するときは、装着部と本機の間を22cm以上離してください。 電波が、植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器の作動に影響を及ぼす場合があります。 満員電車など、付近に心臓ペースメーカーを装着している人がいる可能性がある場所では、本機の電源を切るか電波を停止してください。
	Bluetooth機能および無線LAN機能は、自動ドア、火災報知器などの自動制御機器の近くで使用しないでください。 電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となるおそれがあります。

注 意

小さなお子様の手の届く所に設置、保管しないでください。
落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。

不安定な場所（ぐらついた台の上や傾いた所など）に置かないでください。
落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。

湿気やホコリの多い所に置かないでください。
感電・火災の危険があります。

起動状態で本機の通風孔をふさがないでください。
起動状態で通風孔をふさぐと、内部に熱がこもって本機が熱くなり、火傷や火災の原因となります。次の点を守ってください。
・じゅうたんや布団の上にのせない。
・毛布やテーブルクロスのような布をかけない。
・キャリングケースやバッグなどに入れない。

各種コード（ケーブル）は、マニュアルで指示されている以外の配線をしないでください。
配線を誤ると、火災の危険があります。

FAXモデムを次の回線に接続しないでください。発熱して火災の原因となります。
・構内交換機（PBX）
・2線式でない回線（ホームテレホンやビジネスホンなど）
・ISDN対応公衆電話のデジタル側ジャック

ヘッドフォンやスピーカは、ボリュームを最小に調節してから接続し、接続後に音量を調節してください。
ボリュームの調節が大きくなっていると、思わぬ大音量により聴覚障害の原因となります。

パームレストやキーボードに長時間手を置かないでください。
パームレストやキーボードが熱くなることがあり、低温火傷のおそれがあります。

ひざの上で長時間使用しないでください。
本機底面が熱くなり、低温火傷の原因となります。

付属のACアダプタやバッテリパックは、本機以外には使用しないでください。
火傷・火災の危険があります。

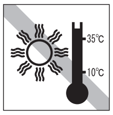
注 意

	破損したACアダプタやバッテリパックを使用しないでください。 火傷・火災の危険があります。 万一、本機の落下などで強い振動や衝撃が加わり、バッテリパックが破損したり、変形したりした場合は、本機の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、本機からバッテリパックを取り外してください。 そのまま使用を続けると、発熱・発火・破裂のおそれがあります。
	ACアダプタを毛布や布団で覆わないでください。 火傷・火災の危険があります。
	ACアダプタの温度の高い部分に、長時間直接触れないでください。 低温火傷の原因となります。
	メモリの増設・交換は本機の内部が高温になっているときには行わないでください。 火傷の危険があります。 作業は電源を切って10分以上待ち、本機の内部が十分冷めてから行ってください。
	液晶ディスプレイが破損して、内部の液体が漏れた場合は、液体をなめたり、触ったりしないでください。 火傷や化学物質による被害の原因となります。 万一、液体が皮膚に付着したり、目に入ったりした場合は流水で十分に洗い、医師に相談してください。
	光ディスクドライブで、ひび割れや変形補修したメディアは使用しないでください。 内部で飛び散って故障したり、メディア取り出し時にけがをしたりする危険があります。
	長時間または不自然な姿勢でのコンピュータ操作は避けてください。 肩こり、腰痛、目の疲れ、腱鞘炎などの原因となります。
	本機を移動する場合は、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、すべての配線を外したことを確認してから行ってください。
	連休や旅行などで本機を長期間使用しないときは、安全のため、電源プラグをコンセントから抜いて、本機からバッテリパックを取り外してください。
	本機を廃棄する場合は、法律に従って正しく処理してください。 液晶ディスプレイに使用している蛍光管（バックライト）には、水銀が含まれています。

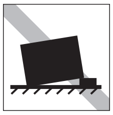
製品保護上の注意

▶使用・保管時の注意

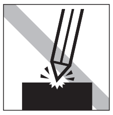
コンピュータ（本機）は精密な機械です。次の注意事項を確認して正しく取り扱ってください。取り扱いを誤ると、故障や誤動作の原因となります。
特に指定のない限り、注意事項は、本体およびACアダプタやバッテリパックなどの同梱品に適用されます。



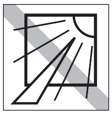
温度が高すぎる所や、低すぎる所には置かないでください。また、急激な温度変化も避けてください。
故障、誤動作の原因となります。適切な温度の目安は10℃～35℃です。



不安定な所には設置しないでください。落下したり、振動したり、倒れたりすると、本機が壊れ、故障することがあります。



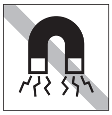
LCD画面の表面を先の尖ったもので引っかいたり、無理な力を加えたりしないでください。
LCD画面の表面はアクリル製ですので、キズが付いたり、割れたりすることがあります。



直射日光の当たる所や、発熱器具（暖房器具や調理用器具など）の近くなど、高温・多湿となる所には置かないでください。
故障、誤動作の原因となります。
また、直射日光などの紫外線は、変色の原因となります。



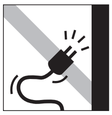
本機の汚れを取るときは、ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。変色や変形の可能性があります。柔らかい布に中性洗剤を適度に染み込ませて、軽く拭き取ってください。



テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するものの近くに置かないでください。誤動作やデータ破損の原因となります。逆に、本機の影響でテレビやラジオに雑音が入ることもあります。



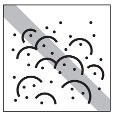
本機を梱包しない状態で、遠隔地への輸送や保管をしないでください。衝撃や振動、ホコリなどから本機を守るため、専用の梱包箱に入れてください。



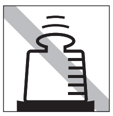
電源コードが抜けやすい所（コードに足が引っかかりやすい所や、コードの長さがぎりぎりの所など）に本機を置かないでください。バッテリパックの状態により、電源コードが抜けると、それまでの作業データがメモリ上から消えることがあります。



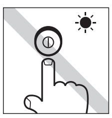
本機を長期間使わないときは、バッテリパックを本機に装着したままにしないでください。
液漏れを起こすことがあります。



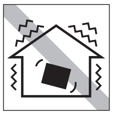
ホコリの多い所には置かないでください。
故障、誤動作の原因となります。



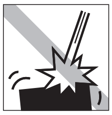
本機の上に重い物を載せたり、強く押さえ付けたりしないでください。
LCDやバックライトが破損したり、表示異常となることがあります。



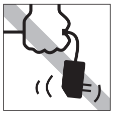
アクセスランプ点灯・点滅中は、本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。



ほかの機械の振動が伝わる所など、振動しやすい場所には置かないでください。故障、誤動作の原因となります。



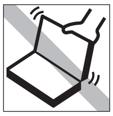
本機を落としたり、ぶつけたりして、衝撃を与えないでください。持ち運ぶときは、電源を切り、バッグに入れるなどして衝撃から守るようにしてください。



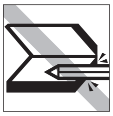
ACアダプタはコードを持って抜き差ししないでください。
コードの断線や接触不良の原因となります。



ACアダプタの上に乗ったり、踏みつけたり、重い物を載せるなどして、ケースを破損しないでください。



本機のLCDユニット（液晶ディスプレイ部）を開けた状態で、LCDユニットを持って移動しないでください。



キーボードの上などに、物（ボールペンなど）をはさんだまま、LCDユニット（液晶ディスプレイ部）を閉じないでください。

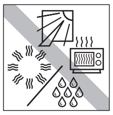
▶記録メディア

記録メディアは、次の注意事項を確認して正しく取り扱ってください。取り扱いを誤ると、記録メディアに収録されているデータが破損するおそれがあります。

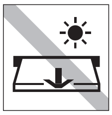
＜記録メディアの種類＞

FD	FD
CD	光ディスクメディア
MC	メモリカード

記録メディアの種類を指定していない注意事項は、すべての記録メディアに適用されます。



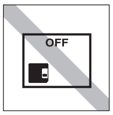
直射日光が当たる所、発熱器具の近くなど、高温・多湿となる場所には置かないでください。



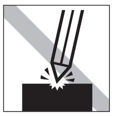
アクセスランプ点灯・点滅中は、記録メディアを取り出したり、本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。



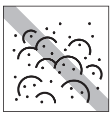
上に物を載せないでください。



使用後は、本機にセットしたままにしたり、ケースに入れずに放置したりしないでください。



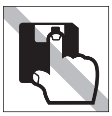
キズを付けないでください。



ゴミやホコリの多い所では、使用したり保管したりしないでください。



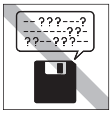
クリップで挟む、折り曲げるなど、無理な力をかけないでください。



アクセスカバーを開けたり、磁性面あるいは金属端子に触れたりしないでください。
FD MC



磁性面や金属端子にホコリや水を付けないでください。シンナーやアルコールなどの溶剤を近づけないでください。
FD MC



何度も読み書きしたFDは使わないでください。
磨耗したFDを使うと、読み書きでエラーが生じることがあります。
FD



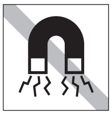
レコードやレンズ用のクリーナーなどは使わないでください。
クリーニングするときは、CD専用クリーナーを使ってください。
CD



光ディスクドライブのデータ読み取りレンズをクリーニングするCDは使わないでください。
CD



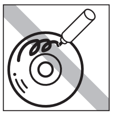
シールを貼らないでください。
CD



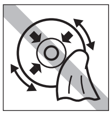
テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するものに近づけないでください。
FD MC



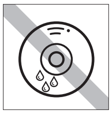
信号面（文字などが印刷されていない面）に触れないでください。
CD



信号面（文字などが印刷されていない面）に文字などを書き込まないでください。
CD



レコードのように回転させて拭かないでください。
内側から外側に向かって拭いてください。
CD



温度差の激しい場所に置かないでください。結露する場合があります。
CD

無線LAN使用時における セキュリティに関する注意（無線LAN搭載時のみ）

お客様の権利（プライバシー保護）に関する重要な事項です。無線LANを使用する前に、必ずお読みください。

無線LANでは、LANケーブルを使用する代わりに、電波を利用してパソコンなどと無線LANアクセスポイント間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由にLAN接続が可能であるという利点があります。
その反面、電波はある範囲内であれば障害物（壁など）を越えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、以下のような問題が発生する可能性があります。

● 通信内容を盗み見られる

悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、

- ID やパスワードまたはクレジットカード番号などの個人情報
- メールの内容

などの通信内容を盗み見られる可能性があります。

● 不正に侵入される

悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、

- 個人情報や機密情報を取り出す（情報漏洩）
- 特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す（なりすまし）
- 傍受した通信内容を書き換えて発信する（改ざん）
- コンピュータウイルスなどを流しデータやシステムを破壊する（破壊）

などの行為をされてしまう可能性があります。

本来、無線LANや無線LANアクセスポイントは、これらの問題に対応するためのセキュリティの仕組みを持っていますので、無線LAN製品のセキュリティに関する設定を行って製品を使用することで、その問題が発生する可能性は少なくなります。

無線LAN機器は、購入直後の状態においては、セキュリティに関する設定が施されていない場合があります。

したがって、お客様がセキュリティ問題発生の可能性を少なくするためには、無線LANや無線LANアクセスポイントをご使用になる前に、必ず無線LAN機器のセキュリティに関するすべての設定をマニュアルに従って行ってください。

なお、無線LANの仕様上、特殊な方法によりセキュリティ設定が破られることもあり得ますので、ご理解の上、ご使用ください。

※ セキュリティ対策を施さず、あるいは、無線LANの仕様上やむを得ない事情によりセキュリティの問題が発生してしまった場合、当社は、これによって生じた損害に対する責任を負いかねます。

セキュリティの設定などについて、お客様ご自身で対処できない場合には、『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、テクニカルセンターまでお問い合わせください。

当社では、お客様がセキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を十分理解した上で、お客様自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することをおすすめします。

目　次

システムの拡張

BIOSの設定

ソフトウェアの再インストール

こんなときは

付録

はじめに

本機を使い始める前に知っておいていただきたい事項について説明します。

マニュアル中の表記について

本書では次のような記号を使用しています。

安全に関する記号

記号	説明
警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

一般情報に関する記号

記号	説明
制限	制限事項です。 機能または操作上の制限事項を記載しています。
参考	参考事項です。 覚えておくと便利なことを記載しています。
『　』	本書とは別のマニュアルを示します。 例）『梱包品の確認』：本機に添付の『梱包品の確認』を示します。
☞	参照ページを示します。
1 2	操作手順です。 ある目的の作業を行うために、番号に従って操作します。
[Ctrl]	[　] で囲んだマークはキーボード上のキーを表します。 [↵] はEnterキーを表します。また、[N] は [N み] のことです。このように必要な部分のみを記載しているため、キートップに印字された文字とは異なる場合があります。
[Ctrl]+[Z]	＋の前のキーを押したまま＋の後のキーを押します。 この例では、[Ctrl] を押したまま [Z] を押します。

名称の表記

本書では、本機で使用する製品の名称を次のように表記しています。

HDD	ハードディスクドライブ
FD	フロッピーディスク
FDD	フロッピーディスクドライブ
光ディスクメディア	CDメディア、DVDメディアなど
光ディスクドライブ	光ディスクメディアを使用するためのドライブの総称
メモリカード	メモリースティック、マルチメディアカード、SDメモリーカードの総称

オペレーティングシステム（OS）に関する記述

本書では、オペレーティングシステム（OS）の名称を次のように略して表記します。

Windows XP	Microsoft® Windows® XP Professional Microsoft® Windows® XP Home Edition

HDD容量の記述

本書では、HDD容量を1KB（キロバイト）＝1000Byteとして記載しています。

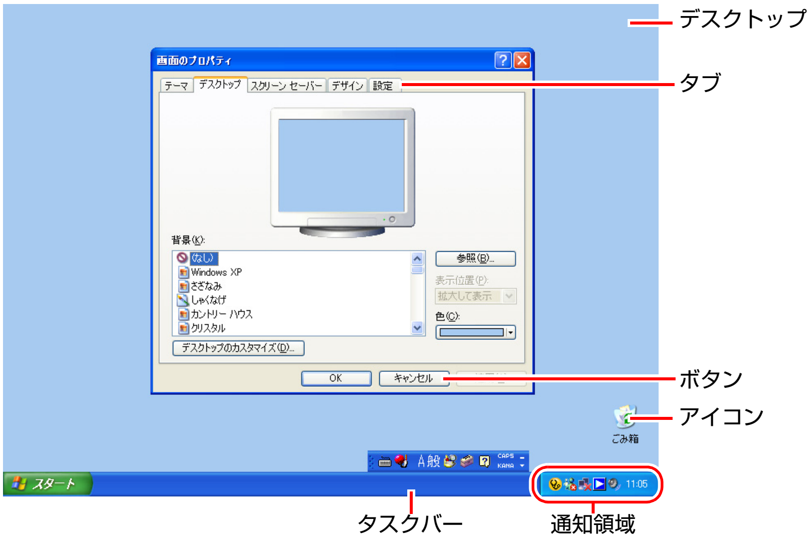
メモリ容量の記述

本書では、メモリ容量を1GB（ギガバイト）＝1024MBとして記載しています

Windowsの画面表示に関する記載方法

デスクトップ画面

本書では、Windows XPの画面に表示される各箇所の名称を次のように記載します。



ボタン

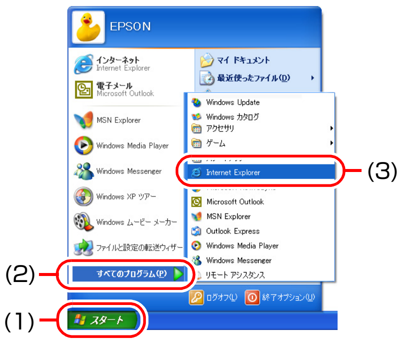
ボタンは［　］で囲んで記載します。

例）：［スタート］／：［OK］

画面操作

本書では、Windows XPの画面上で行う操作手順を次のように記載します。

- 記載例
  ［スタート］－「すべてのプログラム」－「Internet Explorer」をクリックします。
- 実際の操作
  (1) ［スタート］をクリックします。
  (2) 表示されたメニューから「すべてのプログラム」をクリックします。
  (3) 横に表示されるサブメニューから「Internet Explorer」をクリックします。



本製品の仕様とカスタマイズについて

本製品は、ご購入時にお客様が選択されたオプションによって、仕様がカスタマイズされています。CPUの種類・メモリ容量・光ディスクドライブなど、選択した仕様にあわせて、お客様 オリジナルのコンピュータとして組み立て、納品されています。

仕様によって必要なマニュアル

本製品の操作に必要なマニュアルは、お客様が選択された仕様によって、『ユーザーズマニュアル』（本書）とは別に添付されている場合があります。
お使いになる仕様によって必要となるマニュアルは、下記のとおり別冊や電子マニュアルなどの形式で添付されています。ご確認ください。

- 本製品に同梱されている別冊マニュアル
- CD-ROMなどに収録されている電子マニュアル（PDFファイルなど）
- コンピュータに収録されている電子マニュアル（「マニュアルびゅーわ」から閲覧）

第1章
使い始めるまでの準備

本機の接続方法、電源の入れ方や切り方、Windowsのセットアップについて説明します。

ご使用の前に

▶コンピュータを使い始めるまでの手順

購入後にはじめて本機を使用する場合は、次の手順で作業を行ってください。

梱包品に不足や不良がないかを確認する
『梱包品の確認』（別冊）

⬇

本機を使用する前に必要な情報を確認する
p.2 「安全にお使いいただくために」
p.8 「製品保護上の注意」
p.18 「マニュアル中の表記について」
p.21 「本製品の仕様とカスタマイズについて」
p.24 「ご使用の前に」
p.26 「本機でできること」
p.27 「添付されているソフトウェア」
p.30 「各部の名称と働き」

⬇

コンピュータを設置し、各機器の接続を行う
p.35 「コンピュータの設置」

⬇

電源を入れ、Windowsをセットアップする
p.41 「電源の入れ方とWindowsのセットアップ」

⬇

使用開始！

ご使用前の確認事項

貼付ラベルの確認

本機底面には、製品情報が記載された次のラベルが貼られています。本機をご使用の前に、ラベルが貼られていることを確認してください。ラベルは絶対にはがさないでください。

● お問い合わせ情報シール

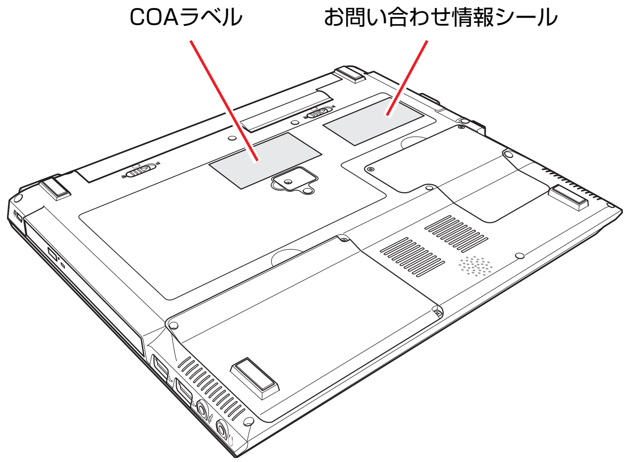
お問い合わせ情報シールには、型番や製造番号が記載されています。当社にサポート・サービスに関するお問い合わせをいただく際には、これらの番号が必要です。

お問い合わせ情報シールに記載されている製造番号は、『サポート・サービスのご案内』（別冊）の表紙に書き写しておいてください。

● COAラベル

COAラベル（Certificate of Authenticityラベル）は、正規のWindows商品を購入されたことを証明するラベルです。

万一、COAラベルを紛失された場合、再発行はできません。



サポート・サービスのご案内

『サポート・サービスのご案内』には、当社のサポートやサービスの内容が詳しく記載されています。

困ったときや、万一の場合に備えてお読みいただくことをおすすめします。

本機でできること

本機は、12.1型TFT XGA液晶ディスプレイを搭載したB5サイズのノート型モバイルコンピュータです。
本機では、次のようなことができます。



有線LANに接続する
p.129

光ディスクを再生する
光ディスクにデータを保存する
（オプション）
p.82

無線LANに接続する（オプション）
p.134

FAXモデムで通信する
p.158

USB機器やIEEE1394機器を
接続して使う
p.90 p.168

Bluetooth機器を使う（オプション）
p.100

PCカードやメモリカード（メモリースティックなど）を使う
p.92 p.96

音声を入力・出力する
p.118

画面表示を調節する
外付けディスプレイに表示する
p.109 p.112

指紋認証機能を使う
p.121

省電力機能を使う
p.163

メモリを増設・交換する
p.173

添付されているソフトウェア

購入時、本機にインストールされているソフトウェアと、購入後、必要に応じてインストールが必要なソフトウェアは次のとおりです。

表中記号の見方

記号	説明
CD	ソフトウェアは添付のCDに収録されています。
HDD	ソフトウェアはHDDの「消去禁止領域」に収録されています。この領域を削除すると再インストールができなくなります。「消去禁止領域」は、絶対に削除しないでください。 p.81 「消去禁止領域とは」

本機にインストールされているソフトウェア

購入時、次のソフトウェアは、本機にインストールされています。

本機にインストールされているソフトウェア	ソフトウェアの収録場所
● Windows XP 本機のオペレーティングシステム（OS）です。	Windows XPリカバリCD
● リカバリツール HDDの消去禁止領域に収録されている本体ドライバやソフトウェアを再インストールするためのプログラムです。	リカバリツールCD
● チップセットドライバ メインボード上のデバイスを使用するためのドライバです。	消去禁止領域
● ビデオドライバ Windowsを高解像度・多色で表示するためのドライバです。	
● サウンドドライバ 音を鳴らしたり、録音するためのドライバです。	
● タッチパッドドライバ タッチパッドを使用するためのドライバです。	
● メモリカードドライバ メモリカードスロットを使用するためのドライバです。	
● FAXモデムドライバ FAXモデム機能を使用するためのドライバです。	
● インスタントキードライバ ［Fn］と組み合わせて使用する機能キーを使用するためのドライバです。	
● ネットワークドライバ ネットワーク機能（有線LAN）を使用するためのドライバです。	
● ネットワーク切替えツール V2 接続先にあわせて、ネットワークの設定を切り替えるためのユーティリティです。	
● Bluetoothドライバ（Bluetooth搭載時のみ） Bluetoothを使用するためのドライバです。設定を行うためのユーティリティも含まれます。	

<table>
<tr><th>本機にインストールされているソフトウェア</th><th>ソフトウェアの収録場所</th></tr>
<tr><td>● 無線LANドライバ（無線LAN搭載時のみ）
無線LANを使用するためのドライバです。</td><td rowspan="14">消去禁止領域</td></tr>
<tr><td>● 指紋認証ドライバ
指紋認証機能を使用するためのドライバです。</td></tr>
<tr><td>● セキュリティチップドライバ
セキュリティチップ（TPM）を使用するためのドライバです。</td></tr>
<tr><td>● Adobe Reader
PDF（Portable Document Format）形式のファイルを表示したり、印刷したりするためのソフトウェアです。</td></tr>
<tr><td>● Java2 Runtime Environment
Javaアプリケーションを実行するためのソフトウェアです。</td></tr>
<tr><td>● Microsoft .NET Framework
.NET Frameworkの開発環境で作成されたソフトウェアなどを使用するためのプログラムです。</td></tr>
<tr><td>● Windows Media Player 10
動画や音声を再生するためのソフトウェアです。</td></tr>
<tr><td>● JWord Plugin
Internet Explorerのアドレスバーから、日本語でインターネットを検索するためのソフトウェアです。</td></tr>
<tr><td>● gooスティック
Internet Explorerのツールバーに、検索サービス「goo」の検索ボックスを追加するためのソフトウェアです。</td></tr>
<tr><td>● インフォメーションメニュー
本機に添付のマニュアルやサポートページを閲覧するためのユーティリティです。</td></tr>
<tr><td>● マニュアルびゅーわ
本機に添付されているマニュアルやお知らせを見るためのソフトウェアです。</td></tr>
<tr><td>● システム診断ツール
コンピュータの調子が悪いときにシステム診断を行うためのツールです。</td></tr>
<tr><td>● Nero 7 Essentials（書き込み機能のある光ディスクドライブ搭載時のみ）
光ディスクメディアに書き込みを行うためのソフトウェアです。</td></tr>
<tr><td>● WinDVD（DVD再生機能のある光ディスクドライブ搭載時のみ）
DVD VIDEOを再生するためのソフトウェアです。</td></tr>
</table>

必要に応じてインストールが必要なソフトウェア

次のソフトウェアは、購入時、本機にインストールされていません。Windowsのセットアップ後に必要に応じてインストールしてください。

p.47 「初期設定ツール」
p.48 「セットアップ完了後の作業」

本機にインストールされていないソフトウェア	ソフトウェアの収録場所
● Norton Internet Security 90日版 ウイルス駆除機能、不正アクセス防止機能、フィッシング詐欺対策機能などを備えたセキュリティソフトウェアです。	消去禁止領域
● i-フィルター 4　30 日版 インターネット上の有害な Web ページへのアクセスを防止するWebフィルタリングソフトウェアです。	
● マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版 Webサイトの安全性評価を表示し、危険なサイトへのアクセスを防ぐWebセーフティツールです。	
● セキュリティチップユーティリティ セキュリティチップ（TPM）の設定を行うためのユーティリティです。	
● 指紋認証ユーティリティ 指紋認証機能の設定を行うためのユーティリティです。	

そのほかのソフトウェア

次のソフトウェアは、CDから起動して実行します。インストールは必要ありません。

p.251 「システム診断ツールを使う」

そのほかのソフトウェア	ソフトウェアの収録場所
● システム診断ツール コンピュータの調子が悪いときにシステム診断を行うためのツールです。HDD内のデータを消去することもできます。	リカバリツールCD

参考

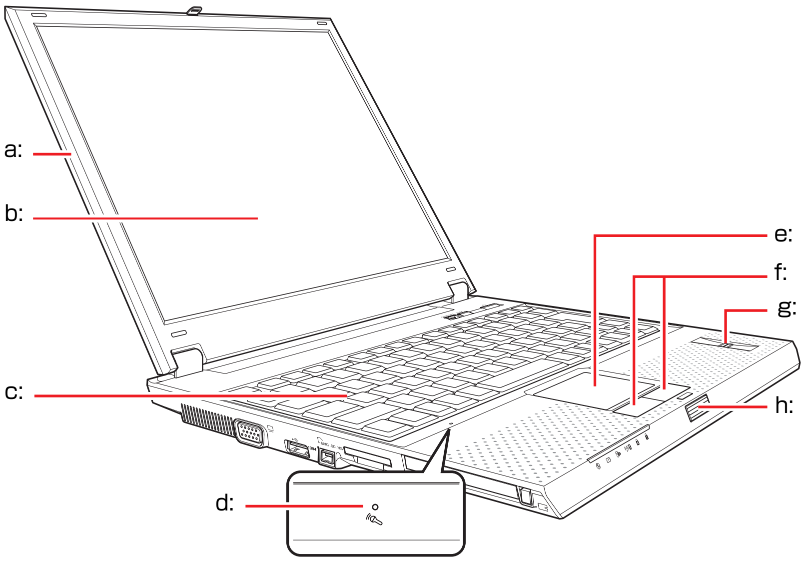
消去禁止領域に収録されているソフトウェアのバックアップ

書き込み機能のある光ディスクドライブを搭載している場合、HDDの「消去禁止領域」に収録されているソフトウェアを、CDにバックアップすることができます。

p.261 「バックアップCDの作成方法」

各部の名称と働き

正面



a: **LCDユニット**
LCD画面やLCDラッチを含めた画面部分の総称です。

b: **LCD画面**
入力した文字や、作業内容を表示します。

c: **キーボード**
文字の入力やアプリケーションの操作などを行います。

d: **内蔵マイク**
音声を本機に取り込みます。

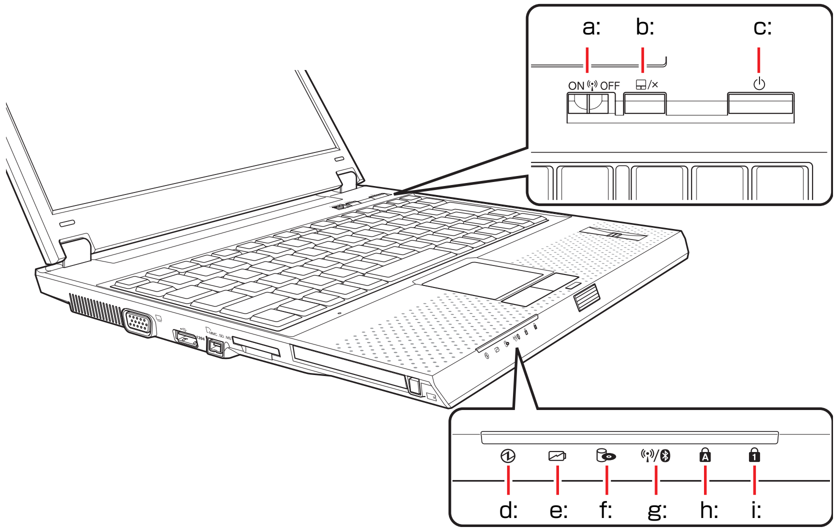
e: **タッチパッド**
指を軽く乗せて動作することにより、画面上のポインタを操作します。

f: **クリックボタン**
マウスの左右のボタンに相当します。

g: **指紋センサー**
指紋認証機能使用時に、指紋を読み取ります。

h: **LCDラッチ**
LCDユニットを開閉します。

ボタン/スイッチ/ステータス表示ランプ



a: **無線LANスイッチ**
無線LANのON/OFFを切り替えます（無線LAN搭載時のみ機能します）。

b: **タッチパッドボタン /×**
タッチパッドの有効/無効を切り替えます。

c: **電源スイッチ**
本機の電源の入/切を行います。また、スタンバイや休止状態からの復帰にも使用できます。

d: **電源ランプ**
電源状態を示します。
緑点灯：通常の状態
緑点滅：スタンバイ
消　灯：電源切断時または休止状態

e: **バッテリ充電ランプ**
バッテリの充電状態を示します。
オレンジ点灯：充電中
オレンジ点滅：バッテリ残量少
消　灯：満充電または電源切断時

f: **アクセスランプ**
HDD、光ディスクドライブへのアクセス中に点灯・点滅します。

g: **無線LAN/Bluetooth状態ランプ**
無線LANおよびBluetoothのON/OFF状態を示します（無線LANまたはBluetooth搭載時のみ機能します）。

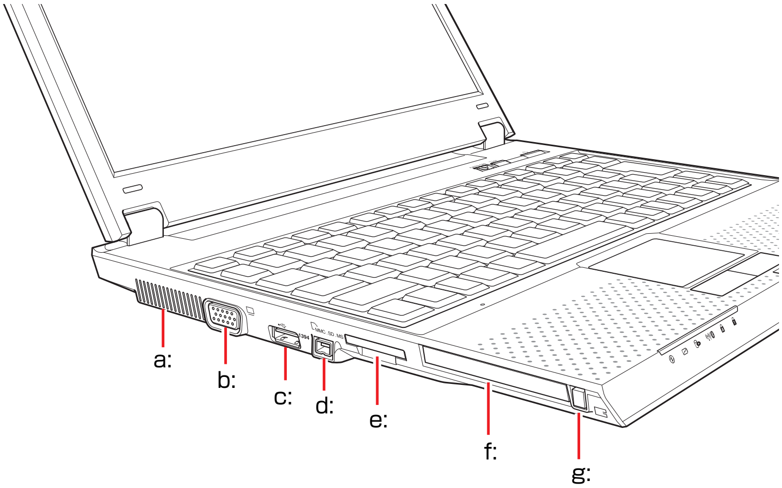
p.138 「無線LANのON/OFF」
p.103「Bluetooth機能のON/OFF」

h: **Caps Lockランプ**
Caps Lockキーの設定状態を表示します。点灯しているときは、Shift を押さずにアルファベットの大文字を入力することができます。

i: **NumLockランプ**
NumLockキーの設定状態を表示します。点灯しているときは、数値キーモードに設定されています。

制限
アクセスランプが点灯・点滅しているときに本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。データが破損するおそれがあります。

▶左側面



a: 通風孔（排気用）
本機内部で発生する熱を逃がします。

b: VGAコネクタ
液晶ディスプレイなど外付けディスプレイ（アナログタイプ）を接続します。

c: USBコネクタ
USB対応機器を接続します。

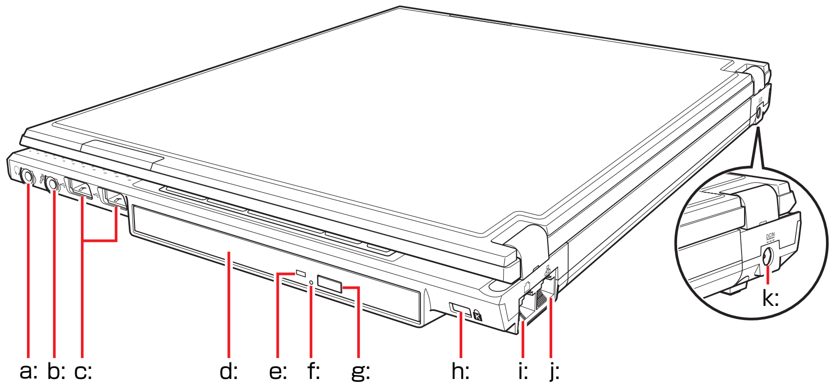
d: IEEE1394コネクタ 1394
IEEE1394機器を接続します（4ピン）。

e: メモリカードスロット MMC.SD.MS
メモリカードをセットし、データの読み出しや書き込み、書き換えを行います。

f: PCカードスロット
PC Card Standard規格準拠のPCカードをセットして使用します。

g: PCカードイジェクトボタン
PCカードを取り出すときに押します。

▶右側面・背面



a: ヘッドフォン出力コネクタ
スピーカ、ヘッドフォンなどを接続します。

b: マイク入力コネクタ
マイクを接続します。

c: USBコネクタ
USB対応機器を接続します。

d: 光ディスクドライブ
光ディスクメディアの読み込みや書き込みなどを行います（光ディスクドライブの種類により、使用できるメディアや機種は異なります）。

e: 光ディスクドライブアクセスランプ*
メディアへのアクセス中に点灯・点滅します。

f: イジェクトホール*
光ディスクドライブのディスクトレイが開かなくなったときに押すと、メディアを取り出すことができます。

g: イジェクトボタン*
ディスクトレイを開けるときに押します。

h: セキュリティロックスロット
市販の盗難抑止用ケーブル（ワイヤー）を接続します。

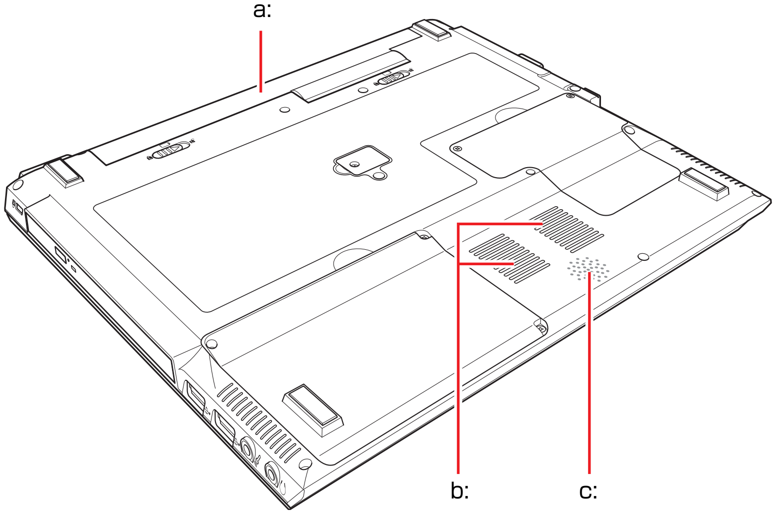
i: モデムコネクタ
電話回線と接続します。

j: LANコネクタ
LANケーブルを使用してネットワークと接続します。

k: ACアダプタコネクタ
付属のACアダプタを接続します。

*e、f、gの位置は、光ディスクドライブの種類によって異なります。

▶底面



a: バッテリパック＊
バッテリパックを装着して、本機を使用します。

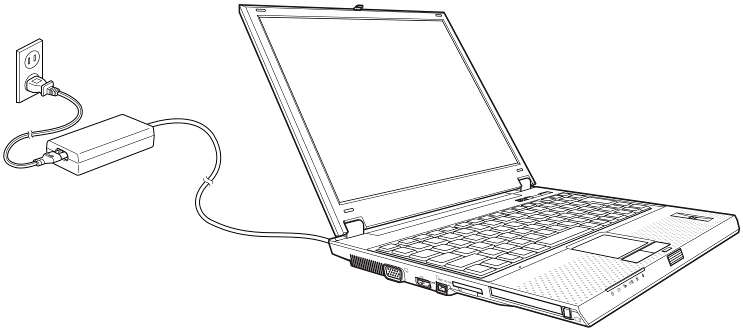
b: 通風孔（吸気用）
本機内部に外気を取り入れます。

c: 内蔵スピーカ
警告音や音声などを鳴らします。

＊ 本書中の本機イラストは、バッテリパックに軽量バッテリを搭載したモデルを使用しています。

コンピュータの設置

本機を使用できる状態にするために、バッテリパックを装着したり、ACアダプタを接続したりする手順を説明します。
プリンタなどの周辺機器を接続する場合は、Windowsのセットアップ完了後に周辺機器に添付のマニュアルを参照して行ってください。



設置における注意

注意

- 不安定な場所（ぐらついた台の上や傾いた所など）に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。
- 本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の危険があります。設置の際は次の点を守ってください。
  - ・じゅうたんや布団の上には設置しない。
  - ・毛布やテーブルクロスのような布をかけない。
  - ・キャリングケースやバッグなどに入れない。
- ひざの上で長時間使用しないでください。本機底面が熱くなり、低温火傷の原因となります。

各種コードやバッテリパック装着時の注意

警告

- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 電源コードのたこ足配線はしないでください。発熱し、火災の原因となります。家庭用電源コンセント（交流100V）から電源を直接取ってください。
- 電源プラグを取り扱う際は、次の点を守ってください。取り扱いを誤ると、火災の原因となります。
  - ・電源プラグは、ホコリなどの異物が付着したまま差し込まない。
  - ・電源プラグは刃の根元まで確実に差し込む。

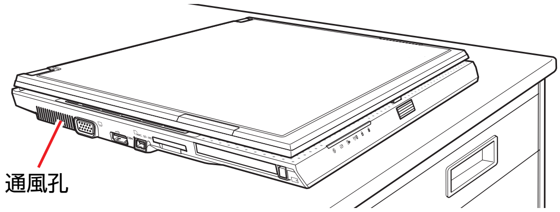
注意

各種コード（ケーブル）は、マニュアルで指示されている以外の配線をしないでください。配線を誤ると、火災の危険があります。

設置する

1 本機を設置場所（机などの丈夫で水平な台の上）に置きます。

左側面と底面の通風孔をふさがないようにしてください。



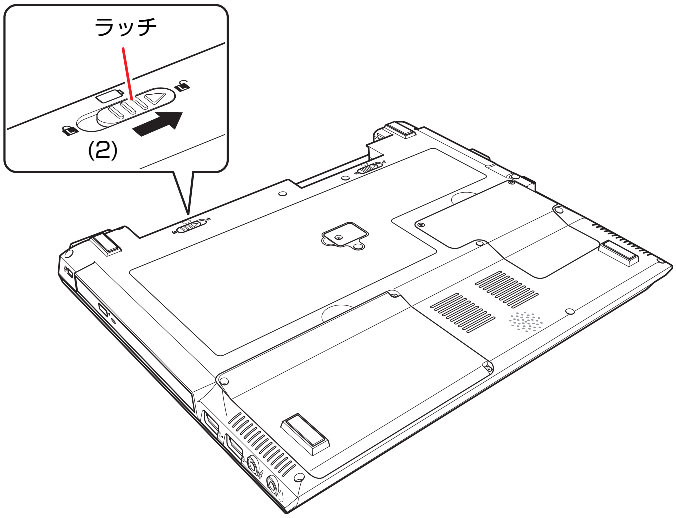
バッテリパックを装着する

ここでは、軽量バッテリを装着する手順を説明します。長時間バッテリや標準バッテリの場合、バッテリパックの形状は異なりますが、手順は同様です。

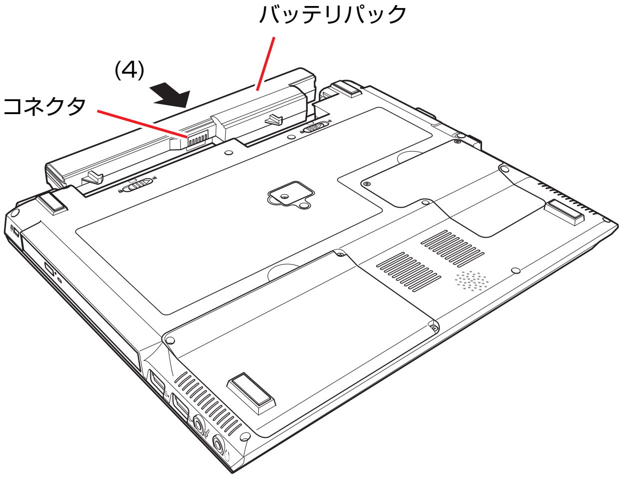
2 バッテリパックを装着します。

(1) 本機の底面部を上にして置きます。

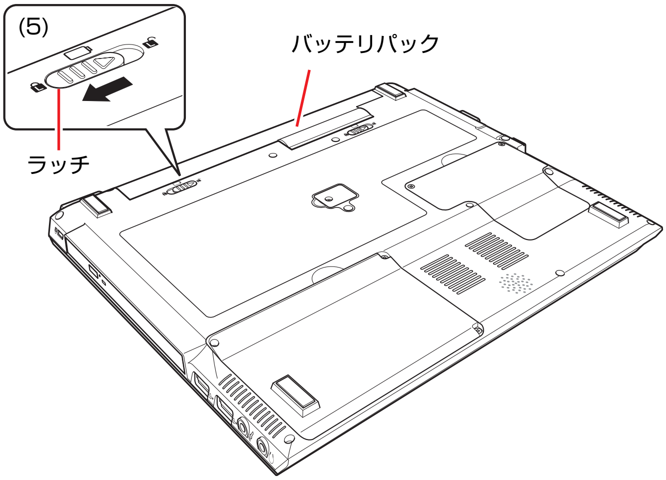
(2) 左側のラッチをロック解除位置（🔓）までスライドさせます。



(3) 下図のとおりバッテリパックを本機にあわせます。
(4) バッテリパックを矢印の方向に「カチッ」と音がするまで押し込みます。



(5) 左側のラッチをロック位置（🔒）までスライドさせます。



出荷時にバッテリパックは満充電状態ではありません。バッテリパックだけで使用する場合は、使用前に充電が必要です。

p.60 「ACアダプタ/バッテリパックを使う」

電話回線に接続する

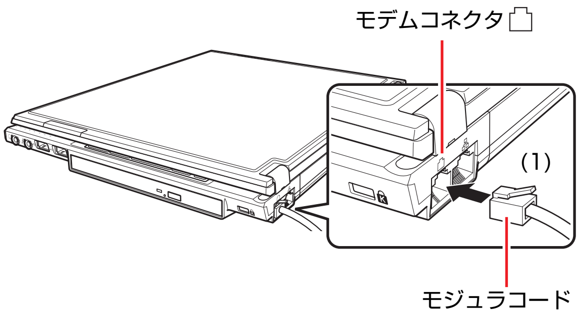
> **注意**
>
> FAX モデムを次の回線に接続しないでください。
> 発熱して火災の原因となります。
> - 構内交換機（PBX）
> - 2線式でない回線（ホームテレホンやビジネスホンなど）
> - ISDN対応公衆電話のデジタル側ジャック

3 FAXモデム機能を使用する場合は、電話回線への接続を行います。

(1) 付属のモジュラコードをモデムコネクタ（ ）に「カチッ」と音がするまで差し込みます。

(2) モジュラコードのもう一端を電話回線に差し込みます。

インターネットに接続する場合は、通信サービス会社やプロバイダから提供されたマニュアルをご覧ください。

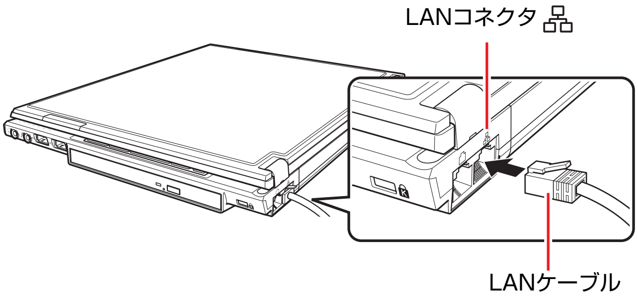


ネットワークへ接続する

4　ネットワーク機能（有線LAN）を使用する場合は、市販のLANケーブルでネットワークと接続します。

市販のLANケーブルをLANコネクタ（品）に「カチッ」と音がするまで差し込みます。

インターネットに接続する場合は、通信サービス会社やプロバイダから提供されたマニュアルをご覧ください。



ACアダプタを接続する

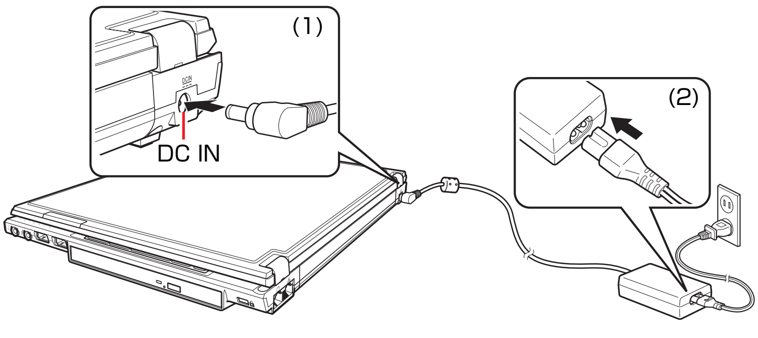
通常は、ACアダプタを接続して使用します。

5　ACアダプタをコンピュータと家庭用電源コンセントに接続します。

(1) ACアダプタのプラグ部を本機背面のACアダプタコネクタ（DC IN）に接続します。

プラグ端子部が見えなくなり、「カチッ」と音がするまでしっかりと押し込みます。

(2) 電源コードをACアダプタと家庭用電源コンセントに接続します。



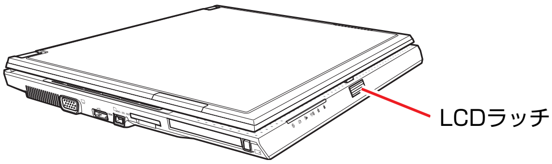
制限

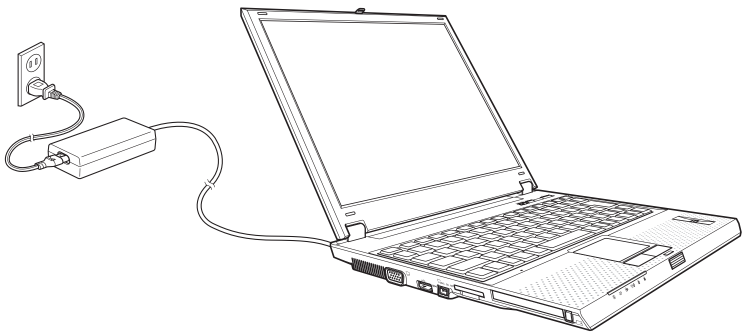
AC アダプタを接続して使用するときも、バッテリパックは必ずセットしてください。

LCDユニットを開ける

6 前面のLCDラッチを押して、LCDユニットを開きます。

LCDユニットは、見やすい角度に調節してください。





これでコンピュータの設置は完了です。

電源の入れ方とWindowsのセットアップ

ここでは、本機を購入後にはじめて電源を入れてから、Windowsを使用できる状態にするまでの作業について説明します。

Windowsが使用できるようになるまでの作業

作業の流れは、次のとおりです。

本機の電源を入れる

↓

Windowsのセットアップ作業を行う

↓

Windowsのセットアップ作業完了後に必要な作業を行う

↓

Windows使用時の確認事項をよく読む

↓

Windowsが使用できるようになる

電源を入れる前に

Windowsのセットアップとは

「Windowsのセットアップ」は、本機にはじめて電源を入れたときにユーザー情報などを設定するプログラムです。画面に表示されるメッセージに従って、セットアップを簡単に行うことができます。

タッチパッドの使い方

Windowsのセットアップは、タッチパッドの操作で行います。セットアップで必要なタッチパッドの基本操作は、次のとおりです。

● ポインタを動かす

人差し指をタッチパッドのパッド面に触れたまま前後左右に動かすと、Windows画面に表示されているポインタも指と同じ動きをします。



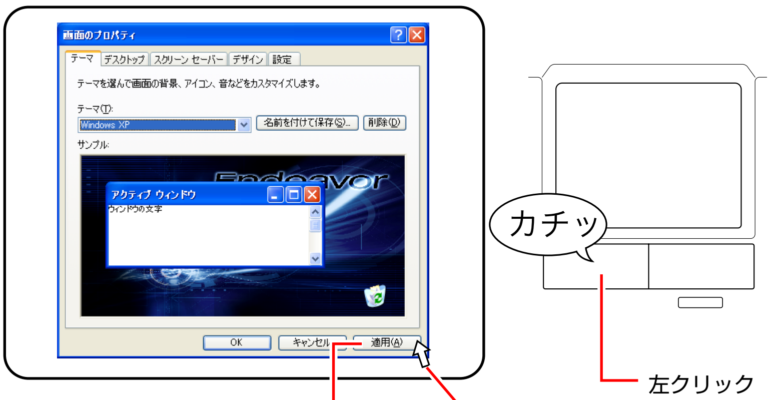
● ボタンをクリックする

(1) 指を動かして、ポインタを画面のボタンの上に重ねます。

(2) 左クリックボタンを、1回「カチッ」と押して離します。

この動作を「クリック」と言います。

ボタンをクリックすると、ボタンに表示されている操作が実行されます。

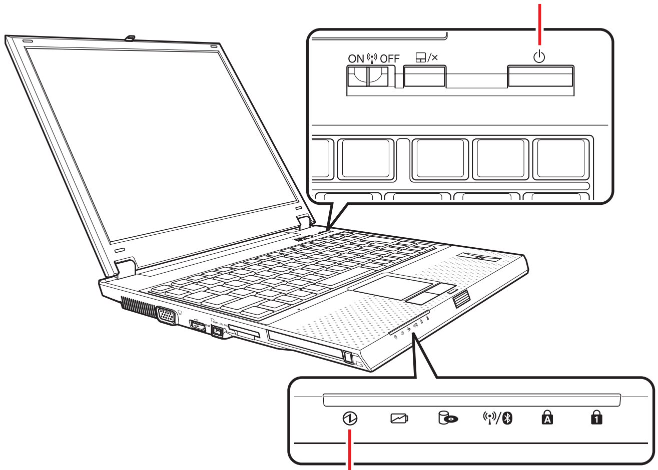


▶電源の入れ方とWindowsの起動

本機の電源の入れ方は次のとおりです。

1 **電源スイッチ（⏻）を押して、本機の電源を入れます。電源ランプ（⏻）が点灯します。**

電源を入れたときに電源ランプが点灯しない場合は、ACアダプタやバッテリパックが正しく接続されているか確認してください。



2 **黒い画面の中央に「EPSON」と表示され、しばらくするとWindowsが起動します。**

次の調節をして画面を見やすくします。

●角度

LCDユニットを前後に動かします。

●画面の明るさ

[Fn]+[F5]（✹）：　暗くなります。
（何回かキーを押すと画面表示が消えます。）

[Fn]+[F6]（☼）：　明るくなります。

続いて、Windowsのセットアップを行います。

p.44 「Windowsのセットアップ」

Windowsのセットアップ

セットアップ中に入力する項目について

Windowsのセットアップ中に入力する項目の中で、特に注意が必要な項目について記載しています。入力の際に参考にしてください。

- コンピュータ名

  「コンピュータ名」は、本機をネットワークに接続して使用する場合などに必要です。セットアップ時は、すでに任意のコンピュータ名が入力されています。

  ＜ネットワークに接続しない場合＞

  セットアップ時にコンピュータ名を変更する必要はありません。

  ＜ネットワークに接続する場合＞

  ネットワーク上にあるほかのコンピュータ名と重複しないように、コンピュータ名を入力します。

- パスワード（Windows XP Professionalのみ）

  本機を個人で使用/管理する場合は、任意のパスワードを設定します（設定しなくても問題はありません）。企業などで、使用者とは別に本機を管理する方がいる場合は、管理者の指示に従って入力します。

  このパスワードは、「Administrator」（アカウント）のパスワードです。「Administrator」（アカウント）でログオンする際に、このパスワードを入力しログオンします。

  パスワードを設定した場合は、絶対に忘れないようにしてください。

- ユーザー名

  ユーザー名は少なくとも1つ入力します。本機を何人かで共同で使用する場合は、ユーザー名をいくつか入力すると、Windowsをユーザーごとに切り替えて、各ユーザーの構成で使用することができます。

参考

「Administrator」（アカウント）について

「Administrator」（アカウント）とは、すべての機能にアクセスできるシステム管理用のユーザーアカウント権限のことです。

Windows XPのセットアップ

電源を入れた後、しばらくすると自動的に「Windows XPセットアップ」画面が表示されます。画面の指示に従って、セットアップを行ってください。
セットアップの流れは、次のとおりです。

Microsoft Windowsへようこそ

セットアップを続行するには、［次へ］をクリックします。

↓

使用許諾契約

画面に表示された契約内容に同意するかしないかを設定します。
※「同意しません」を選択するとWindowsのセットアップが中止されます。

↓

コンピュータ名

「このコンピュータの名前」にコンピュータ名を入力します。
p.44「セットアップ中に入力する項目について」

↓

パスワードの設定

Windows XP Professionalをお使いの場合は、Administratorのパスワードを入力します。
p.44「セットアップ中に入力する項目について」

↓

インターネットへの接続

ここでは接続を行いませんので、［省略］をクリックします。

↓

ユーザー登録

「いいえ、今回はユーザー登録しません」を選択し、［次へ］をクリックします。
このユーザー登録は、Microsoft社からWindowsに関するサポートを受けるためのものではありません。本機のサポートは当社で行っていますので、ユーザー登録の必要はありません。

↓

コンピュータを使用するユーザーの指定

ここで入力するユーザー名には、コンピュータの管理者と同等の権限が与えられます。少なくともユーザー名を1つ入力してください。
p.44「セットアップ中に入力する項目について」

↓

セットアップの完了

［完了］をクリックすると、自動的にWindowsが再起動します。

↓

デスクトップ画面の表示

Windowsが再起動すると、Windowsのデスクトップ画面が表示されます。

セットアップの際にユーザー名を2つ以上入力した場合は、Windowsの再起動後に「ようこそ」画面が表示されます。使用するユーザー名をクリックすると、デスクトップ画面が表示されます。



＜壁紙は予告なく変更する場合があります＞

これでWindows XPのセットアップは完了です。
続いて、初期設定ツールでソフトウェアのインストールなどを行います。

p.47 「初期設定ツール」

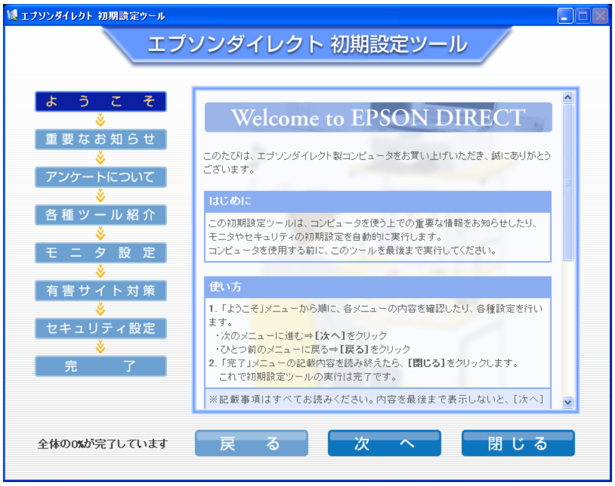
参考

ユーザー登録とライセンス認証（アクティベーション）

- セットアップ中にスキップしたユーザー登録を行う場合は、［スタート］－「ファイル名を指定して実行」－「REGWIZ □/R」（□はスペース）を実行します。ウィザード画面の指示に従ってください。
- 当社より提供されたWindows XP（購入時にコンピュータにインストールされているものや、「Windows XPリカバリCD」より再インストールを行ったもの）は、ライセンス認証を行う必要はありません。

▶初期設定ツール

Windowsのセットアップが完了すると、「初期設定ツール」が自動的に起動します。初期設定ツールは、本機を使用する前に必要な設定を行ったり、ソフトウェアをインストールしたりするためのツールです。画面の指示に従って設定を行ってください。



＜イメージ＞

「有害サイト対策」画面

「有害サイト対策」画面では、本機に標準添付の「i−フィルター 30日版」をインストールします。次回Windowsを起動したときに「i−フィルター…」画面が表示されたら、セットアップを行ってください。

p.214 「i−フィルター 30日版のセットアップ」

i−フィルター 30日版の使用方法は、p.155「i−フィルター 30日版を使う」をご覧ください。

本機購入時に、Webフィルタリングソフトウェアの製品版（オプション）を購入された場合は、画面の指示に従って製品版をインストールしてください。

「セキュリティ設定」画面

「セキュリティ設定」画面では、次のソフトウェアをインストールします。

- **Norton Internet Security 90日版**

  本機に標準添付の「Norton Internet Security 90日版」をインストールします。
  Norton Internet Security 90日版の使用方法は、『セキュリティソフトウェアをご使用の前に』（別冊）をご覧ください。
  本機購入時に、セキュリティソフトウェアの製品版（オプション）を購入された場合は、画面の指示に従って製品版をインストールしてください。

● マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版
本機に標準添付の「マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版」をインストールします。マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版を使用するには、インストール完了後にユーザー登録を行う必要があります。
p.218 「ユーザー登録」
「マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版」の使用方法は、p.150 「Internet Explorerの便利な追加機能」をご覧ください。

参考

初期設定ツールの起動方法
初期設定ツールが自動的に起動しない場合や、初期設定ツールを再実行したい場合などは、次の方法で起動することができます。
[スタート] ー「すべてのプログラム」ー「初期設定ツール」

セットアップ完了後の作業

Windows のセットアップと初期設定ツールの作業が完了したら、次の作業を行います。

ネットワークに接続する

ネットワーク機能（有線LAN）や、無線LAN機能（無線LAN搭載時のみ）を使用する場合は、ネットワークへの接続を行います。接続を行う際には、ネットワークに関する情報が必要です。お使いのネットワーク機器に添付のマニュアルなどをご覧ください。
p.129 「ネットワーク（有線LAN）を使う」
p.134 「無線LANを使う（無線LAN搭載時のみ）」

FAXモデムの設定

FAXモデムを使用してインターネットへ接続する場合は設定を行います。
p.146 「インターネットに接続するには」
p.158 「FAXモデムを使う」

Windows Updateを行う

はじめてインターネットに接続する場合は、はじめに「Windows Update」を行ってください。「Windows Update」を行うと、本機の状態を診断して、コンピュータウイルスに感染することを防ぐためのプログラムや最新の機能などがインストールされ、Windowsを快適に使用することができるようになります。

購入時、「Windows Update」は定期的に実行されるよう設定されていますが、はじめてインターネットに接続した場合は、手動で「Windows Update」を行ってください。
p.151 「Windows Update」

指紋認証ユーティリティのインストール

指紋認証機能をインストールすると、指紋を登録してパスワードとして使用したり、ファイルを暗号化したりすることができます。購入時には指紋認証ユーティリティはインストールされていません。必要に応じてインストールを行ってください。

p.219「指紋認証ユーティリティのインストール」

Windows使用時の確認事項

「セットアップ完了後の作業」が終わると、Windowsを使用できます。ご使用の前に次の事項を確認してください。

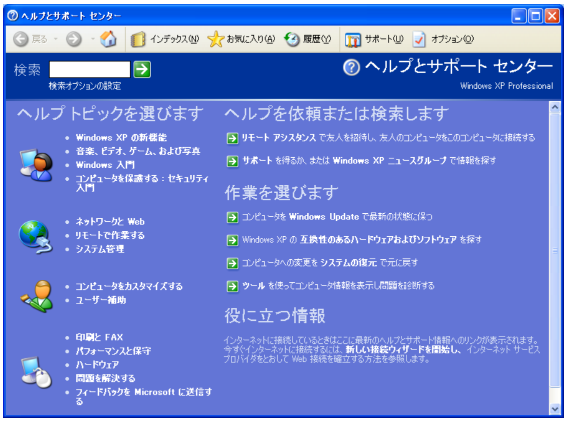
Windows XPの使用方法

Windows XPの使用方法は、次をご覧ください。

● Windowsのヘルプ

「ヘルプとサポート」は次の場所から開きます。

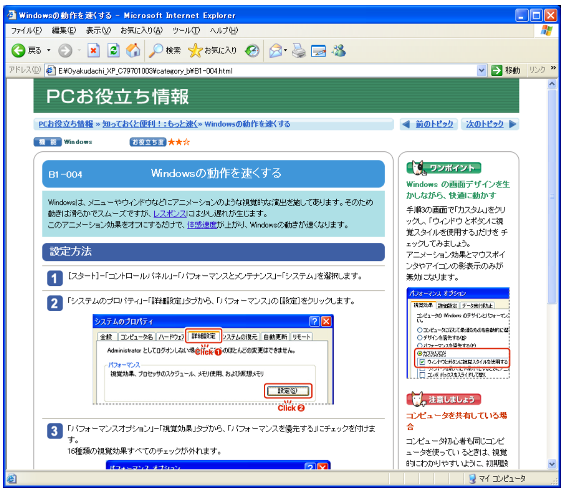
[スタート] －「ヘルプとサポート」



● PCお役立ち情報

「PCお役立ち情報」は「インフォメーションメニュー」から開きます。

p.52 「インフォメーションメニューを使う」



▶2回目以降に電源を入れる

セットアップ終了後の本機に電源を入れる際は、次の点に注意してください。

- **電源が切れていることを電源ランプで確認してから電源を入れる。**

  Windowsが省電力状態に移行すると、本機が動作中でも画面の表示が消えていることがあります。電源を入れるつもりで切ってしまわないように注意してください。

  p.163「省電力機能を使う」

- **電源を入れなおすときは、20秒程度の間隔を空けてから電源を入れる。**

  電気回路に与える電気的な負荷を減らして、HDDなどの動作を安定させます。

- **周辺機器を接続している場合は、周辺機器の電源を先に入れる。**

  本機よりも先に電源を入れておかないと、本機に認識されない機器があります。

制限

USB フラッシュメモリや USB HDD などの USB 記憶装置を接続した状態で電源を入れると、Windows が起動しないことがあります。電源を入れる際は、USB 記憶装置を取り外した状態で行い、Windows 起動後に接続してください。

▶音量の調節

Windows起動時に音が鳴らない、または大きすぎるといった場合には、次の操作で音量を調節します。

キー操作	状　態
Fn ＋ F8	一度押すとミュート（消音）になり、もう一度押すとミュートが解除される。
Fn ＋ F9　▼	音量が小さくなる。
Fn ＋ F10　▲	音量が大きくなる。

インフォメーションメニューを使う

本機には、本機に添付されているマニュアルを見たり、サポートページに簡単にリンクしたりすることができる「インフォメーションメニュー」が搭載されています。

起動方法

「インフォメーションメニュー」は、次の方法で起動します。

- Fn ＋ F4 （ ）を押す。
  p.78 「Fnキーと組み合わせて使うキー」
- デスクトップ上の次のアイコンをダブルクリックする。



「インフォメーションメニュー」が起動すると次の画面が表示されます。



参考

マニュアルびゅーわをご使用の前に

はじめて「マニュアルびゅーわ」からPDFマニュアルを起動する場合に、「使用許諾契約書」画面が表示されたときは「Adobe Reader」のセットアップを行ってください。

p.212 「Adobe Readerのインストール」－「セットアップ」手順2～

インフォメーションメニューの項目

インフォメーションメニューの各項目の内容は次のとおりです。

● マニュアルびゅーわ

本機に添付されている電子マニュアルを閲覧するためのツールです。ユーザーズマニュアル（本書）のHTMLマニュアルや光ディスクドライブのPDFマニュアル、「Nero 7 Essentials」や「WinDVD」などのソフトウェアに添付されているマニュアルを見ることができます。

参考

「警告」が表示された場合は

電子マニュアルを閲覧しようとすると、情報バーと呼ばれるInternet Explorerのアドレスバーの下方に「セキュリティ保護のため、コンピュータにアクセスできるアクティブコンテンツは表示されないよう・・・」と警告が表示される場合があります。

この場合は、情報バーをクリックし、「ブロックされているコンテンツを許可」をクリックしてください。

● PCお役立ち情報

コンピュータに関する便利で役立つ情報や用語集を掲載しています。マニュアルとあわせてご覧になり、コンピュータを使用する際の参考にしてください。

● とらぶる解決ナビ

技術的な情報やトラブルの解決方法を収録しています。本機の調子が悪い場合に、本書の「困ったときに」とあわせてご覧ください。

p.224 「トラブルが発生したら」

● ユーザーサポートページ（Web）

技術的な情報、トラブルの解決方法や保証サービスのご案内などを掲載しています。マニュアルやドライバ、BIOSの最新バージョンもダウンロードできます。

p.263 「電子マニュアルのダウンロード」

「ユーザーサポートページ」を閲覧するには、インターネットへの接続が必要です。

● サポート情報検索（Web）

「とらぶる解決ナビ」に収録されていない最新のサポート情報を掲載しています。「とらぶる解決ナビ」で本機の不具合が解決できなかった場合にご覧ください。

「サポート情報検索」を閲覧するには、インターネットへの接続が必要です。

- トラブルが解決しなかったら
  技術的なご質問や修理依頼などの問い合わせ先、メールサポートの方法などを掲載しています。マニュアルや当社のユーザーサポートページを参照しても、トラブルが解決しない場合にご覧ください。

▶復元ポイントを作成する

Windowsの「システムの復元」機能で「復元ポイント」を作成しておくと、本機の動作が不安定になった場合、システムの復元機能を使用して、作成しておいた復元ポイントまでシステムの状態を戻すことができます。
通常、復元ポイントはソフトウェアのインストールなどを行った際に自動的に作成されますが、手動で作成しておくこともできます。
p.254 「復元ポイントを手動で作成する」

▶セキュリティ対策を行う

本機には、外部と接続することで高まる危険から、本機を守るためのセキュリティ機能が搭載されています。
インターネットに接続する場合は、セキュリティ対策を行ってください。
p.151 「インターネットを使用する際のセキュリティ対策」

▶画面表示が消えたときは（省電力機能）

本機は、一定時間タッチパッドやキーボードの操作をしないと、省電力機能が働いて画面表示が消えるように設定されています。画面表示が消えて、本機の電源ランプが点滅している場合は、スタンバイになっています（購入時の設定）。この場合は、電源スイッチを押すと元に戻ります。
p.167 「省電力状態から復帰する」

▶Windows CD-ROMを要求されたときは

本体ドライバをインストールしたり、周辺機器を接続したりするときに「Windows CD-ROM」を要求されることがあります。このような場合は、添付の「Windows XPリカバリCD」をセットしてください。

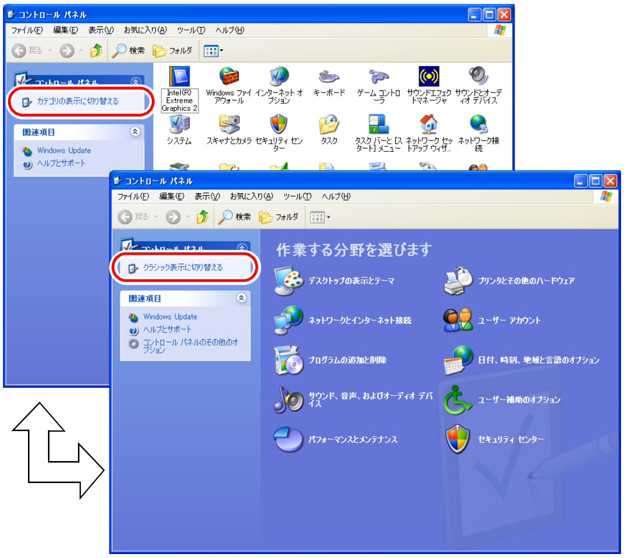
▶コントロールパネルの表示

コントロールパネルの表示には、次の2種類があります。

- ●「カテゴリの表示」：項目をカテゴリごとにまとめて表示します（初期設定）。
- ●「クラシック表示」：項目をすべて表示します。

表示の切り替えは、画面左側にある、「クラシック表示に切り替える」、「カテゴリの表示に切り替える」をクリックして行います。
本書では、「カテゴリの表示」形式を前提に記載しています。

＜クラシック表示＞



＜カテゴリの表示＞

電源の切り方

ここでは、電源の切り方について説明します。

制限

- 電源を切って、もう一度入れる場合には、電源を入れるときに電気回路に与える電気的な負荷を減らし、HDDなどの動作を安定させるために、20秒程度の間隔を空けてください。
- アクセスランプ点灯・点滅中に本機の電源を切ると、収録されているデータが破損するおそれがあります。
- 本機は、電源を切っていても、バッテリパックが装着されていたり、電源プラグがコンセントに接続されていると、微少な電流が流れています。本機の電源を完全に切るには、電源プラグをコンセントから抜いて、バッテリパックを取り外してください。

▶Windowsの終了と電源の切り方

電源を切るときは、必ずWindowsを終了させてから電源を切ります。

1 **［スタート］－［終了オプション］をクリックします。**

2 **「コンピュータの電源を切る」画面で［電源を切る］をクリックします。**

Windowsが終了し、自動的に電源が切れます。

3 **接続している周辺機器の電源を切ります。**

Windows終了時の注意

Windowsを複数のユーザーが使用している状態でWindowsを終了しようとすると、「ほかの人がこのコンピュータにログオンしています。…」と画面に表示されます。この場合は［いいえ］をクリックし、ログオンしているすべてのユーザーをログオフしてから、Windowsを終了してください。

▶再起動

電源が入っている状態で、コンピュータを起動しなおすことを「再起動」と言います。

Windowsの再起動方法

Windowsの再起動方法は次のとおりです。

1 **［スタート］－「終了オプション」－「再起動」をクリックします。**

次のような場合には、Windowsを再起動する必要があります。

- 使用しているソフトウェアで指示があった場合
- Windowsの動作が不安定になった場合

再起動しても状態が改善されない場合は、本機の電源を切り、しばらくしてから電源を入れてみてください。

▶ハングアップしたときは

ソフトウェアやWindowsがキーボードやタッチパッドからの入力を受け付けず、何も反応しなくなった状態を「ハングアップ」と言います。
ハングアップした場合は、ソフトウェアの強制終了を行います。ソフトウェアの強制終了をしても状態が改善されない場合は、強制的に本機の電源を切ります。

ソフトウェアの強制終了

ソフトウェアの強制終了方法は、次のとおりです。

1 **Ctrl＋Alt＋Deleteを押し､｢Windows タスクマネージャ｣を起動します。**

2 **「アプリケーション」タブからハングアップしているソフトウェアを選択して［タスクの終了］をクリックします。**

3 **｢プログラムの終了｣画面が表示されたら､［すぐに終了］をクリックします。**

強制的に電源を切る

Ctrl＋Alt＋Deleteを押しても反応がない場合は、強制的に本機の電源を切ります。
強制的に本機の電源を切る方法は、次のとおりです。

1 **本機の電源スイッチ（⏻）を5秒以上押し続けます。**

本機の電源が切れます。

第2章
コンピュータの基本操作

キーボードやタッチパッド、光ディスクドライブの使い方など、本機の基本的な操作方法について説明します。

ACアダプタ/バッテリパックを使う

本機はACアダプタまたはバッテリパックで使用することができます。
ACアダプタの接続方法は、p.39 「ACアダプタを接続する」をご覧ください。
バッテリパック（以降、バッテリ）は着脱可能な充電式の電池です。本機では、リチウムイオン（Li-ion）バッテリを使用しています。
複数のバッテリを交互に使用したい場合などは、オプションのバッテリを購入できます。
p.62 「バッテリの種類」

使用時の注意

警告

- バッテリパックを、指定以外の方法で充電しないでください。
  発熱や発火、液漏れによる被害の原因となります。
- 本体や付属のバッテリパックなどを火中に入れたり、加熱したりしないでください。破裂などで火傷の原因となります。
- バッテリパックの端子をショートさせないでください。
  火傷の原因となります。
- 付属のACアダプタやバッテリパックを、分解・改造しないでください。
  また､本機には、指定以外のACアダプタやバッテリパックを使用しないでください。感電や火傷、化学物質による被害の原因となります。
  当社指定以外のACアダプタやバッテリパック、または分解・改造したACアダプタやバッテリパック（当社での修理対応は除く）での本機の使用は、安全性や製品に関する保証ができません。
- 小さなお子様の手の届く場所にバッテリパックを保管しないでください。
  なめたりすると火傷や、化学物質による被害の原因となります。
- バッテリパックには、落下など、強い衝撃を与えないでください。
  破裂や液漏れにより、火傷や化学物質による被害の原因となります。

注意

- 付属のACアダプタやバッテリパックは本機以外には使用しないでください。
  火傷・火災の危険があります。
- ACアダプタを毛布や布団で覆わないでください。
  火傷・火災の危険があります。
- 破損したACアダプタやバッテリパックを使用しないでください。
  火傷・火災の危険があります。
  万一、本機の落下などで強い振動や衝撃が加わり、バッテリパックが破損したり、変形したりした場合は、本機の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、本機からバッテリパックを取り外してください。
  そのまま使用を続けると、発熱・発火・破裂の恐れがあります。
- ひざの上で長時間使用しないでください。
  バッテリパックの熱で本機底面が熱くなり、低温火傷の原因となります。
- ACアダプタの温度の高い部分に、長時間触れないでください。
  低温火傷の原因となります。

ACアダプタやバッテリを使用する際は、次の注意事項を確認して正しくお使いください。

● ACアダプタを使用するとき

- ACアダプタを長時間接続して使用すると、ACアダプタ本体が少し熱を持ちますが、故障ではありません。
- ACアダプタは頻繁に抜き差ししないでください。
- ACアダプタを接続して使用するときも、バッテリは必ずセットしてください。

● バッテリを取り付けて使用するとき

- 省電力状態のまま長時間使用しない場合は、完全放電しないように気をつけてください。省電力状態でも電力が消費されています。
  p.163 「省電力機能を使う」
- バッテリだけで使用しているときに、動画再生時にコマ落ちしたり、ソフトウェアの動作が遅くなったりする可能性があります。このような場合には、省電力状態に移行しないように設定してください。
  p.166 「時間経過で移行させない」

● バッテリを長期間使用しないとき

- 長期間使用していない場合は、バッテリが完全放電している可能性があります。バッテリだけで本機を使用するときは必ず充電してから使用してください。
- バッテリを長期間充電しないと、過放電になる可能性があります。予防のために定期的に充電をしてください。
  p.70 「バッテリ保管上の注意」

参考

低温環境でのバッテリ性能

低温の環境では、バッテリの性能が低下します。これは一時的なものであり、常温の環境に戻すと性能が回復します。

バッテリの種類

本機で利用できるバッテリは、次の3種類です。

- 軽量バッテリ
- 標準バッテリ
- 長時間バッテリ

バッテリを購入される場合は、当社ホームページのオプション一覧より本機専用のバッテリを選択してください。
当社ホームページのアドレスは、次のとおりです。

http://epsondirect.jp

使用可能時間

バッテリだけで使用できる時間は次のとおりです。ただし本機のシステム構成、使用環境や状態などによって変化します。

バッテリの種類	使用可能時間*（満充電の場合）		
	Core 2 Duo搭載時	Core 2 Solo搭載時	Celeron M搭載時
軽量バッテリ（5200mAh）	連続約5.3時間	連続約5.8時間	連続約5.2時間
標準バッテリ（7800mAh）	連続約8.3時間	連続約8.9時間	連続約7.9時間
長時間バッテリ（13000mAh）	連続約13.3時間	連続約14.5時間	連続約12.9時間

*JEITA（電子情報技術産業協会）の測定方法Ver1.0に基づいています。

使用可能時間を延ばす

バッテリだけで使用している場合は、使用可能時間が制限されます。本機では、次の方法で使用可能時間を延ばすことができます。

- **省電力状態に移行する**
  本機を一定期間操作していないときに省電力状態に移行して、消費電力を抑えます。
  p.163 「省電力機能を使う」
- **光ディスクドライブの電源を切る**
  光ディスクドライブを使用しないときに、光ディスクドライブの電源を切ることができます。
  p.85 「光ディスクドライブのON/OFF」

▶バッテリの充電

ACアダプタが接続されているときは、本機の電源が入/切どちらの状態でも自動的に充電が行われます。
バッテリが満充電状態になったあと、本機を使用しない場合は安全のためにACアダプタを外しておきます。

バッテリ充電ランプの表示

バッテリ充電ランプ（　）の表示は、次のとおりです。

充電状態	ランプの表示
残量少	点滅（オレンジ色）
充電中	点灯（オレンジ色）
満充電	消灯

充電時間

低バッテリ状態からバッテリの充電完了までの時間は、次のとおりです。

バッテリの種類	コンピュータの動作状態	
	電源切断時	電源が入っている状態
軽量バッテリ	約3.0時間	約3.0時間*
標準バッテリ	約3.5時間	約3.5時間*
長時間バッテリ	約5.0時間	約5.0時間*

*コンピュータの使用状況により差があります。

参考

温度条件について

バッテリは、化学反応を利用した電池です。このため、温度条件によっては正常な充電ができない場合があります。
温度が10〜30℃の環境で充電すると、最も効率のよい充電ができます。

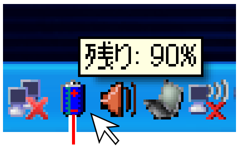
バッテリ残量の確認

制限

バッテリの特性上、残量が正しく表示されないことがあります。
p.67 「バッテリ残量が正しく表示されないときは」

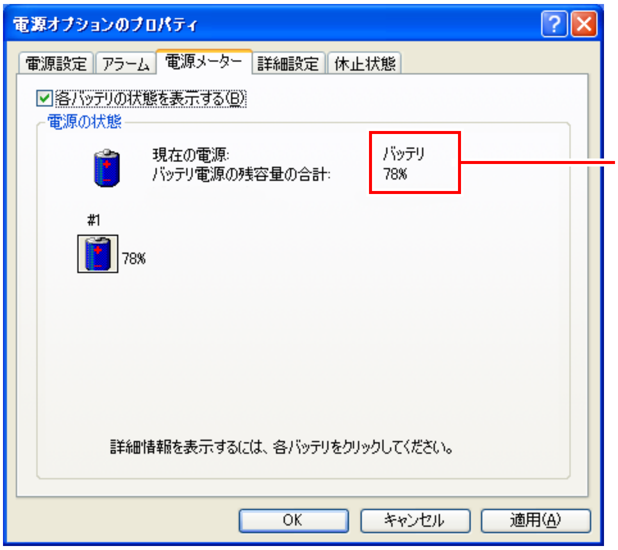
本機をバッテリだけで使用している場合、次の2通りの方法でバッテリ残量を確認することができます。

- 通知領域の「バッテリ」アイコンの上にポインタをあわせる



- プロパティ画面を開いて確認する

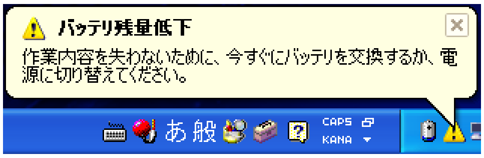
[スタート] −「コントロールパネル」−「パフォーマンスとメンテナンス」−「電源オプション」−「電源メーター」タブ



バッテリ残量が少なくなったら

低バッテリの通知

バッテリ残量が少なくなると、本機は次のように通知（警告）します。



バッテリ低下やバッテリ切れを通知する設定は、p.66「バッテリアラームの設定」で変更することができます。

対処方法

バッテリ低下のアラームが通知されたら、直ちに次のいずれかの処置を行ってください。完全放電してシャットダウン（電源切断）してしまうと、保存していないデータはすべて失われます。

● ACアダプタを接続する

電源を入れたままACアダプタを接続します。バッテリ充電ランプ（　）が点灯します。

● 電源を切る

作業中のデータをHDDなどに保存して、実行中のソフトウェアを終了させたあと、本機の電源を切ります。

交換用のバッテリがある場合も、必ず電源を切ってからバッテリを交換してください。

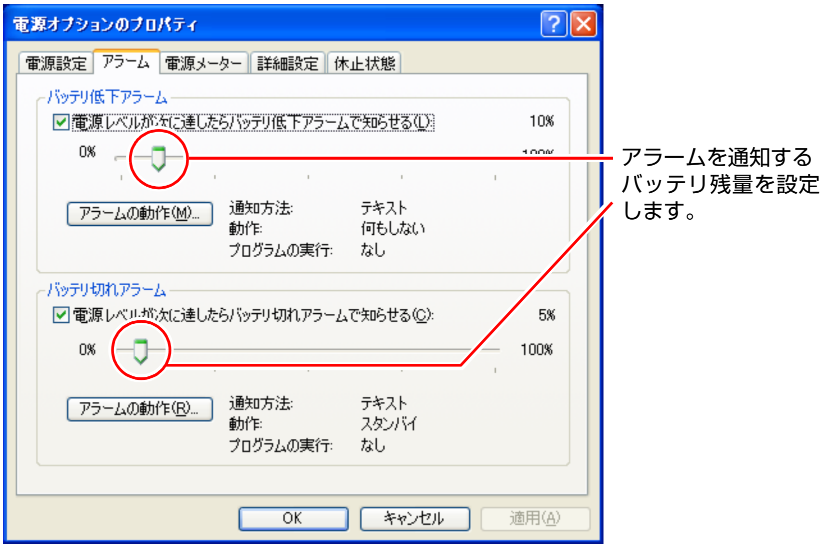
制限

AC アダプタを接続しない場合は、直ちに作業中のデータを保存してください。コンピュータがシャットダウンしてしまうと、保存していないデータはすべて失われます。

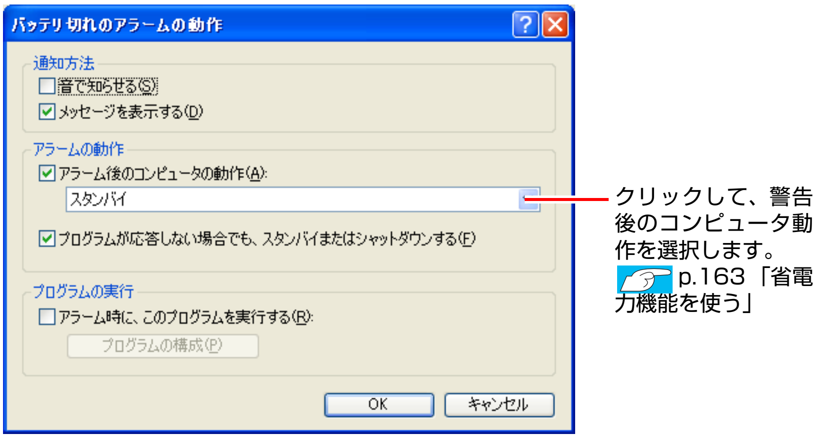
バッテリアラームの設定

バッテリ残量が低下したときの通知方法を次のプロパティ画面から変更できます。

[スタート]－「コントロールパネル」－「パフォーマンスとメンテナンス」－「電源オプション」－「アラーム」タブ



［アラームの動作］をクリックすると、下記の画面が表示されます。バッテリ低下やバッテリ切れのアラームの動作を設定できます。



p.163「省電力機能を使う」

▶バッテリ残量が正しく表示されないときは

バッテリの特性上、充電を繰り返すと、残量が正しく表示されなくなることがあります。
満充電にしてもバッテリ容量がすぐに低下するような場合は、バッテリのリフレッシュを行ってみてください。

バッテリのリフレッシュ方法

バッテリのリフレッシュは、次の手順で行います。
バッテリのリフレッシュには数時間かかります。

1 **AC アダプタが接続されていることを確認します。**

2 **本機の電源を入れて、F2 を押し、「BIOS Setup ユーティリティ」を起動します。**

p.181 「BIOS Setupユーティリティの起動」

3 **「Power」メニュー画面－「Start Battery Calibration」を選択し、↵ を押すと「Battery Calibration Utility」が起動します。**

4 **画面のメッセージの最終行に「It is charging the battery, please wait」と表示されたら、バッテリの充電が開始されます。**

バッテリを完全に充電するには、軽量バッテリでは最大約3.0時間、標準バッテリでは最大約3.5時間、長時間バッテリでは最大約5.0時間かかります。
途中で中止したい場合は、電源スイッチを押して本機の電源を切ります。

5 **バッテリが完全に充電され、画面のメッセージの最終行に「Please remove AC adapter.」と表示されたら、AC アダプタを抜いてそのまま放置します。**

画面のメッセージの最終行に「PLEASE LEAVE THE BATTERY RUNNING OUT OF POWER.」と表示されて、バッテリの放電が開始されます。
バッテリを完全に放電するには、軽量バッテリでは約3.0時間、標準バッテリでは約4.5時間、長時間バッテリでは約8.0時間かかります。
途中で中止したい場合は、電源スイッチを押して本機の電源を切ります。

6 **バッテリの放電が完了すると、自動的に電源が切れます。**

これでバッテリのリフレッシュは完了です。
バッテリの充電をする場合は、AC アダプタを接続してください。

リフレッシュしても改善されないときは

バッテリは、消耗品です。バッテリリフレッシュを行って満充電にしても、バッテリ容量がすぐに低下する場合は、バッテリの寿命が考えられます。
当社純正の新しいバッテリに交換してください。

バッテリの寿命を延ばすには

バッテリは消耗品ですが、バッテリの寿命は、使い方や使用環境によって大きく変わります。
バッテリの劣化を抑え、使用可能時間や寿命を延ばすため、次の事項に注意してください。

- 高温の環境では、バッテリの劣化が早まります。本機やバッテリを、炎天下の自動車の中や暖房機の近くなどで使用したり、放置したりしないでください。
- 本機を使用する、使用しないにかかわらず、常時ACアダプタを接続していると、バッテリの劣化が早まります。1ヶ月に1回程度は本機からACアダプタを外して、バッテリの残量が10%程度になるまでバッテリのみで使用することをおすすめします。
- 1ヶ月以上本機を使用しないときは、本機からバッテリを取り外して保管してください。

p.70 「バッテリ保管上の注意」

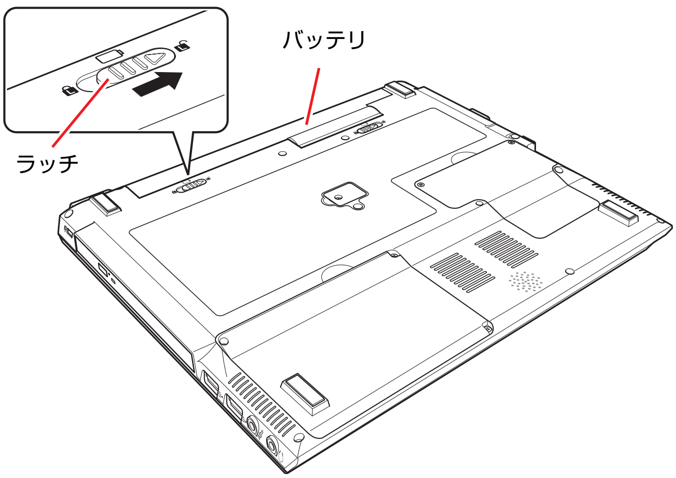
バッテリの交換

複数のバッテリを交互に使用する場合や、バッテリが寿命に達した場合は、バッテリを交換します。
ここでは、軽量バッテリを交換する手順について説明します。
標準バッテリや長時間バッテリの場合、形状は異なりますが手順は同様です。

1 **本機の電源を切ります。ACアダプタが接続されている場合は外します。**

2 **本機の底面部を上にして置きます。**

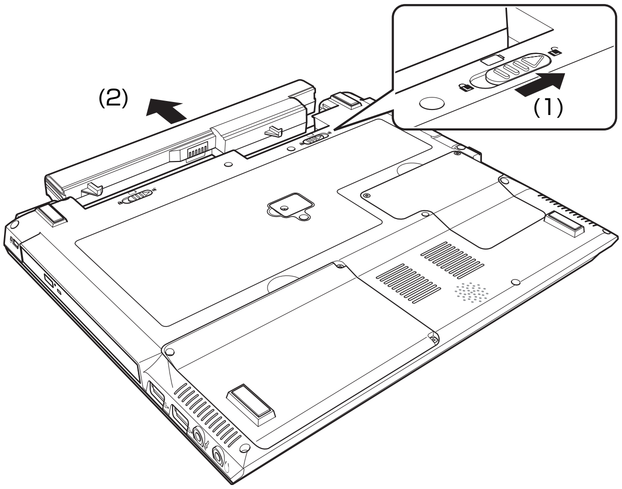
3 **左側のラッチをロック解除位置（🔓）までスライドさせます。**



4 **バッテリを取り外します。**

(1) 右側のラッチをロック解除位置（🔓）までスライドさせ、そのままロック解除位置（🔓）で固定します。

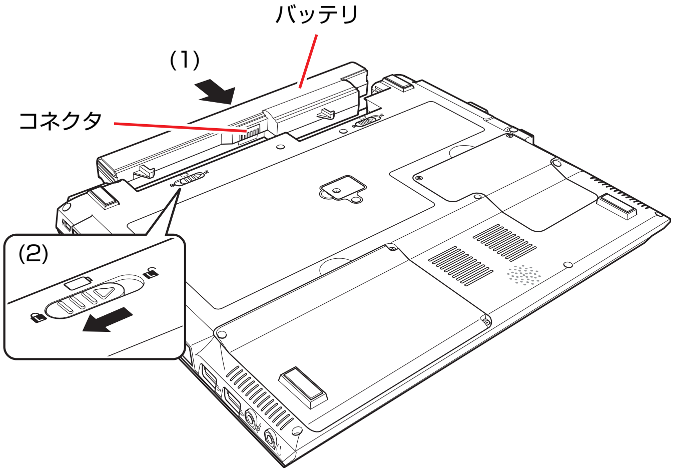
(2) バッテリを矢印の方向にスライドさせます。



5 **新しいバッテリを本機にあわせます。**

(1) バッテリを矢印の方向に「カチッ」と音がするまで押し込みます。

(2) 左側のラッチをロック位置（🔒）までスライドさせます。



バッテリ保管上の注意

警告

小さなお子様の手の届く場所にバッテリを保管しないでください。
なめたりすると、火傷や化学物質による被害の原因となります。

バッテリを保管するときは、次の事項を守ってください。

- 液漏れや端子部の腐食を防ぐため、必ずコンピュータ本体から取り外してください。
- 端子部のショートを防ぐため、布やビニールなどの絶縁物に包んでください。
- 高温環境での保管は劣化を早めます。乾燥した冷暗所で保管してください。
- 満充電状態での保管は劣化を早めます。バッテリ残量は50%程度にして保管してください。
- バッテリに蓄えられた電気は、自己放電により徐々になくなります。バッテリの残量がなくなり過放電状態になると、コンピュータに装着しても充電できなくなることがあります。
  自己放電による過放電を防ぐため、定期的（半年に1回程度）にバッテリ残量を50%程度まで充電することをおすすめします。

使用済みバッテリの取り扱い

Li-ion

使用済みのリチウムイオン（Li-ion）バッテリは、再利用可能な貴重な資源です。有効資源のリサイクルにご協力ください。

バッテリリサイクル時の注意

使用済みのバッテリは、バッテリがショートしないように、端子部にテープを貼るかポリ袋などに入れてリサイクル協力店にある充電式電池回収ボックスに入れてください。
不要なバッテリは、燃やしたり埋めたり一般ゴミに混ぜて捨てたりしないでください。環境破壊の原因となります。

タッチパッドを使う

本機には、タッチパッドが装備されています。タッチパッドは、マウスと同じようにポインタなどを操作したりクリックしたりするための装置です。

▶タッチパッドの操作

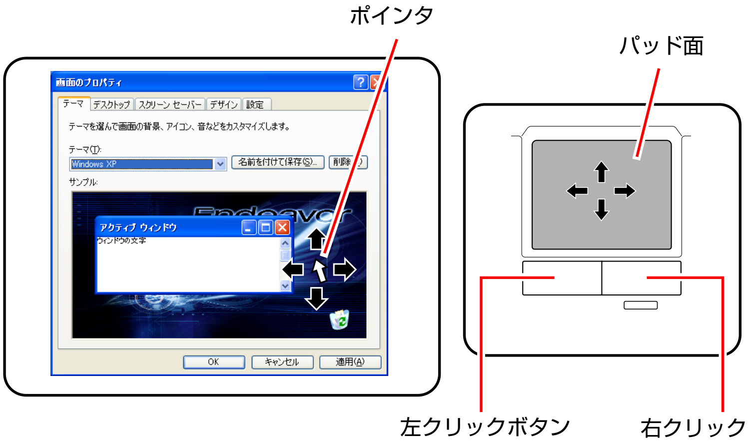
タッチパッド使用時の注意

タッチパッドを使用する際は、次の注意事項を確認して正しくお使いください。

- パッド面には指で触れてください。ペンなどで触れると、ポインタの操作ができないだけでなく、パッド面が破損するおそれがあります。
- パッド面は、1 本の指で操作してください。一度に 2 本以上の指で操作すると、ポインタが正常に動作しません。
- 手がぬれていたり、汗ばんでいると、ポインタの操作が正しくできないことがあります。
- キーボードを操作しているときにパッド面に手が触れると、ポインタが移動してしまうことがあります。
- 起動時の温度や湿度により、正常に動作しない場合があります。この場合は電源を一度切って入れなおすことにより正常に動作することがあります。
- 電源を入れたまま LCD ユニットを閉じていたり、使用中に本機の温度が上がってくると、正常に動作しない場合があります。この場合は、電源を一度切って入れなおすことにより正常に動作することがあります。

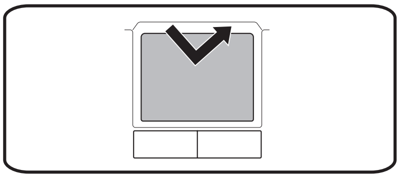
ポインタの移動

タッチパッドは、パッド面とクリックボタンから構成されています。人差し指をパッド面の上で前後左右に動かすと、動かした方向に画面上のポインタが移動します。



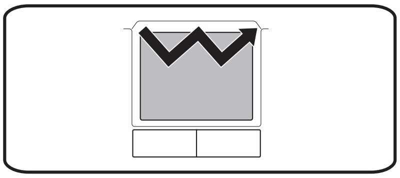
クリック

ポインタを画面上の対象にあわせて、パッド面を軽く1回たたきます。
左クリックボタンを「カチッ」と押すのと同じ操作です。



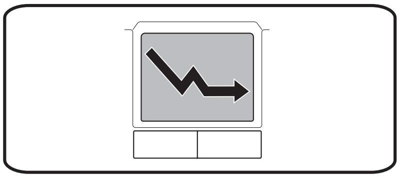
ダブルクリック

ポインタを画面上の対象にあわせて、パッド面を軽く2回たたきます。
左クリックボタンを「カチカチッ」と2回押すのと同じ操作です。



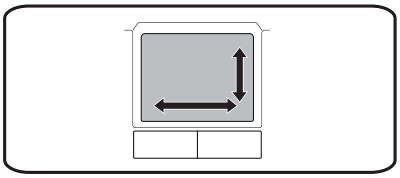
ドラッグアンドドロップ

ポインタを画面上の対象にあわせて、ダブルクリックの2回目のクリック時に、指をパッド面に触れたまま移動させます。
左クリックボタンを押したままの状態でポインタを移動し、離すのと同じ操作です。



スクロール

上下のスクロールは、パッドの右端に指を触れて前後に動かします。左右のスクロールは、パッドの下部に指を触れて左右に動かします。

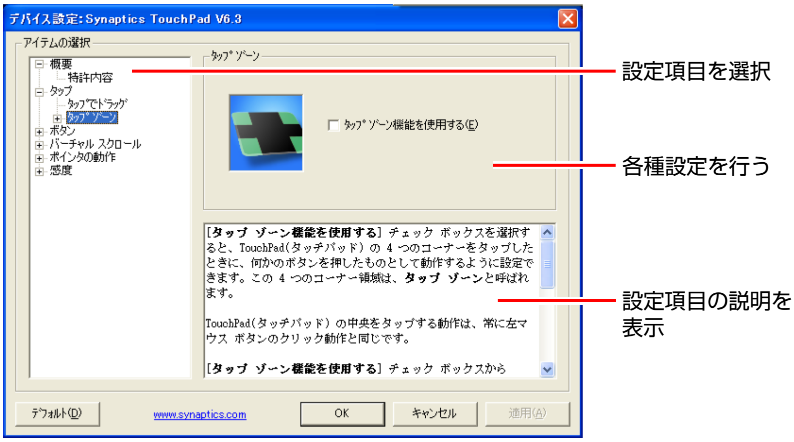


▶タッチパッドユーティリティを使う

タッチパッドユーティリティで各種設定を行うと、タッチパッドがより操作しやすくなります。
タッチパッドユーティリティの各種設定は、次の場所から実行します。

［スタート］－「コントロールパネル」－「ハードウェアとサウンド」－「マウス」

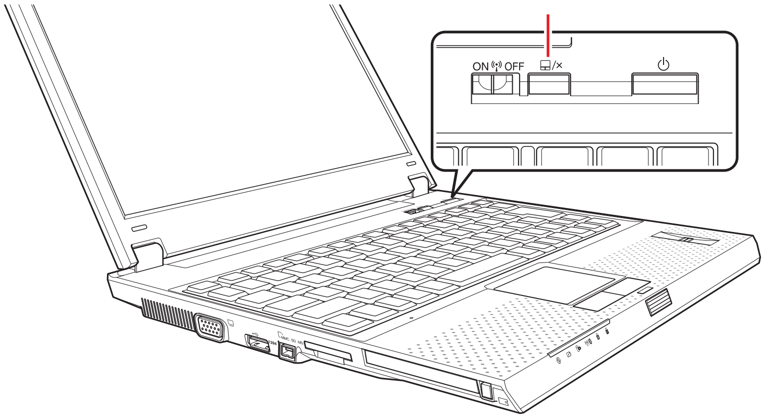
「マウスのプロパティ」画面の「デバイス設定」タブをクリックして、［設定］をクリックすると、次の画面が表示されます。



タッチパッド機能を無効にする

本機では、タッチパッド機能を無効にすることができます。
キーボード入力を行うときに、手がタッチパッドにあたってポインタが動いてしまい、入力がしにくい場合があります。このような場合は、タッチパッド機能を一時的に無効にすると便利です。
タッチパッド機能の有効/無効の切り替えは、タッチパッドボタン（⊟/×）で行います。
ボタンを押すたびに、タッチパッドの有効/無効が切り替わります。

タッチパッドボタン



USBマウス（オプション）の接続

本機右側面および左側面のUSBコネクタ（ ）にオプションのUSBマウスを接続して使うことができます。詳しくは、マウスに添付のマニュアルをご覧ください。

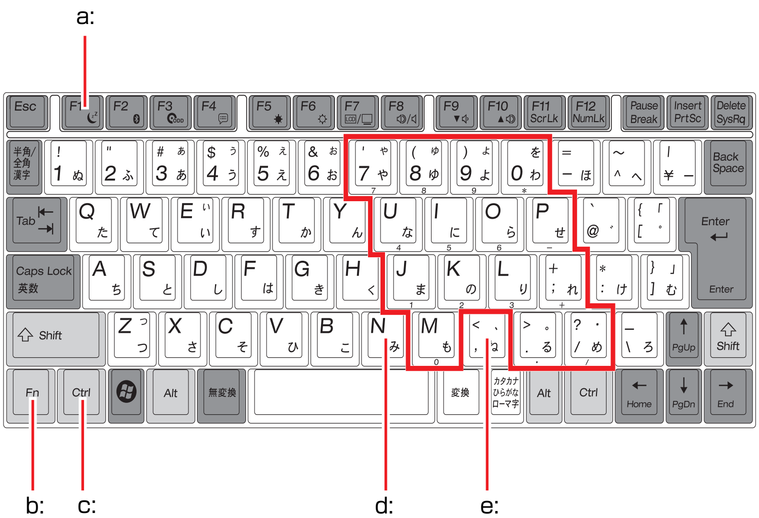
キーボードを使う

本機には、日本語対応85キーボードが標準で搭載されています。

キーの種類と役割

入力キー

85個のキーには、それぞれ異なった機能が割り当てられています。
購入時にローマ字キーボードを選択された場合、キートップ（キーの上面）にひらがなの印字はありませんが、基本的な機能は同じです。



a: **機能キー**
文字を消す、入力位置を変えるなど、特別な役割が割り当てられたキーです。機能キーの役割は、ソフトウェアによって異なります。

b: **Fnキー**
制御キーの1つです。
キートップに青色で印字されている機能キーと組み合わせて使用します。

p.78「Fnキーと組み合わせて使うキー」

c: **制御キー**
文字キーや機能キーの働きを変化させます。単独では機能しません。

d: **文字キー**
英数字や記号の入力、日本語入力システムを利用して漢字やひらがななどの日本語を入力します。

e: **数値キー**
文字キーの一部を数値キーとして使用し、数字・演算子などを入力します。Fn ＋ NumLk を押して数値キーと文字キーを切り替えます。

p.77「数値キー入力モード」

文字を入力するには

文字キーを押すとキートップ（キーの上面）に印字された文字が入力されます。入力モードによって入力される文字は異なります。

直接入力モード		キートップのアルファベットをそのまま入力します。
日本語入力モード	ローマ字入力	キートップのアルファベットでローマ字を入力し、漢字やひらがななどに変換します。
	かな入力	キートップのひらがなをそのまま入力し、漢字やカタカナに変換します。

入力モードの切り替え

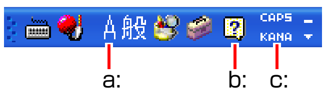
半角/全角を押すと、直接入力モードと日本語入力モードを切り替えることができます。
日本語入力モードのローマ字入力とかな入力の設定は日本語入力システムで行います。

日本語を入力するには

ひらがなや、漢字などの日本語の入力は、日本語入力システムを使用します。本機には、日本語入力システム「MS-IME」が標準で搭載されています。

MS-IMEの使い方

MS-IMEパネルの主要なボタンの名称と働きは次のとおりです。ボタンをクリックして各設定を行ったり、ヘルプを参照したりします。



a: 入力モード
　入力モード（ひらがな、カタカナ、英数字など）を選択します。

b: ヘルプ
　日本語入力の詳しい説明を見ることができます。

c: かなキーロック
　日本語入力モードの切り替えを行います。
　ボタンが押されていない状態：ローマ字入力
　ボタンが押されている状態：かな入力

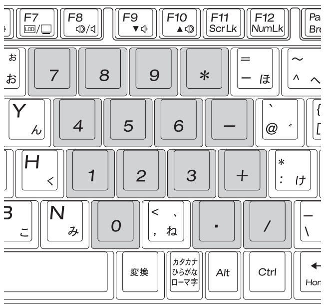
MS-IME以外の日本語入力システムを使用する場合は、そのシステムに添付されているマニュアルをご覧ください。

▶数値やアルファベットの入力

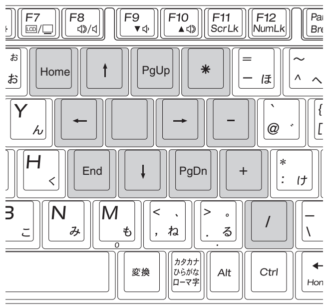
数値キー入力モード

Fn ＋ NumLk を押すと、NumLockランプ（🔒）が点灯して、文字キーの一部が数値キーとして使用できます。さらに Shift を押しながら数値キーを押すと、矢印キーなどとして使用できます。

数値キー



Shift を押したとき



アルファベットの入力

アルファベットの入力を大文字または小文字に固定することができます。固定する文字の切り替えは、次のキー操作で行います。
Shift ＋ Caps Lock

大文字に固定した状態のまま小文字を入力するには、Shift を押しながら文字を入力します。
固定する文字を切り替える場合は、Shift を押した状態でもう一度 Caps Lock を押します。

▶Fnキーと組み合わせて使うキー

キートップに青色で印字されている機能キーは、Fn と組み合わせて実行します。

キーの組み合わせ	機　能
Fn ＋ F1	省電力状態（購入時の設定はスタンバイ）に移行します。 p.163 「省電力機能を使う」
Fn ＋ F2	Bluetooth機能のON/OFFを切り替えます。 p.103 「Bluetooth機能のON/OFF」
Fn ＋ F3 ODD	光ディスクドライブのON/OFFを切り替えます。 p.85 「光ディスクドライブのON/OFF」
Fn ＋ F4	インフォメーションメニューを起動します。 p.52 「インフォメーションメニューを使う」
Fn ＋ F5	LCD画面を暗くします。 p.109 「LCDユニットの設定」
Fn ＋ F6	LCD画面を明るくします。 p.109 「LCDユニットの設定」
Fn ＋ F7 LCD/	表示装置（外付けディスプレイとLCD画面）を切り替えます。 p.114 「画面を切り替えるには」
Fn ＋ F8	スピーカのミュート（消音）のON/OFFを切り替えます。 p.118 「音量の調節」
Fn ＋ F9 ▼	スピーカの音量を小さくします。 p.118 「音量の調節」
Fn ＋ F10 ▲	スピーカの音量を大きくします。 p.118 「音量の調節」
Fn ＋ ScrLk	ソフトウェアによって機能が異なります。詳しくは、ソフトウェアのマニュアルをご覧ください。
Fn ＋ NumLk	数値キー入力モードに切り替えます。 p.77 「数値キー入力モード」
Fn ＋ PrtSc	デスクトップ画面をコピーしてクリップボードに保存します。
Fn ＋ End	行の最後に移動します。*
Fn ＋ Home	行の最初に移動します。*
Fn ＋ PgUp	前のページに移動します。*
Fn ＋ PgDn	次のページに移動します。*

*ソフトウェアによっては、機能が異なる場合があります。

▶入力キーの機能の入れ替え

キーボード左下にある Fn とその隣の Ctrl の機能を入れ替えることができます。



キーの機能を入れ替える場合は、BIOSの設定値を次のように 変更してください。

「Advanced」メニュー画面－「Exchange FN & CTRL key」：Enabled（有効）

購入時は、「Disabled」に設定されています。

p.181 「BIOS Setupユーティリティの操作」

HDDを使う

本機には、HDD（ハードディスクドライブ）が内蔵されています。
HDDは、大容量のデータを高速に記録する記憶装置です。

制限

- HDDのアクセスランプ点灯・点滅中に、本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。アクセスランプ点灯・点滅中は、コンピュータがHDDに対してデータの読み書きを行っています。この処理を中断すると、HDD内部のデータが破損するおそれがあります。
- 本機を落としたり、ぶつけたりしてショックを与えるとHDDが故障するおそれがあります。ショックを与えないように注意してください。また、持ち運ぶときは専用バッグに入れるなどして、保護するようにしてください。
- HDDが故障した場合、HDDのデータを修復することはできません。

データのバックアップ

HDDに記録されている重要なデータは、CDメディアや外付けHDDなどにバックアップしておくことをおすすめします。万一HDDの故障などでデータが消失してしまった場合でも、バックアップを取ってあれば、被害を最小限に抑えることができます。

バックアップ方法は、p.259「データのバックアップ」をご覧ください。

購入時のHDD領域について

購入時のHDDは、お客様の選択により次のように設定されています。

<通常>

ドライブ（領域）	容量
消去禁止領域	約2GB*
Cドライブ	残り

<HDD設定変更サービスを選択された場合>

ドライブ（領域）	容量
消去禁止領域	約2GB*
Cドライブ	購入時に選択された容量
Dドライブ	残り

*消去禁止領域の容量は、コンピュータの製品仕様により異なります。

すべてのドライブはNTFSファイルシステムでフォーマットされています。

参考

HDD設定変更サービス

HDD設定変更サービスとは、購入時にあらかじめHDDの領域をCドライブ、Dドライブに分割した状態でコンピュータをお届けするサービスのことです。

消去禁止領域とは

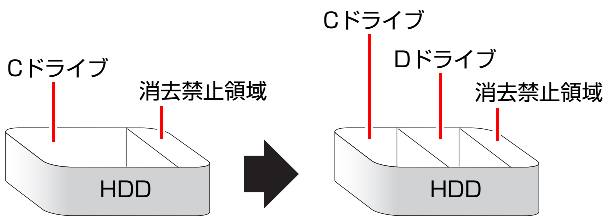
「消去禁止領域」には、本体ドライバやソフトウェアを再インストールするためのデータが登録されています。
この領域は「マイコンピュータ」では表示されませんが、Windowsのインストール時に表示されます。この領域は、絶対に削除しないでください。
削除してしまうと、本体ドライバやソフトウェアのインストールができなくなります。
「消去禁止領域」のデータは、CDにコピー（バックアップ）することもできます。
p.261 「バックアップCDの作成」

HDDを分割して使用する

1台のHDDは、いくつかに分割してそれぞれ別々のドライブとして使用することができます。

<1台のHDDを分割する>

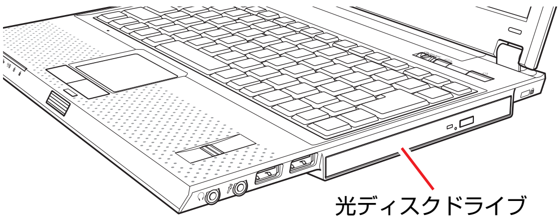
例：1つのHDD領域（Cドライブ）を2つのHDD領域（CドライブとDドライブ）に分割することができます。



Cドライブを分割する場合は、Windowsの再インストールが必要です。
詳しくは、p.267 「Cドライブを分割・変更する」をご覧ください。

光ディスクドライブを使う

光ディスクドライブは、光ディスクメディアを使用するための機器です。購入時に選択された光ディスクドライブにより、機能や使用できるメディアは異なります。
ここでは、光ディスクドライブの基本的な使い方について説明します。
なお、購入時の選択によっては、光ディスクドライブが搭載されていない場合もあります。





光ディスクドライブで、ひび割れや変形補修したメディアは使用しないでください。内部で飛び散って、故障したり、メディア取り出し時にけがをしたりする危険があります。



本機では、CD（コンパクトディスク）の規格に準拠しない「コピーコントロール CD」などの特殊ディスクについては、動作保証していません。本機にて動作しない特殊ディスクについては、製造元または販売元にお問い合わせください。

▶ドライブの機能と使える光ディスクメディア

光ディスクドライブの種類によって、メディアへの書き込みやDVDの再生など、使える機能が異なります。
お使いの光ディスクドライブで使える機能とメディアの種類は、次をご覧ください。

「インフォメーションメニュー」－「マニュアルびゅーわ」－「光ディスクドライブPDFマニュアル」

光ディスクメディアの違いについての簡単な説明は、次をご覧ください。

「インフォメーションメニュー」－「PCお役立ち情報」

▶光ディスクメディアのセットと取り出し

光ディスクメディアのセットと取り出し方法について説明します。

制限

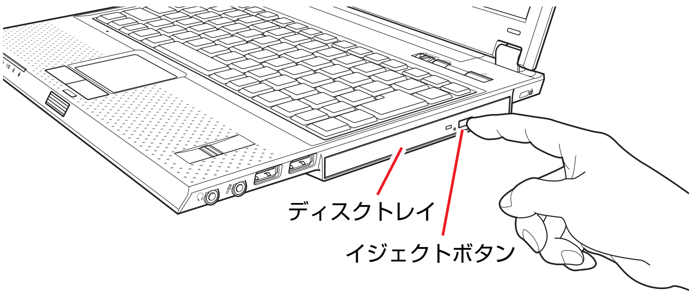
- 光ディスクドライブアクセス中にメディアを取り出したり、本機の電源を切ったり、再起動しないでください。
- ディスクトレイ上の光学レンズに触れたり、傷つけたりしないでください。メディアのデータが読めなくなります。
- 必要な場合以外は、ディスクトレイは閉じておいてください。
- 結露した状態のメディアを使用しないでください。メディアを寒いところから暖かいところへ急に持ち込むと、結露（水滴が付着する状態）します。使用すると、誤動作や故障の原因になります。
- 楕円などの通常と異なった形状のメディアは使用できません。

2

セット方法

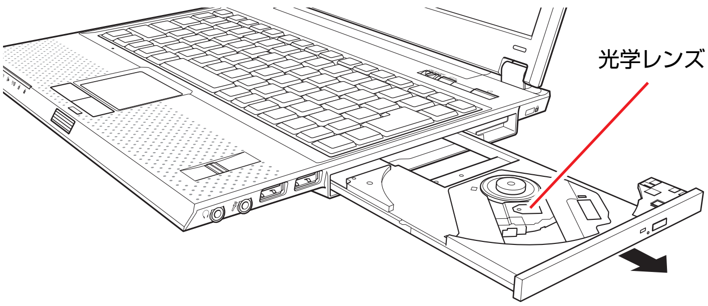
1　イジェクトボタンを押します。

ディスクトレイが少し飛び出します。

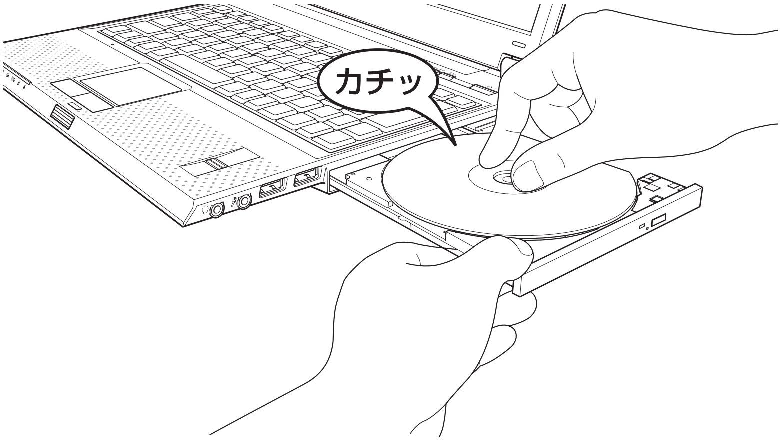


2　ディスクトレイを静かに引き出します。

光学レンズに触れたり、傷つけたりしないでください。メディアのデータが読めなくなります。



3 印刷面を上にしてメディアをディスクトレイに載せ、カチッと音がするまではめ込みます。



4 ディスクトレイを静かに閉じます。

取り出し方法

1 アクセスランプが点灯・点滅していないことを確認して、イジェクトボタンを押します。

2 ディスクトレイが少し飛び出したら、そのまままっすぐ引き出します。

3 メディアをディスクトレイから取り出します。

4 ディスクトレイを手で押して静かに閉じます。

参考

イジェクトボタンを押してもメディアが取り出せない場合

ソフトウェアによっては独自の取り出し方法でないとメディアが取り出せないものもあります。詳しくは、お使いのソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

▶強制的な光ディスクメディアの取り出し

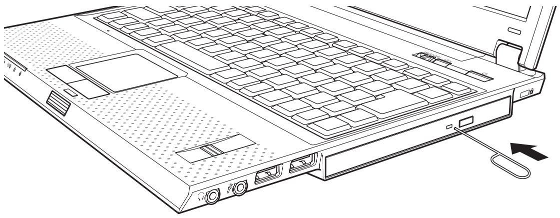
次のような場合には、強制的に光ディスクメディアを取り出すことができます。

- 光ディスクドライブが故障して、メディアが取り出せない場合
- メディアをセットしたまま、本機の電源を切ってしまった場合

1　本機の電源が入っている場合は、電源を切ります。

p.56「電源の切り方」

2　イジェクトホールに先の細い丈夫なもの（ゼムクリップを引きのばしたようなもの）を差し込みます。



3　ディスクトレイが少し飛び出します。そのまま手でまっすぐ引き出します。

▶光ディスクドライブのON/OFF

本機では、本機の電源が入った状態で、光ディスクドライブの電源を簡単にON/OFFできます。光ディスクドライブを使用していないときに光ディスクドライブをOFFにして消費電力を抑えることができます。
起動時の光ディスクドライブは常にONになり、通知領域に「取り外し」アイコンが表示されています。



＜取り外しアイコン＞



制限

光ディスクドライブを OFF にしても、省電力状態から復帰すると、光ディスクドライブは自動的に ON になります。

光ディスクドライブのON/OFFは、次のキー操作で行います。
[Fn] + [F3]（ODD）
キーを押すたびに、ON/OFFを切り替えることができます。

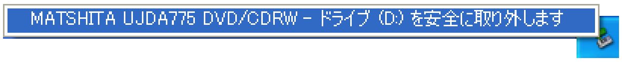
アイコンからOFFにする

通知領域のアイコンから光ディスクドライブをOFFにする手順は、次のとおりです。

1 **通知領域の「取り外し」アイコンをクリックします。**

2 **表示されたメニューから「(光ディスクドライブ名) ー・・・を安全に取り外します」を選択し、クリックします。**

複数の機器が表示される場合は、別の機器を選択しないよう注意してください。



「マイコンピュータ」や「エクスプローラ」から、光ディスクドライブの表示が消えていたら、電源は切れています。
光ディスクドライブを使用するときは、キー操作でONにします。

▶CDメディアの読み込み・再生

光ディスクドライブでは、データCDを読み込めるほかに、音楽CDやビデオCD、フォトCDなどの再生を行うことができます。これらのメディアの中には、再生時に別途専用ソフトウェアが必要なものもあります。

参考

メディアの再生
本機に装着されている光ディスクドライブは、メディアの認識に時間がかかることがありますが、不具合ではありません。
また、メディアの種類によっては、再生中に振動することがありますが、故障ではありません。

▶DVDメディアの読み込み・再生

本機の光ディスクドライブでは、データが登録されたDVDメディアを読み込めるほかに、ビデオ編集ソフトで作成したDVDなどの再生ができます。再生には、DVD VIDEO再生のためのソフトウェアが必要です。

DVD VIDEO再生ソフト

本機にはDVD VIDEO再生のためのソフトウェア「WinDVD」がインストールされています。WinDVDの詳しい使用方法は、「インフォメーションメニュー」の「マニュアルびゅーわ」に登録されている『WinDVDユーザーズマニュアル』をご覧ください。

DVD VIDEO再生時の制限

「WinDVD」でDVD VIDEOの再生をする場合、解像度や色数の設定により、DVD VIDEOの再生ができないことがあります。
DVD VIDEOの再生ができない場合は、解像度や色数を下げてみてください。

p.111 「解像度や表示色の変更方法」

▶光ディスクメディアへの書き込み

書き込み機能のある光ディスクドライブでは、データ、音楽、画像などを光ディスクメディアに書き込むことができます。書き込み可能なメディアはお使いの光ディスクドライブにより異なります。
お使いの光ディスクドライブで書き込み可能なメディアについては、「インフォメーションメニュー」の「マニュアルびゅーわ」に登録されている光ディスクドライブのPDFマニュアルをご覧ください。

p.52 「インフォメーションメニューを使う」

制限

作成したDVD VIDEOは、市販のDVDプレイヤーで再生できますが、一部のDVDプレイヤーでは再生できない場合があります。

ライティングソフト

書き込みを行う場合は、専用のライティングソフトが必要です。書き込み機能のある光ディスクドライブを選択された場合、本機にはライティングソフト「Nero 7 Essentials」がインストールされています。

p.88 「Nero 7 Essentialsの使い方」

書き込み時の注意

書き込みを行う場合は、次の点に注意してください。

- **省電力機能を無効にする**

  メディアへの書き込み時に、Windowsが省電力状態に切り替わると、データ転送エラーが起き、書き込みに失敗する場合があります。
  書き込みを始める前に、省電力機能を無効にしてください。

  p.166 「時間経過で移行させない」

- **速度に対応した光ディスクディスクメディアを選ぶ**

  書き込みを行う場合は、お使いの光ディスクディスクドライブの書き込み速度に対応したメディアを使用してください。
  光ディスクディスクドライブの書き込み速度は、光ディスクディスクドライブのPDFマニュアルで確認できます。

Nero 7 Essentialsの使い方

ライティングソフト「Nero 7 Essentials」を使用すると、CDメディアやDVDメディアにデータや音楽、画像などのファイルを書き込むことができます。

使い方

Nero 7 Essentialsの起動方法は次のとおりです。

1 デスクトップ上の次のアイコンをダブルクリックします。



2 Nero 7 Essentials画面が表示されます。



Nero 7 Essentialsの詳しい使い方は、「マニュアルびゅーわ」に登録されている『Nero ユーザーガイド』をご覧ください。

InCD

メディアをパケットライトソフト「InCD」でフォーマットすると、ドラッグアンドドロップするだけでデータの書き込みを行うことができます。
「InCD」の詳しい使い方は、「マニュアルびゅーわ」に登録されている『InCD ユーザーマニュアル』をご覧ください。

制限

- 「InCD」で使用できる光ディスクメディアは、CD-RW、DVD±RW、DVD-RAMのみです。
- 「InCD」でフォーマットしたメディアは「Nero 7 Essentials」で書き込みを行うことはできません。書き込みを行う場合は、「Nero 7 Essentials」で「ディスクの消去」を行ってください。

有償アップデートについて

本機にインストールされている「Nero 7 Essentials」は、Nero製品版「Nero 7 Premium」に特別優待価格でアップグレードすることができます。アップグレードをご希望の方は、デスクトップの「Neroオンラインアップグレード」から申し込みを行ってください。



USB機器を使う

本機には、USB2.0に対応したUSBコネクタが右側面に2個および左側面に1個、合計3個装備されています。

USBコネクタにはUSB対応の機器を接続します。3個のコネクタは同じ機能ですので、どのコネクタを使用しても構いません。接続する機器によっては、デバイスドライバが必要な場合があります。詳しくは、接続する機器に添付のマニュアルをご覧ください。

制限

USB フラッシュメモリや USB HDD などの USB 記憶装置を接続した状態で電源を入れると、Windows が起動しないことがあります。電源を入れる際は、USB 記憶装置を取り外した状態で行い、Windows 起動後に接続してください。

USB2.0の転送速度

USB2.0のデータの転送速度は、最大480Mbpsです。USB2.0コントローラは、USBコネクタに接続するすべての周辺機器で共用します。そのため、転送速度は接続する周辺機器が増えると低下します。

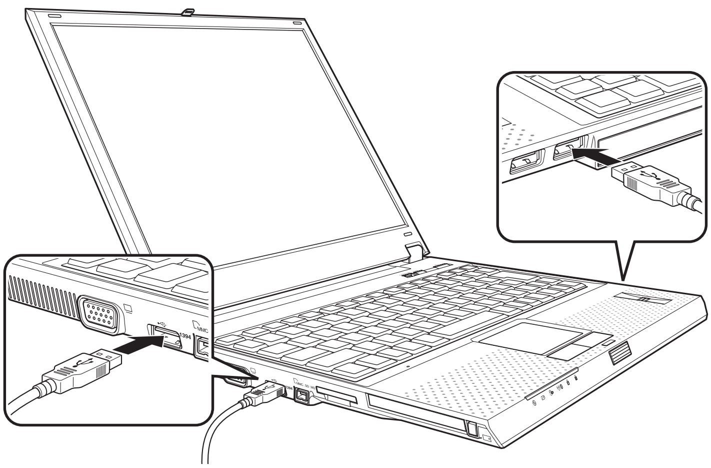
USB機器の接続と取り外し

USB機器の接続や取り外しは、本機の電源が入っている状態で行うことができます。

接続

USB機器は次のように接続します。

1 USB機器のUSBコネクタを、本機のUSBコネクタ（）に接続します。



2 **USB機器によっては、通知領域に「取り外し」アイコンが表示されます。**

光ディスクドライブがONの場合、「取り外し」アイコンはすでに表示されています。



<取り外しアイコン>

取り外し

USB機器を取り外すには、次の2通りの方法があります。

- 通知領域に「取り外し」アイコンが表示されていない場合、または本機の電源を切ったあとはそのままUSB機器を取り外す。
- 通知領域に「取り外し」アイコンが表示されている場合、Windows上でUSB機器の終了処理をした後に取り外す。

USB機器の終了処理は、次の手順で行います。

1 **通知領域の「取り外し」アイコンをクリックします。**

2 **表示されたメニューから「(取り外したいUSB機器) ー・・・を安全に取り外します」を選択します。**

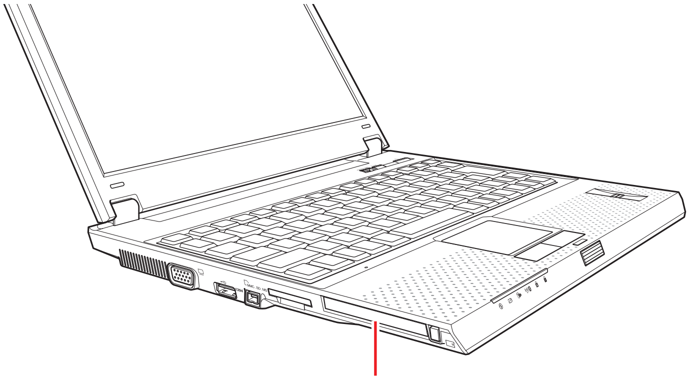


複数の機器が表示される場合は、別の機器を選択しないよう注意してください。

3 **「ハードウェアの取り外し」メッセージが表示されたら、USB機器を本機から取り外します。**

PCカードを使う

本機の左側面には、PCカードスロットが装備されています。本機では、PC Card Standardに準拠したType IIのPCカード（CardBus対応）を使用することができます。





- PCカードによっては、専用のデバイスドライバが必要です。詳しくは、PCカードに添付のマニュアルをご覧ください。
- PCカードによっては、初回挿入時に再起動を要求される場合があります。詳しくは、PCカードに添付のマニュアルをご覧ください。
- FAX モデムカードや、ネットワークカードなどは、使用途中に電源の供給が停止されると、不具合が発生する可能性があります。これらのカードを使用するときは、省電力状態を無効にしてください。

  p.166 「時間経過で移行させない」
- PCカードスロットにFAXモデムカードを取り付けて使用する場合には、回線の呼び出し音が鳴らないFAXモデムカードもあります。これは、CardBusの仕様によるもので故障ではありません。
- PCカードの形状によっては装着できない場合があります。

▶PCカードのセットと取り外し

制限

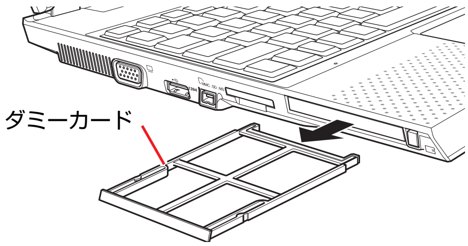
- PCカードを取り扱うときは、あらかじめ金属製のものに触れて、静電気を逃がしてください。PCカードやコネクタ部に静電気が流れると、故障することがあります。
- PCカードは、電源を切らずに抜き差しすることができます。ただし、省電力状態ではPCカードの抜き差しを行わないでください。システムが正常に動作しなくなる場合があります。

PCカードのセット

PCカードは、次の手順でセットします。

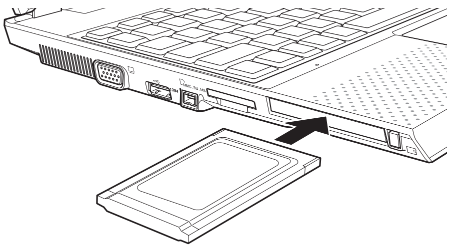
1　PCカードスロットにダミーカードがセットされている場合は、p.94「PCカードの取り外し」の手順2、3を参照してダミーカードを取り外します。

ダミーカードはPCカードを使用しないときに、スロットにセットしておきます。



2　PCカードをPCカードスロットに挿入します。

PCカードの表面を上にして、奥までしっかりと押し込みます。



3　コンピュータの電源が切れている場合は、電源を入れます。

4 **認識されるとPCカードが使用できます。**

正しくPCカードがセットされると認識音が鳴り、通知領域に「取り外し」アイコンが表示されます。
光ディスクドライブがONの場合、「取り外し」アイコンはすでに表示されています。



＜取り外しアイコン＞

PCカードによっては、専用のデバイスドライバが必要です。詳しくは、PCカードに添付のマニュアルをご覧ください。

PCカードの取り外し

PCカードは、次の手順で取り外します。

> **制限**
> 本機にセットされていた PC カードは、高温になっている可能性があります。取り外す際は注意してください。

1 **PCカードの終了処理を行うか、または本機の電源を切ります。**

PCカードの終了処理は、次の手順で行います。

(1) 通知領域の「取り外し」アイコンをクリックします。

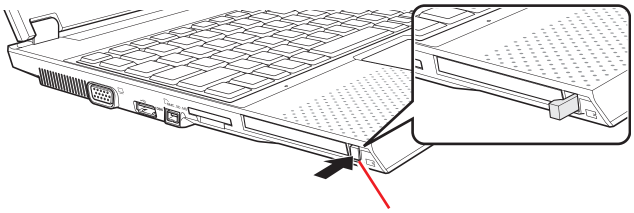
(2) 表示されたメニューから「(取り外したいPCカード) ー・・・を安全に取り外します」を選択します。



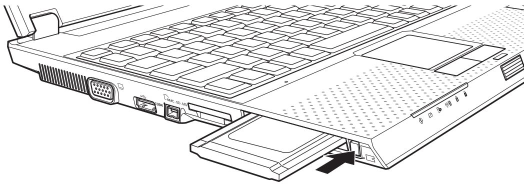
複数の機器が表示される場合は、別の機器を選択しないよう注意してください。

(3) 「ハードウェアの取り外し」メッセージが表示されたら、PCカードの終了処理は完了です。

2 **PC カードイジェクトボタンを「カチッ」と音がするまで押すと、イジェクトボタンが出てきます。**

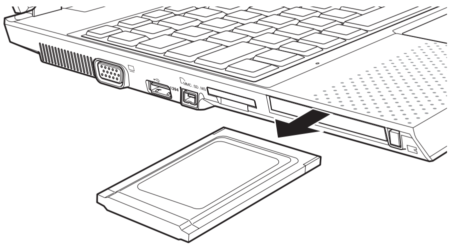


3 **出てきた PC カードイジェクトボタンを再び押し込むと、PC カードが出ます。**



4 **出てきたPCカードをまっすぐに引き抜きます。**

取り外したPCカードは、専用のケースなどに入れて大切に保管してください。

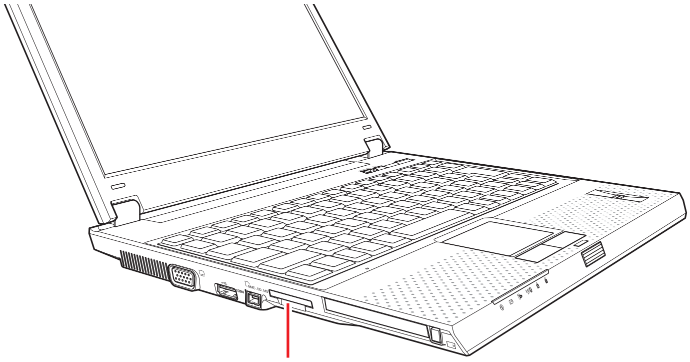


5 **ダミーカードをPCカードスロットにセットします。**

コンピュータ内部にホコリが入らないように、必ずダミーカードをセットしておいてください。

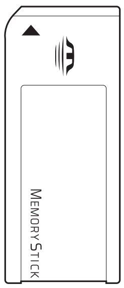
メモリカードを使う

本機左側面にはメモリカードスロットが装備されています。メモリカードは、デジタルカメラなどで使用するメディアで、コンピュータとのデータ交換に使われます。本機では、3種類のメモリカードを使用することができます。



▶本機で使用できるメモリカード

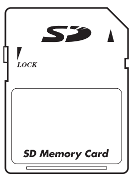
本機で使用できるメモリカードは、メモリースティック（Pro対応）、マルチメディアカード、SDメモリーカードの3種類です。下記のイラストは、各メモリカード表面のイラストです。



<メモリースティック>



<マルチメディアカード>



<SDメモリーカード>

制限

- メモリースティック、SDメモリーカードの著作権保護機能には対応していません。
- メモリースティックおよびメモリースティックProの高速転送、セキュリティ機能には対応していません。

メモリカード使用時の注意

メモリカードを使用する前に、必ずお読みください。

- メモリカードにアクセス中は、メモリカードを抜かないでください。
- メモリカードをセットすると、本機からカードが1.5cm～2.5cm飛び出した状態になります。メモリカードをセットした状態で、本機を持ち運ぶときは、メモリカードを破損しないように注意してください。本機をバッグなどに入れる場合には、必ずメモリカードを取り出してください。
- 記録されているデータによっては、読み込み時に専用のソフトウェアが必要になる場合があります。詳しくは、データを作成した周辺機器またはソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。
- メモリカードは、データの書き込み中に電源の供給が停止すると不具合が発生する可能性があります。メモリカードを使用するときは、省電力機能を使用しないでください。

  p.166 「時間経過で移行させない」

メモリカードのフォーマット

メモリカードのフォーマットは必ず、メモリカードを使用するデジタルカメラなどの周辺機器側で行ってください。本機でフォーマットを行うと、周辺機器でメモリカードが認識されなくなる場合があります。
フォーマットの方法は、周辺機器に添付のマニュアルをご覧ください。

▶メモリカードのセットと取り出し

メモリカードを使用する前に、必ず「メモリカード使用時の注意」をお読みください。

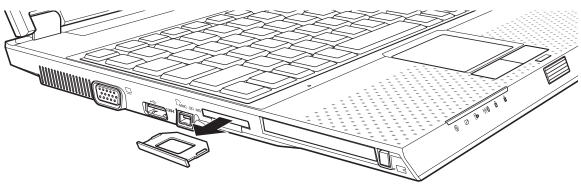
p.97 「メモリカード使用時の注意」

メモリカードのセット

メモリカードは、次の手順でセットします。

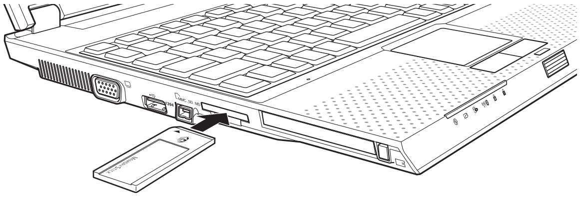
1　メモリカードスロットにダミーカードがセットされている場合は、ダミーカードの下側に手をかけてまっすぐに引き抜き、取り外します。

ダミーカードはメモリカードを使用しないときに、スロットにセットしておきます。

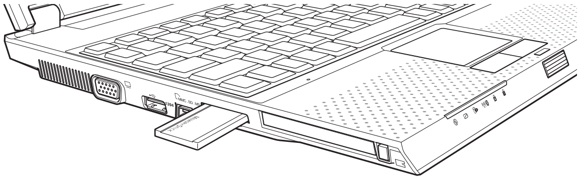


2　メモリカードをメモリカードスロットに挿入します。

メモリカードの表面を上にして、カードが止まるまで押し込みます。
メモリカードの表面は、「本機で使用できるメモリカード」をご覧ください。
p.96 「本機で使用できるメモリカード」



正しくセットしても、メモリカードはスロットから1.5cm～2.5cm出たままになります。メモリカードをセットした状態で本機を持ち運ぶ際は、注意してください。本機をバッグなどに入れる場合には、必ずメモリカードを取り出してください。



3　認識されると、メモリカードが使用できます。

正しくセットされると、通知領域に「取り外し」アイコンが表示されます。
光ディスクドライブがONの場合、「取り外し」アイコンはすでに表示されています。



＜取り外しアイコン＞

メモリカードの取り出し

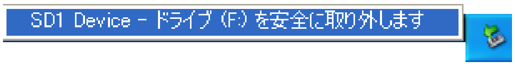
メモリカードは、次の手順で取り出します。

1 **メモリカードの終了処理を行うか、または本機の電源を切ります。**

メモリカードの終了処理は、次の手順で行います。

(1) 通知領域の「取り外し」アイコンをクリックします。

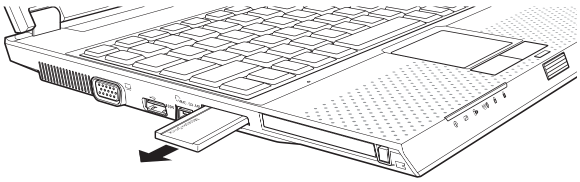
(2) 表示されたメニューから、「(取り外したいメモリカード) ー・・・を安全に取り外します」を選択します。



複数の機器が表示される場合は、別の機器を選択しないよう注意してください。

(3)「ハードウェアの取り外し」メッセージが表示されたら、メモリカードの終了処理は完了です。

2 **メモリカードをまっすぐに引き抜きます。**



取り出したメモリカードは、専用のケースなどに入れて大切に保管してください。メモリカードをセットしない場合はダミーカードをセットしておきます。

Bluetooth機能を使う（Bluetooth搭載時のみ）

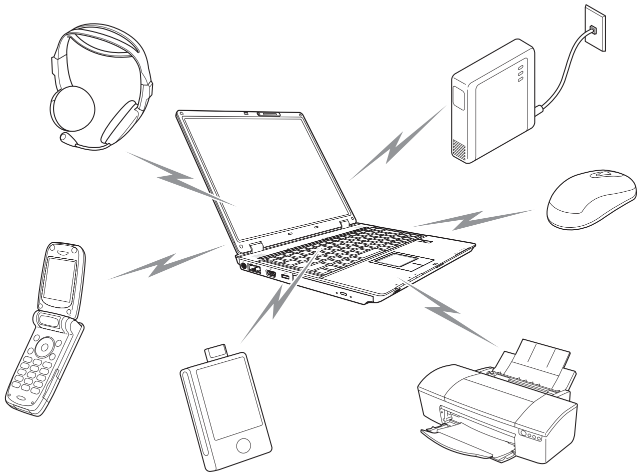
本機は、Bluetooth機能を搭載しています。Bluetoothとは、無線の通信方式の1つです。

ここでは、Bluetooth機能の基本的な使い方について簡単に説明しています。

Bluetooth機能でできること

本機では、Bluetooth機能を使用して、次のようなことができます。

- Bluetooth対応の周辺機器の使用
  マウス、プリンタ、カメラ、ステレオヘッドフォン、ヘッドセット、携帯電話、ワイヤレスモデムステーション、アクセスポイントなど。
- Bluetooth機能を搭載しているコンピュータやPDAとデータの送受信



仕様

本機に搭載されているBluetooth機能の仕様は、次のとおりです。

規格	周波数帯
Bluetooth標準規格 Ver 2.0 + EDR	2.4GHz

Bluetooth機能の使い方

本機では、Bluetoothユーティリティ「BlueSoleil」を使って周辺機器やほかのコンピュータと通信します。BlueSoleilの詳しい操作方法は、ヘルプを参照してください。ヘルプの起動方法は、次のとおりです。

1 デスクトップ上の「Bluetoothの場所」アイコンをダブルクリックします。



2 「Bluetoothの場所」画面が表示されたら、【F1】を押します。

Bluetooth機能をお使いの前に

警告

- 航空機や病院など、電波の使用を禁止された区域に本機を持ち込むときは、本機の電源を切るか電波を停止してください。
  電波が電子機器や医療用電気機器に影響を及ぼす場合があります。
  また、自動的に電源が入る機能が搭載されている場合は、設定を解除してから、本機の電源を切ってください。
- 医療機関の屋内で本機を使用するときは、次のことを守ってください。
  - ・手術室・集中治療室（ICU）・冠状動脈疾患監視室（CCU）には、本機を持ち込まない。
  - ・病棟内では、本機の電源を切るか電波を停止する。
  - ・病棟以外の場所でも、付近に医療用電気機器がある場合は、本機の電源を切るか電波を停止する。
  - ・医療機関が個々に使用禁止、持ち込み禁止などの場所を定めている場合は、その医療機関の指示に従う。
  - ・自動的に電源が入る機能が搭載されている場合は、設定を解除してから、本機の電源を切る。
- 植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器を装着している場合、Bluetooth機能を使用するときは、装着部と本機の間を22cm以上離してください。
  電波が、植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器の作動に影響を及ぼす場合があります。
  満員電車など、付近に心臓ペースメーカーを装着している人がいる可能性がある場所では、本機の電源を切るか電波を停止してください。
- Bluetooth機能は、自動ドア、火災報知器などの自動制御機器の近くで使用しないでください。
  電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となるおそれがあります。

電波に関する注意事項

- 本機のBluetooth機能は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線局の無線設備として、技術基準適合証明を受けています。そのため、本機のBluetooth機能を使用するときに無線局の免許は必要ありません。
- 本機のBluetooth機能は、技術基準適合証明を受けていますので、本機を分解/改造すると法律で罰せられることがあります。
- 2.4GHz付近の電波を通信している無線装置などの近くで通信すると、双方の処理速度が落ちる場合があります。電子レンジ付近の磁場、静電気、電波障害が発生するところでは、使用しないでください（環境により電波が届かない場合があります）。

- 本機のBluetooth機能の使用する電波が、次の機器や無線局と電波干渉するおそれがあります。
  - 産業用、科学用、医療用の機器
  - 工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の無線局
    1　構内無線局（免許を要する無線局）
    2　特定小電力無線局（免許を要しない無線局）

  万一、本機のBluetooth機能と他の無線局との間に電波干渉が発生した場合には、速やかに本機の使用場所を変えるか、または運用を停止（電波の発信を停止）してください。
- Bluetoothと無線LANは同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、Bluetooth、無線LANのいずれかの使用を中止してください。
- 本製品は電波を利用したワイヤレス機器です。本製品を使用する環境によっては通信速度の低下や、接続が一時的に切断されるなどの現象が発生する場合もありますが、故障ではありません。

通信可能な距離

Bluetoothで通信可能な距離は、10m以内です。Bluetooth通信を行うときは、本機と通信を行う機器とを10m以内に設置してください。
推奨される通信距離は3m以内です。

制限

通信可能距離は 10m 以内ですが、通信機器間の障害物や電波状況、磁場、静電気、電波障害の発生する場所、使用するソフトウェア、OS、通信する機器の受信感度、アンテナ性能などによって、変化する可能性があります。通信できない場合は、通信する機器を本機の近くに設置してください。

通信時の確認事項

- 使用する機器がBluetoothサービスに対応していることを確認してください。
- 本機と使用する機器が次の状態であることを確認してください。
  - 通信可能な距離にある
  - 接続可能な状態である
  - Bluetooth機能が有効になっている
- 本機と複数のBluetooth機器で通信する場合、通信速度が低下する場合があります。
- 大容量データを送受信する場合は、途中で通信が途切れることがあります。その場合は、再度送受信してください。

制限

- ネットワーク上のファイルなどを開いている状態で省電力状態に移行すると、通常の状態へ復帰できない場合があります。
- Windowsの簡易ユーザー切り替えでユーザーを切り替えた場合はBluetooth機能を使用できません。再起動してログオンしてください。
- 制限ユーザーでお使いの場合、一部の機能が制限されます。

▶Bluetooth機能のON/OFF

Bluetooth機能を使用する場合は、次のキー操作で、Bluetooth機能をON（有効）にします。

[Fn]＋[F2]（Bluetooth）

p.78「Fnキーと組み合わせて使うキー」

購入時、Bluetooth機能はOFF（無効）になっています。

キーを押すたびに、ONとOFFが切り替わります。

制限

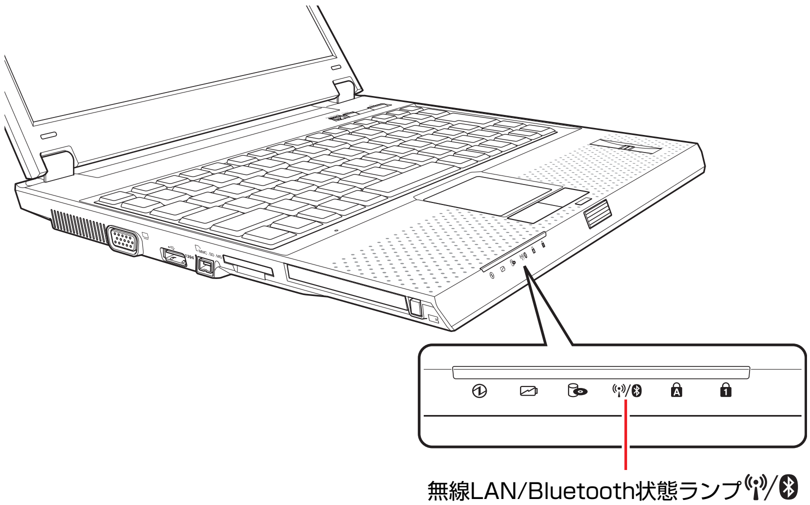
Bluetooth 機能を ON にしていても、休止状態に移行したり、シャットダウンしたりすると Bluetooth 機能は自動的に OFF になります。その場合は、キー操作で再度 Bluetooth 機能を ON にしてください。

Bluetooth状態ランプ

BluetoothのON/OFFの状態は、無線LAN/Bluetooth状態ランプ（無線LAN/Bluetooth）で確認できます。

Bluetoothの状態	Bluetooth状態ランプ
ON	点灯（オレンジ色）*
OFF	消灯

*Bluetooth機能と無線LANを同時にONにすると、ランプの色は黄色になります。



▶Bluetooth対応の周辺機器を使用する

Bluetooth対応のマウスやキーボードなどの周辺機器を使用する方法について説明します。周辺機器に添付の取扱説明書もあわせて参照ください。

周辺機器の検出・接続

新規で周辺機器を使用する場合には、周辺機器を検出して接続します。

参考

Bluetoothパスキー（PINコード）

周辺機器によっては、初回接続時に、Bluetoothパスキー（PINコード）の入力を促す画面が表示される場合があります。あらかじめ周辺機器の取扱説明書を参照し、パスキーの入力が必要かどうか確認しておいてください。

1 **本機と周辺機器を10m以内に設置します。**

p.102 「通信可能な距離」

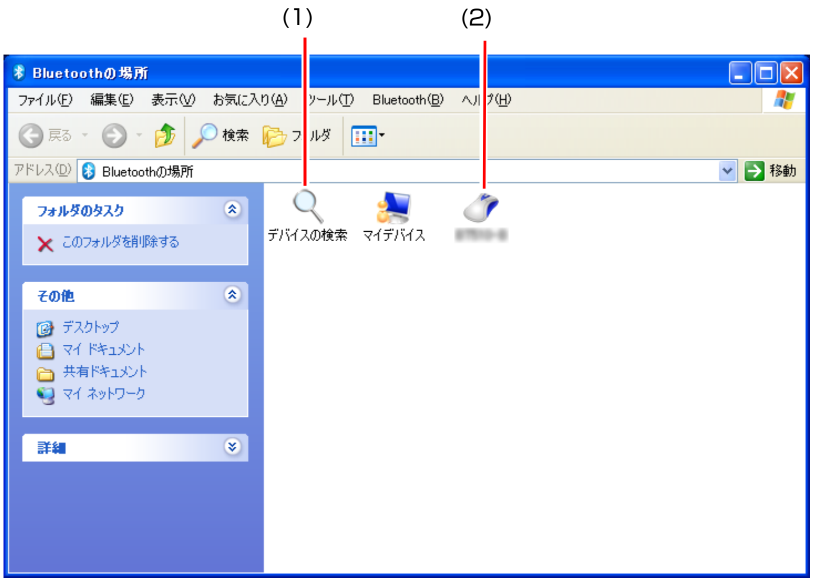
2 **本機と周辺機器のBluetooth機能を「ON」にします。**

p.103 「Bluetooth機能のON/OFF」

3 **デスクトップの「Bluetoothの場所」アイコンをダブルクリックします。**



4 「Bluetoothの場所」画面が表示されたら、周辺機器を検索して接続します。



(1) 接続する周辺機器が表示されない場合は、「デバイスの検索」アイコンをダブルクリックします。
利用可能な周辺機器を検索して、機器のアイコンを青色で表示します。

(2) 接続したい周辺機器をダブルクリックします。
「Bluetoothパスキーを入力してください」と表示された場合は、周辺機器の取扱説明書を参照してパスキーを入力し、［はい］をクリックします。
周辺機器に接続されます。接続した周辺機器のアイコンと「マイデバイス」アイコンは緑色で表示されます。

接続を終了する

本機または周辺機器のBluetooth機能を「OFF」にすると、自動的に接続は終了します。

p.103 「Bluetooth機能のON/OFF」

手動で接続を終了したい場合は、「Bluetoothの場所」画面で接続を終了したい周辺機器のアイコンを右クリックし、表示されたメニューから「アンプラグ」を選択します。

設定した周辺機器を使用する

一度接続の設定を行うと、「Bluetoothの場所」画面に周辺機器のアイコンが表示されます。次回からは、そのアイコンをクリックして接続してください。

設定した周辺機器が認識されない場合は

「Bluetoothの場所」に周辺機器のアイコンが表示されない場合は、再度「デバイスの検索」アイコンをダブルクリックして、周辺機器を検索しなおしてください。
また、本機や周辺機器のBluetooth機能が有効になっているか確認してください。

コンピュータ同士でBluetooth通信する

本機では、Bluetooth機能を搭載したコンピュータやPDAとデータの送受信ができます。

データの送信

ここでは、本機からBluetooth機能を搭載したコンピュータにデータを送信する方法について説明します。

参考

ファイル転送時のBluetoothパスキー（PINコード）入力
送信先コンピュータのセキュリティの設定によっては、ファイル転送時にBluetoothパスキーの入力を促す画面が表示される場合があります。Bluetoothパスキーは、パスワードの代わりです。通信するコンピュータ同士で同じパスキーを入力することで、ファイル転送時のセキュリティを確保できます。

1 本機と送信先のコンピュータを10m以内に設置します。

p.102 「通信可能な距離」

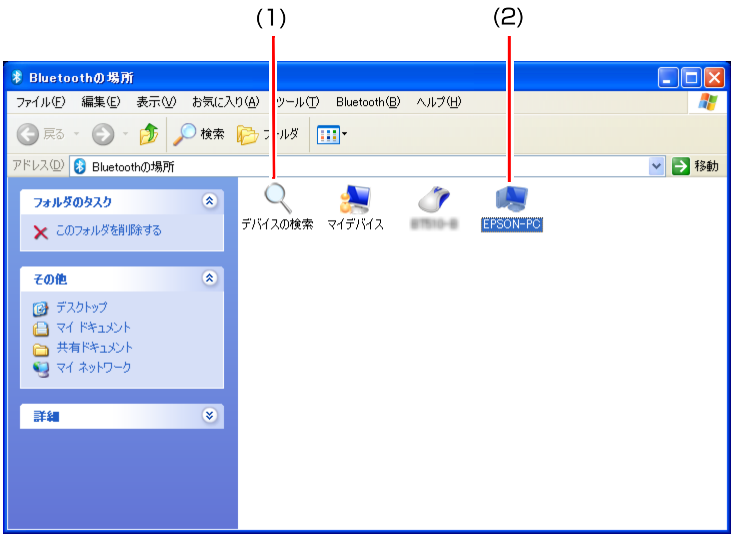
2 本機と送信先のコンピュータのBluetooth機能を「ON」にします。

p.103 「Bluetooth機能のON/OFF」

3 デスクトップの「Bluetoothの場所」アイコンをダブルクリックします。



4 「Bluetoothの場所」画面が表示されたら、送信先のコンピュータを検索して接続します。



(1) 接続したいコンピュータが表示されていない場合は、「デバイスの検索」アイコンをダブルクリックします。
利用可能なコンピュータを検索して表示します。

(2) 接続したいコンピュータのアイコンをダブルクリックします。

(3) Bluetoothサービスから「Bluetoothファイル転送」をクリックして選択します。
送信先コンピュータでBluetoothパスキーの入力を促すメッセージが表示された場合は、任意のBluetoothパスキーを入力して［はい］をクリックします。
送信先のコンピュータ側で受信許可メッセージが表示されます。表示されるメッセージは、送信先コンピュータのBluetoothユーティリティにより異なります。

5 手順4－(3)でBluetoothパスキーを設定した場合には、本機で「Bluetoothパスキーを入力してください」と表示されるので、手順4－(3)で設定したBluetoothパスキーを入力して［はい］をクリックします。

6 「リモート共有フォルダ」画面が表示されたら、マイコンピュータなどから転送したいファイルを「リモート共有フォルダ」にドラッグアンドドロップします。

ファイルが転送されたら、送信先のコンピュータでファイル受信メッセージが表示されます。表示されるメッセージは、送信先コンピュータのBluetoothユーティリティにより異なります。
これで、ファイル転送は完了です。

参考

受信ファイルの保存先

ほかのコンピュータから本機にファイルを転送した場合、受信したファイルは、次のフォルダに保存されます。

「マイドキュメント」－「Bluetooth」－「share」

画面表示をする

ここでは、本機のLCDユニットでの画面表示について説明します。
本機ではLCDユニットのほかに外付けの表示装置を接続することもできます。
p.112「外付けディスプレイに表示する」

▶LCDユニットの仕様

本機では次のLCD（液晶ディスプレイ）を搭載しています。

- 12.1型　XGA　　最大解像度　1024×768

制限

LCD の表示中に、次の現象が起きることがあります。これは、カラーLCD の特性で起きるものので故障ではありません。

- LCDは、高精度な技術を駆使して230万以上の画素から作られていますが、画面の一部に常時点灯あるいは常時消灯する画素が存在することがあります。
- 色の境界線上に筋のようなものが現れることがあります。
- Windowsの背景の模様や色、壁紙などによってちらついて見えることがあります。この現象は、背景の模様が市松模様や横縞模様といった特殊なパターンで、背景の色が中間色の場合に発生しやすくなります。

参考

LCDのドット抜け基準値

本機LCDのドット*抜け基準値は、8個以下です。これは、全ドットの0.00034%以下に相当します。

*「ドット」は副画素（サブピクセル）を指します。LCDでは、1個の画素が3個の副画素で構成されています。
本機の場合は、2,359,296個の副画素があります。本書に記載しているドット抜け基準値は、ISO13406-2に従って、副画素単位で計算しています。

▶LCDユニットの設定

本機のLCDユニットでは、明るさの調整や閉じたときの動作設定ができます。

画面の輝度調整

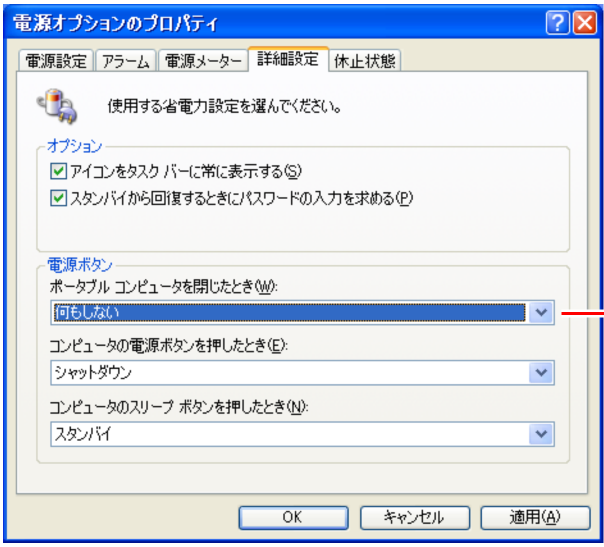
画面の明るさの調整は次のキーで行います。

キー操作	状　態
Fn ＋ F5 ☀	暗くなります。 何回かキーを押すと画面表示が消えます。
Fn ＋ F6 ☼	明るくなります

LCDユニットを閉じたときの動作

LCDユニットを閉じたときにスタンバイや休止状態に移るなどの動作を設定できます。
初期値は「何もしない」（バックライトの消灯のみ）です。
設定は次のプロパティ画面から行います。

［スタート］－「コントロールパネル」－「パフォーマンスとメンテナンス」－「電源オプション」－「詳細設定」タブ



LCDユニットを閉じたときの動作を設定します。

▶表示できる解像度と表示色

本機のLCDユニットで表示可能な解像度と表示色は次のとおりです。

参考

画像が正常に再生できない場合は
解像度や表示色が高いと、動画再生ソフトなどを再生するときに、正常に表示できないことがあります。そのような場合は、解像度または表示色を下げてみてください。

次の解像度の場合、表示色は中（16ビット）と最高（32ビット）が選択できます。

表示装置 解像度	12.1型XGA
800×600	○
1024×768	○

解像度や表示色の変更方法

参考

セーフモードでの起動

本機のLCD画面で表示できない解像度を選択すると、Windowsを再起動したときに、画面が乱れる、何も表示されないなどの現象が起こることがあります。このような場合は、セーフモードで起動して再設定を行ってください。

p.253 「セーフモードでの起動」

1 ［スタート］－「コントロールパネル」－「デスクトップの表示とテーマ」－「画面解像度を変更する」をクリックします。

2 「画面の解像度」や「画面の色」の設定を変更します。



3 設定を変更したら、［適用］をクリックし、画面のメッセージに従って操作します。

外付けディスプレイに表示する

本機には次の表示装置を接続して画面を表示することができます。

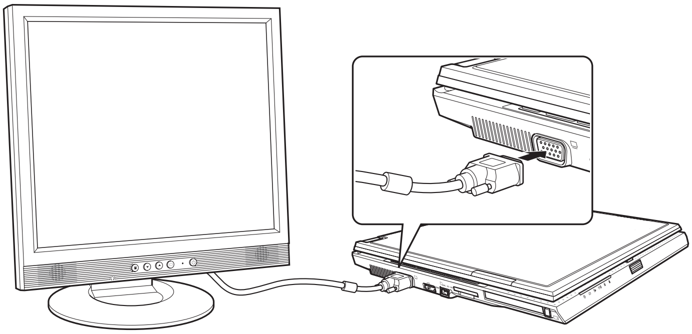
- 外付けディスプレイ/ビデオプロジェクタ（VGAで接続）

▶ディスプレイの接続

本機に外付けディスプレイを接続すると、自動的に認識され、表示可能になります。

1 **本機と外付けディスプレイの電源が切れていることを確認します。**

2 **外付けディスプレイの接続ケーブルを本機左側面のVGAコネクタ（□）に接続します。**



3 **外付けディスプレイと本機の電源を入れます。**

画面表示がされない場合は、Fn ＋ F7 （LCD/□）を押して画面を切り替えます。

p.114 「画面を切り替えるには」

ビデオプロジェクタへの接続

ビデオプロジェクタも外付けディスプレイと同様に、本機のVGAコネクタに接続して使用します。

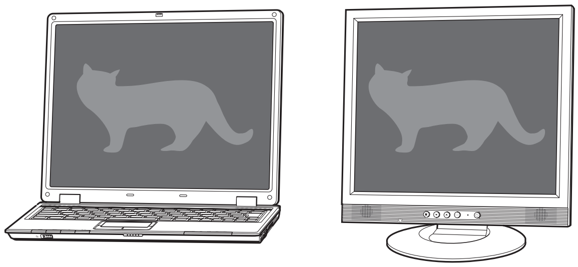
プロジェクタ側の接続方法はプロジェクタに添付のマニュアルをご覧ください。

▶表示できる画面の組み合わせ

本機では、次のような画面の組み合わせで表示ができます。

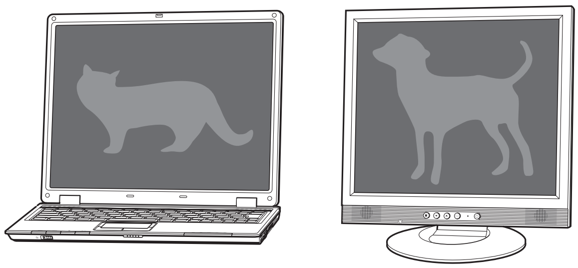
- 1つのディスプレイに表示（シングルディスプレイ）
  LCDのみ、または外付けディスプレイのみに表示します。
  外付けディスプレイが接続されていてもLCDのみで表示できます。

- 2つのディスプレイに同じ画面を表示（マルチディスプレイ－ツイン）
  解像度は2つのディスプレイのうち設定の低い解像度に合わせて表示します。



＜LCD＞　＜外付けディスプレイ＞

- 2つのディスプレイに1つの画面を分割して表示（マルチディスプレイ－拡張デスクトップ）
  2つのディスプレイで別々の解像度を設定できます。



＜LCD＞　＜外付けディスプレイ＞

▶画面を切り替えるには

表示画面を切り替えるには、次の2通りの方法があります。

- キーボードで操作
  キーボードで簡単に切り替えができます。
- 通知領域のアイコンから操作
  すべての組み合わせの切り替えが可能です。

キーボードで操作する場合

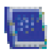
Fn＋F7（LCD/□）を押すたびに表示画面が切り替わります。
表示は次の組み合わせで行うことができます。接続している表示装置を自動的に認識するため、接続していない表示装置には切り替わりません。

- LCD ONLY （LCDのみに表示）
- CRT ONLY （外付けディスプレイのみに表示）
- LCD+CRT （マルチディスプレイーツインで表示）

制限
- 拡張デスクトップ選択時の表示の切り替えや、拡張デスクトップから別の出力先への切り替えは、キーボードでは行えません。
  p.114 「通知領域のアイコンから操作する場合」
- 動画の再生中やゲームソフトの起動時には、キーボードで表示装置の切り替えができないことがあります。

通知領域のアイコンから操作する場合

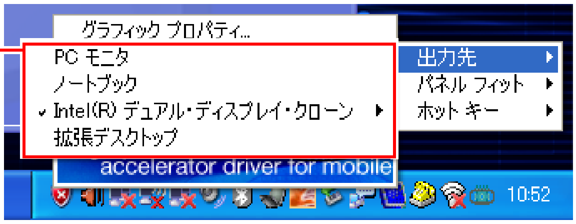
1 **通知領域の「インテルグラフィック」アイコンー表示されるメニューの「グラフィックオプション」ー「出力先」をクリックします。**



2 **「出力先」から、次の表示装置を選択します。**

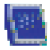
出力先	表示装置
「PCモニタ」	外付けディスプレイのみ
「ノートブック」	LCD画面のみ
「Intel(R) デュアル・ディスプレイ・クローン」ー「ノートブック＋PCモニタ」	LCD画面＋外付けディスプレイ （同じ画面を表示） （マルチディスプレイーツイン）
「拡張デスクトップ」	LCD画面＋外付けディスプレイ （マルチディスプレイー拡張デスクトップ）

表示装置を選択します。



出力先に「拡張デスクトップ」を選択した場合は、続いて手順3以降を行います。

3 **通知領域の「インテルグラフィック」アイコンをクリックして表示されるメニューの「グラフィックプロパティ」をクリックします。**



4 **「プライマリデバイス」、または「セカンダリデバイス」で、ディスプレイを設定します。**

「PCモニタ」は外付けディスプレイ、「ノートブック」はLCD画面を意味します。

「プライマリデバイス」側のディスプレイには、［スタート］メニューやタスクバーが表示されます。



分割した画面を表示するディスプレイの位置関係を示しています。「1」がプライマリ、「2」がセカンダリです。
「1」または「2」をドラッグして位置を変更します。

5 **［OK］をクリックします。**

「プライマリデバイス」側のディスプレイに確認画面が表示されます。

6 **「デスクトップの変更を確認」画面が表示されたら、［OK］をクリックします。**

▶外付けディスプレイで表示できる解像度と表示色

外付けディスプレイで表示できる解像度と表示色は、次のとおりです。

- 表示色

  中（16ビット）/ 最高（32ビット）

- 解像度　ピクセル（横×縦）

  800×600
  1024×768
  1280×720＊
  1280×768＊
  1280×1024
  1400×1050
  1440×900＊
  1600×1200
  1680×1050＊
  1920×1080＊
  1920×1200＊
  ＊ワイド表示

制限

- 記載している解像度は、本機に搭載されたビデオコントローラの出力解像度です。表示モードや接続する外付けディスプレイの仕様によっては、表示できない場合があります。
- マルチディスプレイーツイン表示の場合、実際に表示できる最大解像度は、コンピュータ側の最大解像度と外付けディスプレイの最大解像度のうち、どちらか低い方になります。
- 解像度や表示色が高いと、動画再生ソフトなどを再生するときに、正常に表示できないことがあります。そのような場合は、解像度または表示色を下げてみてください。

外付けディスプレイの解像度を変更する

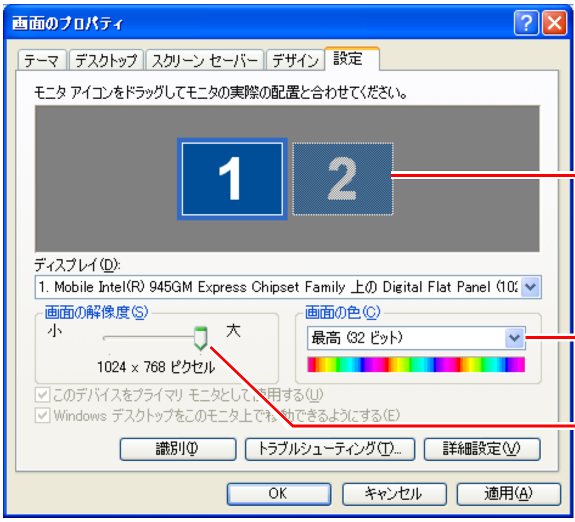
次の手順で解像度を変更します。

1 **［スタート］－「コントロールパネル」－「デスクトップの表示とテーマ」－「画面解像度を変更する」をクリックします。**

「画面のプロパティ」画面の「設定」タブが表示されます。

2 **解像度などを変更したいディスプレイを選択します。**

3 **「画面の解像度」や「画面の色」の設定を変更します。**



「拡張デスクトップ」の場合は「1」がプライマリで「2」がセカンダリです。

色数（表示色）を設定します。

解像度を設定します。

4 **設定を変更したら、［適用］をクリックし画面のメッセージに従って操作します。**

参考

画面が乱れたり何も表示されなくなった場合は

解像度を変更して画面が乱れたり、何も表示されなくなったりした場合は、セーフモードで起動して解像度を再設定してください。

p.236「LCDユニットの不具合」

サウンド機能を使う

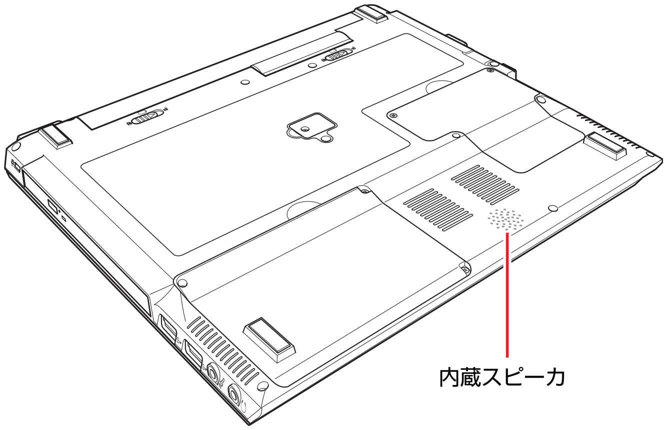
本機には、サウンド機能が搭載されています。

注意

ヘッドフォンやスピーカは、ボリュームを最小に調節してから接続し、接続後に音量を調節してください。
ボリュームの調節が大きくなっていると、思わぬ大音量が聴覚障害の原因となります。

内蔵スピーカ

本機底面には、スピーカ（モノラル）が内蔵されており、音源からの音声を出力することができます。



音量の調節

スピーカの音量は次のキーを押して調節します。

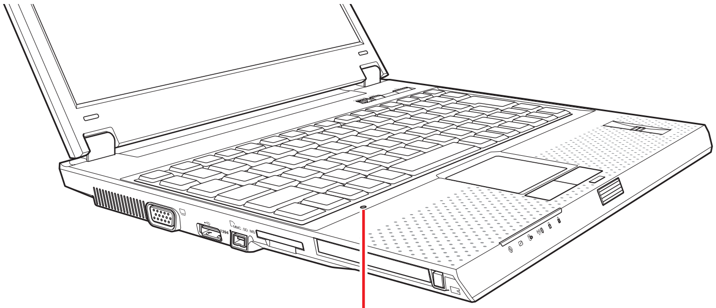
キー操作	状　態
Fn ＋ F8　🔊/🔈	一度押すとミュート（消音）になり、もう一度押すとミュートが解除されます。
Fn ＋ F9　▼🔈	音量が小さくなります。
Fn ＋ F10　▲🔊	音量が大きくなります。

制限

外付け機器やアプリケーションソフトによっては、キー操作で音量調節ができないものがあります。詳しくは、外付け機器やアプリケーションソフトに添付のマニュアルをご覧ください。

内蔵マイク

本機には、マイク（モノラル）が内蔵されています。この内蔵マイクを使って、音声を録音することができます。



録音するには

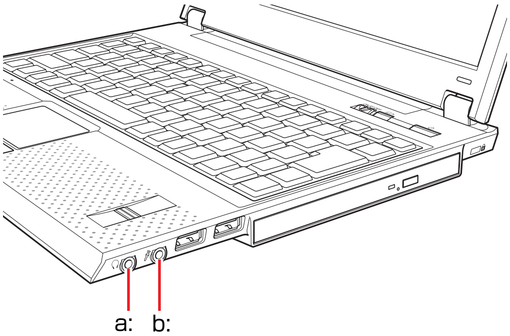
Windows標準の「サウンドレコーダー」を使用します。
「サウンドレコーダー」は次の場所から起動します。

[スタート] －「すべてのプログラム」－「アクセサリ」－「エンターテイメント」

「サウンドレコーダー」では、最長60秒間録音することができます。
長時間の録音を行うには、別途アプリケーションソフトが必要です。

マイクなどの接続

本機右側面には、スピーカやヘッドフォン、マイクを接続するためのコネクタが標準で装備されています。各コネクタの位置と使い方は、次のとおりです。



a: ヘッドフォン出力コネクタ
スピーカやヘッドフォンを接続して内蔵スピーカから出力される音声を外部に出力するためのコネクタです。

b: マイク入力コネクタ
マイクと接続して、音声を本機に入力するためのコネクタです。入力した音声は、本機のサウンド機能により録音、再生を行うことができます。

マイク使用時の設定

本機にマイクを接続して録音する場合、音量の調節を行っても音が小さいときには、次の設定を確認してください。

1 **[スタート] ー「コントロールパネル」ー「サウンド、音声、およびオーディオデバイス」ー「サウンドとオーディオデバイス」をクリックします。**

2 **「サウンドとオーディオデバイスのプロパティ」画面が表示されたら、「オーディオ」タブの「録音」項目にある [音量] をクリックします。**

3 **「録音コントロール」画面の「マイクボリューム」領域内にある [選択] 項目にチェックを付けて、「オプション」メニューー「トーン調整」ー [トーン] をクリックします。**

4 **「マイクボリュームの詳細設定」画面の「1 マイクブースト」項目にチェックを付けます。**

購入時は、チェックが付いた状態になっています。

指紋認証機能を使う

本機は、指紋認証機能を搭載しています。
指紋認証機能を使うと、WindowsのログオンのほかにもソフトウェアやWebページで指紋をパスワードとして使用することができます。

本機では、指紋認証ユーティリティ（コントロールセンター）を利用して、指紋の登録や各種設定を行います。

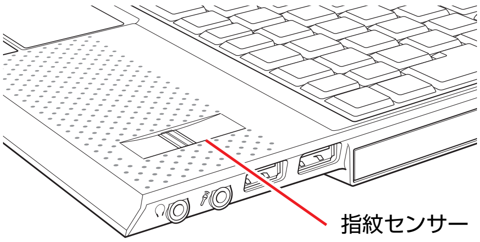
p.122「指紋認証ユーティリティの概要」

制限

- 本機の指紋認証機能は、「パワーオンセキュリティ（Windows起動前のBIOS認証機能）」に対応していません。
- 登録した指紋は、BIOS Setupユーティリティのパスワードとして使用することはできません。
- 一部のブラウザでは指紋認証機能が使用できないことがあります。
- 指紋認証機能は100%の完全な本人認証を保証するものではありません。
- 指紋認証機能を使用したことで発生したいかなる損害についても当社といたしましては責任を負いかねますのでご了承ください。

▶指紋センサー

指紋は、指紋センサーで登録や読み取りを行います。指紋センサーは、キーボードの右下にあります。



指紋登録時および認証時に関する注意事項

登録に使う指の状態によって、指紋の登録や認証が困難な場合がありますので、状態に応じて対処してください。

- 指がぬれている
  水分を拭き取ってください。
- 指が非常に乾燥している
  ハンドクリームを塗るなどして保湿してください。
- 指が汚れている、汚れや泥・油で着色している
  手を洗ってから、水分を拭き取ってください。
- 指にしわが多い、ざらざらしている、傷がある、登録したときの指紋から著しく変化している。
  違う指で指紋登録および認証を行ってください。

対処を行っても、個人差により指紋情報が少ないなどの理由で指紋を登録できない場合があります。

指紋センサーの取り扱いに関する注意事項

指紋センサーにキズが付いたり正常に作動しなくなるおそれがありますので、次の注意事項を必ず守って指紋センサーをお使いください。

- 指紋センサー表面を、爪や硬いもの、先の尖ったもので引っかかない
- 汚れた指で指紋センサーを触らない

お手入れ

次のような場合は、指紋センサーを、乾いた柔らかい布で拭いてください。

- 指紋センサー表面に汚れ、湿り、または着色がある場合
- 指紋センサーが、指紋の登録や認証に頻繁に失敗する場合

▶指紋認証ユーティリティの概要

ここでは、指紋認証ユーティリティの主な機能や指紋認証機能を使用するまでの流れについて説明します。

インストール

指紋認証機能を使用するには、指紋認証ユーティリティのインストールが必要です。購入時には、指紋認証ユーティリティはインストールされていません。

p.219 「指紋認証ユーティリティのインストール」

指紋認証ユーティリティでできること

指紋認証ユーティリティには、次のような機能があります。

- **指紋の登録**

  各種パスワード設定でパスワードとして使用する指紋を登録します。

  指紋は最大で21まで登録できます。登録は、「コントロールセンター」で行います。

  p.124 「指紋の登録」

- **指紋ログオン**

  指紋を登録すると、Windowsログオン時に、登録した指紋を読み取らせてWindowsを起動します。

  p.126 「Windows指紋ログオン」

● パスワードバンク

パスワードバンクには、パスワード入力が必要なWebページやダイアログを登録できます。登録したWebページやダイアログへのアクセス時に、ユーザー IDやパスワードなどを入力する代わりに指紋認証で画面が表示されます。

p.126 「パスワードバンクへの登録」
p.128 「登録済みWebページの表示」

● File Safe（ファイルやフォルダの暗号化）

File Safeを使用すると、ファイルやフォルダをHDD上の暗号化アーカイブに格納できます。格納したファイルやフォルダはロックされ、指紋の読み取りでロックが解除されます。

2

指紋認証ユーティリティの使い方

指紋認証ユーティリティの詳細な使い方は、指紋認証ユーティリティのヘルプをご覧ください。

[スタート] − [すべてのプログラム] − [Protector Suite QL] − [ヘルプ]

▶指紋認証機能を使用するまでの流れ

指紋認証機能を使用するまでの流れは次のとおりです。

指紋認証ユーティリティをインストールする
p.219 「指紋認証ユーティリティのインストール」

↓

指紋を登録する p.124

↓

各種設定をする p.126

▶指紋を登録する

指紋の登録

指紋認証ユーティリティに指紋を登録する場合は、次の手順で指紋の登録を行います。

p.125 「指紋の追加登録・変更・削除」

1 ［スタート］－［すべてのプログラム］－［Protector Suite QL］－［コントロールセンター］をクリックします。

2 「Protector Suiteソフトウェア」（指紋コントロールセンター）画面が表示されたら、［指紋］－［初期化］をクリックします。

3 「指紋ソフトウェア使用許諾契約書」画面が表示されたら、「使用許諾契約書に同意します」にチェックを付けて［OK］をクリックします。

4 「ようこそ」画面が表示されたら、内容をよくお読みになり、［次へ］をクリックします。

5 「終了」画面が表示されたら、「バイオメトリックスデバイスへの登録」にチェックが付いていることを確認して、［完了］をクリックします。
Windowsパスワードを設定している場合は、手順7に移ります。

6 Windowsパスワードを設定していない場合は、「指紋ログオン」画面が表示されます。［はい］をクリックし、画面の指示に従って、Windowsパスワードを設定してください。
このパスワードは指のケガなど、指紋がうまく認識されないときに使用します。

7 「ようこそ」（ユーザー登録）画面が表示されたら、［次へ］をクリックします。

8 「パスワード」（ユーザーのパスポート）画面が表示されたら、「パスワード入力」にWindowsパスワードを入力し、［次へ］をクリックします。

9 「登録のヒント」画面が表示されたら、内容をよくお読みになり、［次へ］をクリックします。

10 「指紋チュートリアル」（正しい読み取り手順）画面が表示されたら、内容をよくお読みになり、［次へ］をクリックします。

11 「指紋チュートリアル」（スキャンの練習）画面が表示されたら、画面の指示に従って指紋センサーで指紋の読み取りをします。

12 「練習問題に合格しましたので、登録する準備ができました」と表示されたら、［次へ］をクリックします。

13 **「登録」（ユーザーの指紋）画面が表示されたら、登録したい指を選択して、指紋センサーで指紋の読み取りをします。「成功」と表示されたら、登録が完了します。2つ以上の指を登録して［次へ］をクリックします。**

認証されにくい場合やケガをした場合に備えて、2つ以上の指紋を登録することをおすすめします。

14 **「ユーザー登録」画面が表示されたら、内容をよくお読みになり、［OK］をクリックします。**

15 **「拡張セキュリティ」画面が表示されたら、「バックアップパスワード」を入力して、［次へ］をクリックします。**

このパスワードは、「コントロールセンター」の設定に使用するパスワードです。

認証されにくい場合やケガをした場合に使用します。絶対に忘れないようにしてください。

16 **「終了」画面が表示されたら、［完了］をクリックします。**

これで指紋の登録は終了です。

指紋の追加登録・変更・削除

指紋を追加登録・変更・削除する方法は、次のとおりです。

1 **［スタート］－［すべてのプログラム］－［Protector Suite QL］－［コントロールセンター］をクリックします。**

2 **操作を選択します。**

＜指紋を登録・変更したい場合＞

「Protector Suiteソフトウェア」（指紋コントロールセンター）画面が表示されたら、［指紋］－［指紋の登録、または編集］をクリックします。

「ようこそ」画面が表示されたら、以降は画面の指示に従って操作を行ってください。

＜登録した指紋を削除したい場合＞

「Protector Suiteソフトウェア」（指紋コントロールセンター）画面が表示されたら、［指紋］－［削除］をクリックします。

「指の読み取り」と表示されたら、以降は画面の指示に従って操作を行ってください。

参考

指をケガした場合などに、ほかの指を登録したいときは

コントロールセンターで指紋登録時に、「パスワード」画面でコントロールセンターのパスワードを入力して［次へ］をクリックします。「拡張セキュリティ」画面で「現在のユーザーの拡張セキュリティを有効にする」のチェックを外して［次へ］をクリックします。以降は画面の指示に従って操作を行ってください。

▶指紋認証機能を使用する

指紋を登録すると、次の機能を使用できます。

Windows指紋ログオン

ユーザーアカウントやパスワードを入力する代わりに、指紋でWindowsにログオンできるようになります。
Windows指紋ログオンの手順は次のとおりです。

1 **電源スイッチ（⏻）を押して、本機の電源を入れます。**

2 **Windowsログオン画面が表示されたら、指紋センサーで指紋を読み取ります。**

指を指紋センサーにしっかりと押し付けながら、手前にスライドしてください。認証に成功すると、Windowsが起動します。

参考

パスワード入力でWindowsにログオンする
指紋が認証されにくい場合や、指にケガをした場合は、Windowsのパスワードを入力してWindowsにログオンしてください。

▶各種設定をする

ここでは、パスワードバンクへの登録と登録済みWebページの表示方法を説明します。

パスワードバンクへの登録

パスワードバンクに、パスワード入力が必要なWebページやダイアログを登録できます。パスワードバンクにWebページやダイアログを登録する方法は次のとおりです。ここでは、Internet Explorerを使用して、パスワードバンクにWebページまたはダイアログを登録する方法を説明します。

制限

お使いのブラウザによっては、この機能を使用できない場合があります。

1 **Internet Explorerを起動して、登録したいWebページまたはダイアログを表示します。**

「このページ（またはダイアログ）には、パスワードバンクの登録に・・・」というメッセージが表示されます。

2 **そのページを開いたときに入力するユーザーID やパスワードなどのデータを入力します。**



＜イメージ＞

3 **指紋センサーで指紋を読み取ってバイオメトリックメニューを起動します。**



＜バイオメトリックメニュー＞

4 **バイオメトリックメニューの［登録］をクリックします。**

＜Webページを登録した場合＞

「このサイトは、パスワードバンクにxxxという名前で正常に登録されました」というメッセージが表示されます。

＜ダイアログを登録した場合＞

「登録は‘xxxに接続’という名前で保存されました」というメッセージが表示されます。

これでパスワードバンクにWebページやダイアログが登録されます。

2

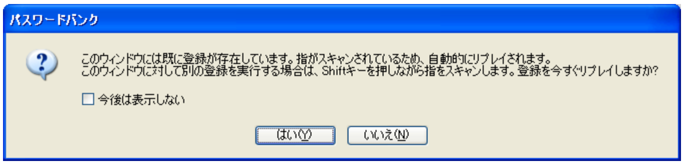
登録済みWebページの表示

パスワードバンクに登録したWebページやダイアログを表示する方法は次のとおりです。
ここでは、Internet Explorerを使用して、登録済みWebページを表示する方法を説明します。

1 Internet Explorerを起動して、登録したWebページまたはダイアログを表示します。

2 指紋センサーで指紋を読み取ります。

3 「パスワードバンク」画面が表示されたら、「はい」をクリックします。



Webページまたはダイアログがユーザー IDやパスワードが入力された状態で表示され、指定された動作が実行されます。

ネットワーク（有線LAN）を使う

本機背面には、100Base-TX/10Base-Tに対応したLANコネクタが標準で搭載されています。
本機のネットワーク機能（有線LAN）を使用してネットワークを構築するには、ほかのコンピュータと接続するために、LANケーブルやハブ（サーバ）などが必要です。そのほかに、Windows上で、ネットワーク接続に必要なプロトコルの設定なども必要になります。
ネットワークの構築は、ネットワーク機器に添付のマニュアルなどをご覧ください。

制限

- NetWareサーバを利用している場合やNetBEUIを使用してネットワークに接続している場合に、省電力状態に入ると、省電力状態からの復帰時にサーバから切断されてしまうことがあります。
  このような場合は次のいずれかの方法をとってください。
  ・切断後に再度ログオンする（NetWareのみ）
  ・再起動する
  ・省電力状態を無効にする
- ネットワーク上のファイルなどを開いている状態で省電力モードに移行すると、通常の状態へ復帰できない場合があります。

▶主な機能について

本機では、ネットワークを構築して接続環境を整えると、Wakeup On LANやリモートブートなどの機能を使用できます。

Wakeup On LAN

Wakeup On LANとは、電源切断時や省電力状態の本機を、ネットワークからの信号により復帰させることができる機能です。この機能はWindowsを正常に終了、または省電力状態に移行し、ACアダプタを接続した状態でのみ使用可能です。

使用時の設定確認

Wakeup On LANを使う場合、BIOSとネットワークドライバの設定が購入時の状態になっていることを確認してください。

- 「Advanced」メニュー画面－「Wake-Up On LAN」：Enabled（有効）
  p.181 「BIOS Setupユーティリティの操作」

- ネットワークドライバの設定
  確認方法は次のとおりです。

  1. ［スタート］－「コントロールパネル」－「パフォーマンスとメンテナンス」－「システム」－「ハードウェア」タブ－［デバイスマネージャ］をクリックします。
  2. 「デバイスマネージャ」画面が表示されたら、「ネットワークアダプタ」をダブルクリックし、表示された一覧から「Marvell Yukon 88E8038 PCI-E Fast Ethernet Controller」をダブルクリックします。
  3. 「Marvell Yukon 88E8038 PCI-E Fast Ethernet Controllerのプロパティ」画面が表示されたら、「詳細設定」タブをクリックし、「プロパティ」にある次の2つの項目を確認します。
     ・「ウェイク アップ機能」を選択し、「値」項目が「マジック パケット」になっている
     ・「シャットダウンからの起動」を選択し、「値」項目が「オン」になっている
  4. 「Marvell Yukon 88E8038 PCI-E Fast Ethernet Controllerのプロパティ」画面の「電源の管理」タブをクリックし、「このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を解除できるようにする」にチェックが付いていることを確認します。

リモートブート

リモートブートを使用すると、コンピュータ側のHDDにWindowsがインストールされていなくても、ネットワークを介して、サーバ上からWindowsをインストールすることができます。

ネットワークの設定切り替え機能

本機にインストールされている「ネットワーク切替えツール」を使うと、自宅や会社など、複数のネットワーク環境（有線LAN・無線LAN）で本機を使用する場合に、接続先の設定を簡単に切り替えることができます。接続するネットワーク環境を「ネットワーク切替えツール」のプロファイルに登録しておきます。

p.131 「ネットワーク切替えツールを使う」

ネットワーク切替えツールを使う

会社や自宅など、複数のネットワーク環境（有線LAN・無線LAN）で本機をご使用の場合、「ネットワーク切替えツール」を使って、接続するネットワークの設定を簡単に切り替えることができます。

制限

Bluetoothのネットワーク接続には対応していません。

プロファイルの登録

ネットワーク切替えツールでは、ネットワーク環境の設定をプロファイルとして管理します。複数のネットワーク環境をプロファイルに登録して使用します。
※ 複数の無線LAN環境設定を登録できますが、アクセスポイントの切り替えを行うことはできません。

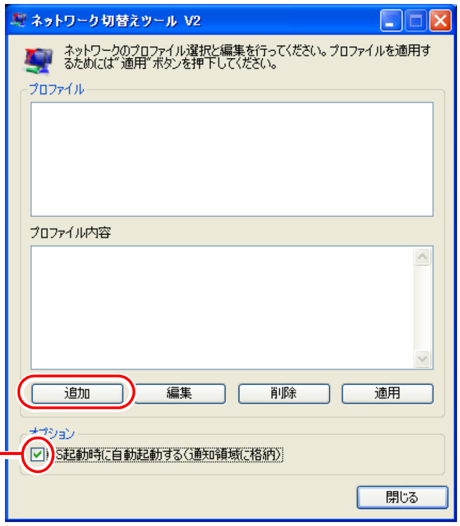
プロファイルを登録する手順は、次のとおりです。
プロファイルの登録は、登録するネットワークに接続した状態で行ってください。

1 **登録するネットワークに接続します。**

2 **［スタート］－「すべてのプログラム」－「EPSON DIRECT」－「ネットワーク切替えツール」をクリックします。**

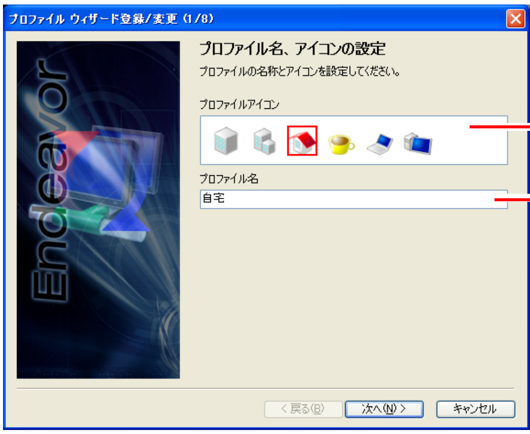
3 **「プロファイルが登録されていません。・・・」と表示されたら、[OK]をクリックします。**
プロファイルがない場合にのみ表示されます。

4 「ネットワーク切替えツール」画面が表示されたら、「OS起動時に自動起動する（通知領域に格納）」にチェックを付けて、［追加］をクリックします。



チェックを付けると、次回起動時から通知領域にアイコンが常に表示されます

5 「プロファイルウィザード登録/変更」画面が表示されたら、登録するネットワークのアイコンを選択し、名前を入力して、［次へ］をクリックします。



アイコンを選択

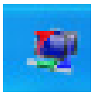
登録するネットワークの名前を入力

6 以降は、表示される画面の指示に従って、登録するネットワークの情報を入力してください。

プロファイルの切り替え

必要なプロファイルを登録した後は、ネットワークの接続先に応じて、「ネットワーク切替えツール」でプロファイルを切り替えます。
切り替え方法は、次の2つです。

- **アイコンから切り替える**
  通知領域の「ネットワーク切替えツール」アイコンをクリックし、表示されたメニューから接続したネットワークのプロファイルをクリックします。



<ネットワーク切替えツールアイコン>

- **スタートメニューから切り替える**
  ［スタート］－「すべてのプログラム」－「EPSON DIRECT」－「ネットワーク切替えツール」をクリックし、表示された画面で、接続したネットワークのプロファイルをクリックして、［適用］をクリックします。

プロファイル一括変更ツール

ネットワーク切替えツールに登録したプロファイルの情報を一括で変更することができます。
使用するときは、［スタート］－「すべてのプログラム」－「EPSON DIRECT」－「プロファイル一括変更ツール」をクリックします。

制限

通知領域に「ネットワーク切替えツール」アイコンが表示された状態では、プロファイル一括変更ツールを使用できません。
その場合は、表示されている「ネットワーク切替えツール」アイコンを右クリックし、「アプリケーションの終了」をクリックしてください。

無線LANを使う（無線LAN搭載時のみ）

無線LANとは、電波を利用して通信を行うネットワークのことです。
本機には、IEEE802.11a/b/gの3つの規格に準拠した無線LAN機能が搭載されています。

対応規格

- IEEE802.11a（J52/W52/W53）
  5GHzの周波帯域で通信し、高速な転送速度を実現しています。家電製品と異なる周波帯域を使用するため、電波の干渉を避けることができます。
  ただし、電波法の規定により、屋内のみの使用に限られます。
- IEEE802.11b、IEEE802.11g
  IEEE802.11bは、従来から広く使用されている通信規格で、2.4GHzの周波帯域を使用します。IEEE802.11g は、同じく 2.4GHz の周波帯域を使用し、IEEE802.11bより高速な通信が可能です。

IEEE802.11aとIEEE802.11b/gでは互換性がありません。

▶無線LAN機能をお使いの前に

警告

- 航空機や病院など、使用を禁止された区域では、本機の電源を切るか電波を停止してください。
  電子機器や医用電気機器に影響をおよぼす場合があります。
- 植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器を装着されている場合は、装着部から本機を22cm以上離して使用してください。
  電波により植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器の作動に影響を与える場合があります。
- 医療機関の屋内では次のことを守ってください。
  - 手術室、集中治療室（ICU）、冠状動脈疾患監視室（CCU）には、本機を持ち込まないでください。
  - 病棟内では、本機の電源を切るか電波を停止してください。
  - ロビーなどであっても付近に医用電気機器がある場合は、本機の電源を切るか電波を停止してください。
  - 医療機関が個々に使用禁止、持ち込み禁止などの場所を定めている場合は、その医療機関の指示に従ってください。
  - 自動的に電源が入る機能が搭載されている場合は、設定を解除してから電源を切ってください。
- 自動ドア、火災報知器などの自動制御機器の近くでは使用しないでください。
  電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となるおそれがあります。
- 自宅療養など、医療機関以外で植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器を使用する場合には、電波の影響について個別に医用電気機器メーカーなどにご確認ください。

制限

- NetWareサーバを利用している場合やNetBEUIを使用してネットワークに接続している場合に、省電力状態に入ると、省電力状態からの復帰時にサーバから切断されてしまうことがあります。
  このような場合は次のいずれかの方法をとってください。
  ・切断後に再度ログオンする（NetWareのみ）
  ・再起動する
  ・省電力状態を無効にする
- ネットワーク上のファイルなどを開いている状態で省電力状態に移行すると、通常の状態へ復帰できない場合があります。
- IEEE802.11aとb/gでは、使用する周波帯域が異なります。データ通信を行う場合は、同じ方式での通信が可能かどうか、事前に確認してください。
- 本機の無線LAN機能は、Wakeup On LANとリモートブートに対応していません。

電波に関する注意事項

無線LANをお使いの前に、次の電波に関する注意事項をお読みください。

- 本機の無線LAN機能は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線局の無線設備として、技術基準適合証明を受けています。そのため、本機の無線LAN機能を使用するときに無線局の免許は必要ありません。なお、日本国内でのみ使用できます。

- IEEE802.11aは、電波法の規定により屋外では使用できません。

- 本機の無線LAN機能は、技術基準適合証明を受けていますので、次の事項を行うと法律で罰せられることがあります。
  - 本機を分解したり、改造したりする
  - 本機の裏面に貼ってある無線LAN注意ラベルをはがす

- IEEE802.11b/gを使用して2.4GHz付近の電波を通信している無線装置などの近くで通信すると、双方の処理速度が落ちる場合があります。電子レンジ付近の磁場、静電気、電波障害が発生するところでは、使用しないでください（環境により電波が届かない場合があります）。

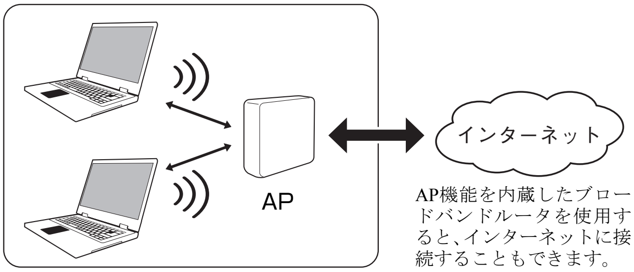
- 本機の無線LAN機能の使用する無線チャンネルが出荷時設定以外の場合は、次の機器や無線局と電波干渉するおそれがあります。
  - 産業用、科学用、医療用の各機器
  - 工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の無線局
    1　構内無線局（免許を要する無線局）
    2　特定小電力無線局（免許を要しない無線局）

  万一、本機の無線LAN機能と他の無線局との間に電波干渉が発生した場合には、速やかに本機の使用場所を変えるか、または運用を停止（電波の発信を停止）してください。

- Bluetoothと無線LANは同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、Bluetooth、無線LANのいずれかの使用を中止してください。

▶無線LANによる通信

無線LANでは、電波を送受信する無線LANアクセスポイント（以降、AP）を介して通信します。



AP機能を内蔵したブロードバンドルータを使用すると、インターネットに接続することもできます。

▶無線LANのセキュリティの概要

ここでは、無線LANで通信する際に必要なセキュリティの概要について説明します。

無線LANは、電波を使用して通信するため、第三者に電波を傍受され、ネットワークに不正に侵入されたり通信データを盗み読みされたりする可能性があります。

p.11「無線LAN使用時における セキュリティに関する注意（無線LAN搭載時のみ）」

SSIDの設定

SSIDとは、無線LANで通信を行う特定のネットワークを識別するための名前です。まず、APに任意のSSIDを設定してから、接続するコンピュータにも同じSSIDを設定します。

ただし、第三者でも簡単にSSIDを読み取ることができるため、SSIDだけではセキュリティ対策は不十分です。APにSSIDの非通知機能が搭載されている場合は、非通知にすることをおすすめします。

情報の暗号化（WEPキー /WPA）

無線LAN通信をする場合、通信データを暗号化してデータが読み取られないようにします。まず、APで暗号化の設定を行ってから、コンピュータ側で同じ暗号化設定を行います。
暗号化には次のような方法があります。

- WEPキー
  WEPキーを設定すると、データが暗号化されるため情報が傍受されにくくなります。WEPキーは従来から使用されている暗号化の規格です。
- WPA
  WPAは、WEPキーの機能をさらに強化した方式です。WPAでは、暗号鍵を一定時間ごとに自動更新するため、より安全です。

本書では、暗号化方式の1つとしてWEPキーを使用した暗号化について説明しています。

MACアドレスフィルタリング

ネットワーク製品には、MACアドレスという固有の番号がそれぞれ割り当てられています。MACアドレスフィルタリングとは、AP側に無線LANのMACアドレスを登録することで、それ以外のMACアドレスからのアクセスをAP側が拒否する機能です。

参考

無線LAN機器に関する用語一覧
無線LAN機器のマニュアルによって設定項目の呼び方が異なる場合があります。本書での記述と無線LAN機器のマニュアルが使用する類似名称の一例です。

本書での記述	類似名称
無線LAN	ワイヤレスLAN
無線LANアクセスポイント（AP）	ワイヤレスLANステーションアクセスポイント、親機、各社の製品名称
インフラストラクチャ通信	アクセスポイント通信、 アクセスポイント経由通信
SSID	ESS-ID、ESSID、ネットワーク名、 サービスセット識別子
SSID非通知	SSIDの隠ぺい、SSIDを見せない設定、 SSIDマスクビーコン、SSIDステルス
WEPキー	WEP暗号化キー、暗号化キー
MACアドレスフィルタリング	MACアドレスによる制限
キーインデックス	WEPキー番号、キー番号

▶無線LANのON/OFF

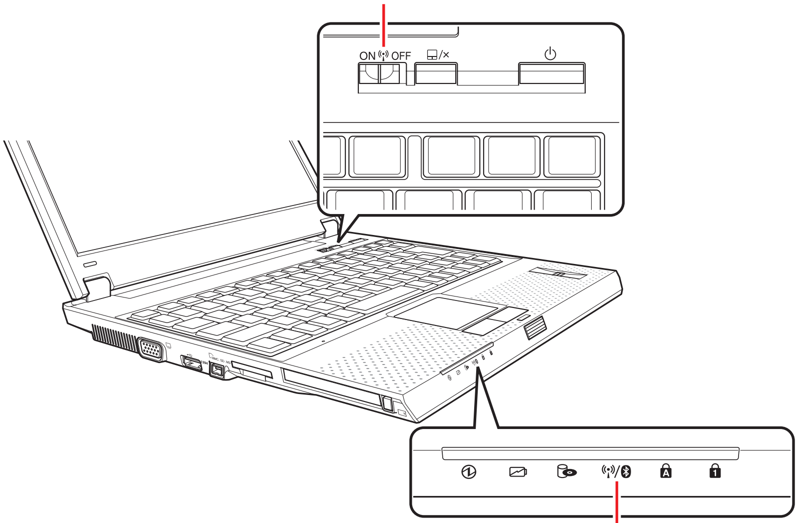
警告

航空機や病院など、使用を禁止された区域では、本機の電源を切るか電波を停止してください。
電子機器や医療電気機器に影響をおよぼす場合があります。

制限

次のような場合は、無線 LAN を OFF にしてください。
- 航空機や病院など、使用を禁止された区域に持ち込む場合
- ネットワーク（有線LAN）を使用する場合

無線LANを使用する場合は、無線LANスイッチをスライドさせてONにします。購入時にはOFFに設定されています。



無線LANスイッチの状態は、無線LAN/Bluetooth状態ランプ（ ）で確認できます。

無線LANスイッチの状態	無線LAN状態ランプ
ON	点灯（緑色）*
OFF	消　灯

*無線LAN機能とBluetooth機能を同時にONにすると、ランプの色は黄色になります。

p.103 「Bluetooth機能のON/OFF」

▶無線LANで接続する

ここでは、本機の無線LAN機能を使ってAPに接続するための方法について説明します。

無線LAN接続の作業の流れ

無線LANで接続するための作業の流れは次のとおりです。

APの設定を確認する

↓

無線LANを有効にする

↓

無線LANユーティリティの設定

↓

MACアドレスの確認

APの設定を確認する

コンピュータ側で設定を行う際に、APに登録されている「SSID」と「暗号化」の設定内容を入力する必要があります。APに添付のマニュアルを参照して、「SSID」と「暗号化」の設定を確認しておいてください。

無線LANを有効にする

本機の無線LANがOFFに設定されている場合は、無線LANをONにしてください。

p.138「無線LANのON/OFF」

無線LANユーティリティの設定

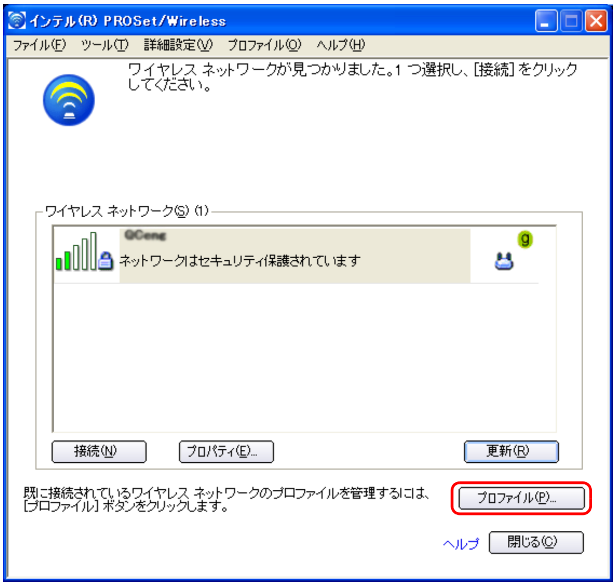
無線LANユーティリティ「インテルPROSet/Wireless」を使って、コンピュータをAPに接続するための設定について説明します。

会社のネットワークなど、ドメイン環境に接続する場合は、p.142「ドメインに接続するための設定」を参照して設定を行ってください。

1　通知領域の「インテル（R）PROSet/Wireless」アイコンをダブルクリックします。



2 「インテル (R) PROSet/Wireless」画面が表示されたら、[プロファイル] をクリックします。



3 「プロファイル」画面が表示されたら、[追加] をクリックします。

4 「ワイヤレスプロファイルの作成」画面の「一般設定」で、次の設定を行います。

(1) 「プロファイル名」に、任意の名前を入力します。

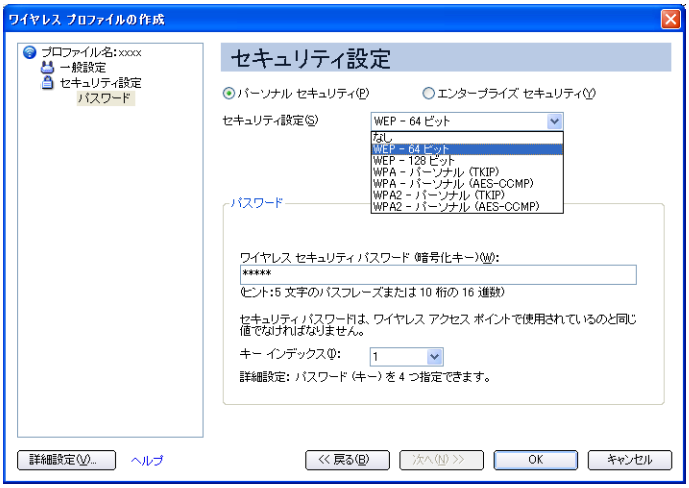
本ユーティリティでは、無線LANの接続設定を、プロファイルとして管理します。

(2) 「ワイヤレス ネットワーク名 (SSID)」に、接続するAPで設定されたSSID を入力します。

(3) 「操作モード」で、「ネットワーク（インフラストラクチャ通信）…」を選択します。

(4) [次へ] をクリックします。

5 **「ワイヤレスプロファイルの作成」画面の「セキュリティ設定」で、接続するAPで設定された暗号化に関する設定などを行います。**



ここでは、APにWEPキーの64ビットが設定されている場合を説明します。AP にWEP キー以外の暗号化方式が設定されている場合は、お使いになるAPに添付のマニュアルなどをご覧になり、AP 接続に必要な項目の設定を行ってください。
「セキュリティ設定」画面の詳細は、画面左下のヘルプをご覧ください。

(1) 「パーソナルセキュリティ」を選択します。

(2) 「セキュリティ設定」で「WEP-64 ビット」を選択します。
AP のWEP キーの設定と同じ内容にします。

(3) 「ワイヤレス セキュリティパスワード（暗号化キー）」に、APで設定されているパスワードを入力します。

(4) 「キーインデックス」で1 ～4の中から1つを選択します。
APのキーインデックスと同じ設定にします。

(5) ［OK］をクリックします。

6 **「インテル（R）PROSet/Wireless」画面で、作成したプロファイルを選択して、［接続］をクリックします。**

これでAPとの接続は終了です。

MAC アドレスの確認

本機の無線LANのMAC アドレスを、「インテルPROSet/Wireless」画面で確認します。使用するネットワーク環境のプロファイルを選び、「プロファイル」項目右上の［詳細］をクリックして確認します。確認したMACアドレスをAPに登録してください。登録方法については、お使いのAP に添付のマニュアルをご覧ください。

無線LANを使う

ネットワークへの接続

「インテルPROSet/Wireless」に登録した無線LANの接続設定は、プロファイルとして表示されます。無線LANで接続するには、「インテルPROSet/Wireless」画面で［接続］をクリックします。
複数の無線LAN接続設定をプロファイルとして登録している場合には、接続したいプロファイルを選択して［接続］をクリックすると、接続先を切り替えることができます。通常は自動的に前回接続したプロファイルに接続されます。

ネットワークの設定切替機能

無線LANの接続先が複数ある場合や、有線LANに接続する場合など、接続するネットワーク環境の設定を、簡単に切り替えることができます。
接続先の設定を、「ネットワーク切替えツール」のプロファイルに登録しておきます。
p.131 「ネットワーク切替えツールを使う」
※アクセスポイントを切り替えるツールではありません。

チャンネルの切り替え

本機から発信する電波がほかの無線LAN 環境と干渉してしまった場合は、AP側で使用チャンネルを変更してください。使用チャンネルの変更方法は、お使いになるAP により異なります。詳しくは、お使いのAP に添付のマニュアルをご覧ください。

ドメインに接続するための設定

会社などでドメイン環境に接続する場合は、Windowsログオン前にAPに接続する必要があります。そのためには、次の設定を行ってください。作業は、ネットワーク管理者の指示に従って行ってください。

- 機能の追加
- 管理ツールでの無線LAN接続設定
- Windowsでの設定

ここでは、機能の追加と管理ツールでの接続設定を説明します。

制限

設定は、「コンピュータの管理者（Administrator）」権限でログオンして行ってください。

ドメイン環境に接続しない場合は、これらの設定を行う必要はありません。

機能の追加

ドメインに接続する場合は、無線LANユーティリティにシングルサインオン機能と管理ツールをインストールする必要があります。インストール手順は次のとおりです。

1 **デスクトップ上に表示された「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。**



2 **「リカバリツール」画面が表示されたら、［インストール］をクリックします。**

3 **本体ドライバやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「本体ドライバ」を選択して［インストール］をクリックします。**
手順4の画面が表示されるまでには、数分かかります。

4 **「ドライバ・ソフトウェアのインストール」画面が表示されたら、一覧から「項目別インストール」を選択します。**

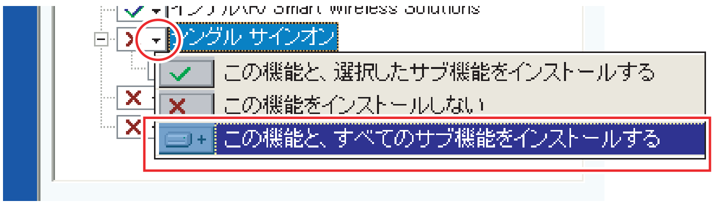
5 **「ドライバ・ソフトウェアのインストールと削除」画面が表示されたら、一覧から「無線LANドライバ」を選択し、［インストール］をクリックします。**

6 **「インテル（R）PROSet/Wireless　インストーラ」画面が表示されたら、［ソフトウェアのインストール］をクリックします。**

7 **表示された項目から「変更」を選択し、［次へ］をクリックします。**

8 **一覧が表示されたら、次の2つの項目で、それぞれ▼をクリックして、「この機能と、すべてのサブ機能をインストールする」を選択しクリックします。**

- シングルサインオン
- 管理ツール



9 **［編集］をクリックします。**

10 **「コンポーネントの変更を完了しました」と表示されたら［OK］をクリックします。**
表示される画面の指示に従いWindowsを再起動すると、インストールは完了です。

参考

Windowsのログオン画面

この設定を行って機能を追加すると、Windowsのログオン画面の表示が変わります。

ログオン時は、ユーザー名とパスワードを入力して［OK］をクリックします。パスワードを設定していない場合は、パスワード欄は何も入力する必要はありません。

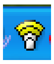
続いて、管理ツールで接続設定を行います。

管理ツールでの無線LAN接続設定

WindowsにログオンしたときにI無線LANに接続できるように管理ツールで設定を行います。

手順は次のとおりです。

1. **通知領域の「インテル（R）PROSet/Wireless」アイコンをダブルクリックします。**



2. **「インテル（R）PROSet/Wireless」画面が表示されたら、「ツール」メニューの「管理ツール」をクリックします。**

3. **「パスワードの作成」画面が表示されたら、「パスワード」と「パスワードの確認」にパスワードを入力して［OK］をクリックします。**

   「管理ツール」を次に使用するときは、ここで設定したパスワードの入力が必要になります。

4. **「管理パッケージを開く」画面が表示されたら、「新しいパッケージを作成する」を選択して［OK］をクリックします。**

5. **「管理者ツール－新しいパッケージ」画面が表示されたら、「プロファイル」タブ内の「ログオン前／共通」タブをクリックします。**

6. **［追加］をクリックします。**

7 **「ワイヤレスプロファイルの作成」画面の「一般設定」で、次の設定を行います。**

(1)「プロファイル名」に、任意の名前を入力します。

本ユーティリティでは、無線LANの接続設定を、プロファイルとして管理します。

(2)「ワイヤレス　ネットワーク名（SSID）」に、接続するAPで設定されたSSIDを入力します。

(3)［次へ］をクリックします。

8 **「ワイヤレスプロファイルの作成」画面の「セキュリティ設定」で、APの設定にあわせて暗号化に関する項目を設定します。**

p.139 「無線LANユーティリティの設定」手順5

9 **「管理者ツール－新しいパッケージ」画面の「ファイル」メニューから、「パッケージを保存する」を選択してクリックします。**

10 **「名前をつけて保存」画面で、「保存する場所」を選択し、任意の「ファイル名」を入力して［保存］をクリックします。**

11 **「保存されているパッケージ」画面が表示されたら、［終了］をクリックします。**

12 **「パッケージが保存されました」画面が表示されたら、「このパッケージをコンピュータに適用する」にチェックを付けて［OK］をクリックします。**

これで、管理ツールの設定は終了です。

Windowsでの設定

ドメインに接続するには、続けてWindowsの設定が必要です。詳細はネットワーク管理者にご確認ください。

インターネットに接続するには

ホームページを見たり、電子メールをやり取りしたりするためには、インターネットへの接続が必要です。ここではインターネットへの接続方法やインターネットを利用する上での注意事項について説明します。

▶接続するまでの流れ

インターネット接続までの流れは次のとおりです。

接続方法の選択

↓

プロバイダとの契約

↓

インターネットに接続

▶接続方法の選択とプロバイダとの契約

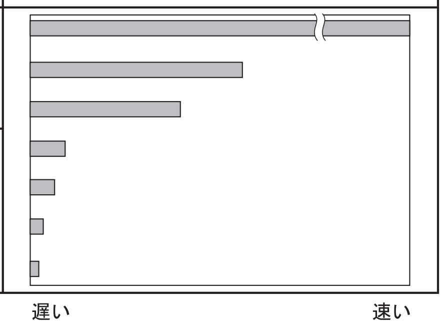
インターネットへ接続するには、接続方法を決め、その接続方法でサービスを提供しているプロバイダ（インターネットサービスプロバイダ、ISP）と契約します。

接続方法は、目的や使い方に合わせて選択しましょう。また、同じ接続方法でも、通信速度や料金、サポート内容はプロバイダによって異なります。詳しい内容はプロバイダに確認してください。

接続方法の種類

高速なインターネット接続をブロードバンドと呼び、光ファイバー、ADSL、CATVなどでの接続がそれにあたります。また、アナログ電話回線、ISDNなどでの低速な接続をナローバンドと呼びます。

接続方法	接続環境	インターネットでの通信速度イメージ
光ファイバー	ブロードバンド	
ADSL		
CATV		
ISDN	ナローバンド	
PHS		
携帯		
アナログ		



インターネット接続の方法には、主に次のようなものがあります。

- **光ファイバー（FTTH）**
  ほかのブロードバンド接続と比べても、数段に速く安定しているため、映像などの大量のデータ転送も無理なくできます。また、インターネットと合わせてテレビや電話も利用することができます。
  ただし、接続料金が高く、非対応の地域があります。
- **ADSL**
  電話回線を利用します。インターネットをストレスなく使えます。通信速度は、プロバイダのプランから使い方に合わせて選ぶことができます。
  利用電話局からの距離が遠くなるにつれ速度が遅くなってしまうので、事前に速さの確認をする必要があります。
- **CATV**
  ケーブルテレビのケーブルを利用します。インターネットをストレスなく使えます。
- **そのほかの接続方法（ナローバンド）**
  ほかにもアナログ電話回線やISDN回線を使った低速な接続方法があります。

参考

ダイヤルアップ接続
ブロードバンドは常時接続が一般的ですが、ナローバンドでは、必要時に電話回線を通じてインターネットに接続します。この作業をダイヤルアップ接続と呼びます。

必要な機器

インターネット接続に必要な機器は接続方法によって異なります。詳しくは各プロバイダにお問い合わせください。

▶インターネットに接続する

プロバイダと契約すると、メールアドレスやパスワードなどインターネットへの接続に必要な情報と、接続手順を記載した説明書がプロバイダより提供されます。説明書に従って接続作業を行ってください。

参考

再インストール後のインターネット接続
Windowsを再インストールした場合は、インターネットに接続するための設定作業が再度必要になります。プロバイダからの説明書は失くさないように大切に保管してください。

▶インターネットを使う上での注意

インターネットを使用すると、簡単に情報を得ることができたり、手軽にメッセージを送ったりすることができますが、その反面注意しなければならないことがあります。次の点に気をつけてインターネットを使用してください。

- 電子メールは途中経路の障害などにより、届かない場合もあります。
- 電子メールは世界中の多くのコンピュータを経由して届けられるため、第三者に内容を見られる可能性があります。
- インターネット上の情報は、必ずしも正しいとは限りません。正しい情報であるかどうかを十分に見極めて、有効に活用する必要があります。
- 安易に個人情報をホームページに掲載したり、電子メールで送ったりすると、悪用されることがあります。また、他人の個人情報を断りなくホームページに掲載したり、電子メールで送ったりすると法律で罰せられます。
- ホームページからダウンロードするデータによっては、コンピュータが障害を被ることがあります。
- コンピュータウイルスに感染すると、コンピュータが障害を被る可能性があります。また、無許可のユーザーにインターネットを介して本機にアクセスされる可能性もあります。
  ウイルスに感染する主な原因は次のとおりです。
  - ウイルスが添付されたメールを受信する
  - 悪質なプログラムが起動するホームページを閲覧する

  これらの危険から本機を守る方法については、p.151 「インターネットを使用する際のセキュリティ対策」をご覧ください。

▶インターネットや電子メールを利用する

本機では、次のソフトウェアを使用してインターネットや、電子メールを利用します。

- ホームページの閲覧：Internet Explorer（インターネットエクスプローラ）
- 電子メールの利用：Outlook Express （アウトルックエクスプレス）

各ソフトウェアの使用方法は、次をご覧ください。

「インフォメーションメニュー」－「PCお役立ち情報」

Outlook Expressの初期設定

Outlook Expressをはじめて起動した際に「インターネット接続ウィザード」画面が表示された場合は、初期設定を行います。
初期設定では、メールアドレスなどの接続に必要な情報を入力します。これらの情報は、プロバイダから提供された説明書をご覧ください。

初期設定方法は次のとおりです。

1 [スタート] – [すべてのプログラム] – 「Outlook Express」をクリックします。

Outlook Expressが起動します。

2 「インターネット接続ウィザード」画面で「名前」と表示されたら、名前を入力して［次へ］をクリックします。

3 「インターネット電子メールアドレス」と表示されたら、プロバイダから取得したメールアドレスを入力して［次へ］をクリックします。

4 「電子メールサーバー名」と表示されたら、プロバイダから指定されている受信メールサーバと送信メールサーバを入力して [次へ] をクリックします。

5 「インターネットメールログオン」と表示されたら、プロバイダから指定されているメールアカウントとメールパスワードを入力して［次へ］をクリックします。

6 「設定完了」と表示されたら、［完了］をクリックします。

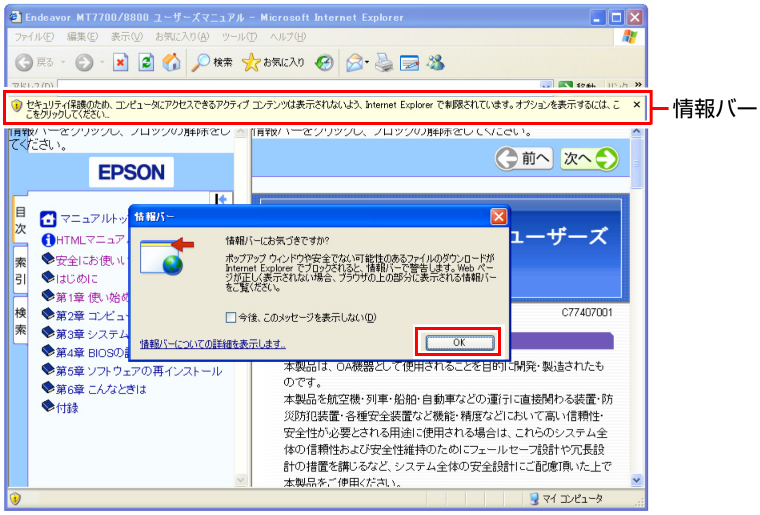
参考

初期設定をあとから行う
「Outlook Express」の次の場所から設定を行うことができます。
「ツール」メニュー –「アカウント」–［追加］–「メール」

2

Internet Explorerで情報バーが表示されたら

購入時のInternet Explorerは、セキュリティ強化のために、意図しないプログラムや実行ファイルのダウンロードについて警告するよう設定されています。Internet Explorer使用時に「警告」画面が表示されたら、［OK］をクリックして画面を閉じ、「情報バー」をクリックして、表示された項目から適切な対処をしてください。



Internet Explorerの便利な追加機能

本機にはInternet Explorerの便利な機能として、次のソフトウェアが添付されています。

● JWord

「JWord」を使うと、アドレスバーを利用して、簡単に検索ができます。
JWordの詳しい使い方は、デスクトップ上にある「簡単検索JWord」アイコンからマニュアルを開いてご覧ください。



● gooスティック

Internet Explorerのツールバーに、検索サービス「goo」の検索ボックスが設定されています。「gooスティック」を使うと、検索機能や辞書機能をいつでも利用することができます。

● マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版

Internet Explorerのツールバーに、「McAfee SiteAdvisor」ボタンが設定され、Webサイトの安全性評価を確認できます。マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版の詳しい使い方は、ボタンから「ヘルプ」をご覧ください。

インターネットを使用する際のセキュリティ対策

本機には、インターネットに接続した際に起こりうるコンピュータウイルス感染や不正アクセスなどの危険に対するセキュリティ機能が備えられています。
ここでは、このセキュリティ機能について説明します。インターネットに接続する場合は、コンピュータの安全を守るため、必ずセキュリティ対策を行ってください。

▶Windows Update

「Windows Update」は、本機のWindowsの状態を診断し、Windowsの更新プログラムをインターネットからダウンロードしてインストールする機能です。
Windowsを最新の状態にするため、Windows Updateを行ってください。

はじめてインターネットに接続したときは

はじめてインターネットに接続したときや、Windowsの再インストールをした場合は、手動でWindows Updateを行ってください。
手動でWindows Updateを行う方法は、次のとおりです。

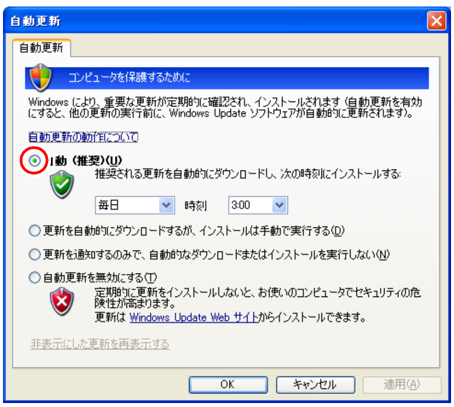
1 **［スタート］－「すべてのプログラム」－「Windows Update」をクリックします。**

2 **Windows Updateのホームページが表示されたら、ホームページの記載に従って更新プログラムをダウンロード、インストールします。**

自動更新の設定

本機は、自動的にWindows Updateが行われるよう、自動更新の設定がされています。そのままお使いください。
自動更新の設定がされていると、インターネットに接続時、更新プログラムが自動的にダウンロードされ、設定時刻に自動でインストールされます。
設定時刻に本機が起動していない場合は、次回起動時に自動でインストールされます。
自動更新は次の場所で設定されています。

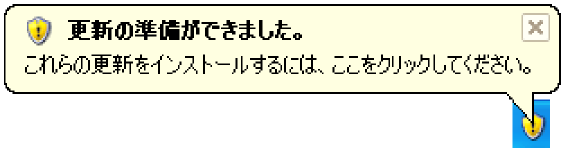
［スタート］－「コントロールパネル」－「セキュリティセンター」－「自動更新」



2

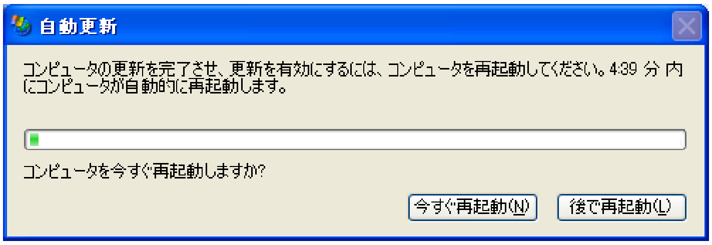
「更新の準備ができました。」と表示されたら

インターネットに接続時、更新プログラムが自動的にダウンロードされると、画面右下に「更新の準備ができました。」と表示されます。インストールの設定時刻になる前に更新プログラムをインストールしたい場合は、通知アイコンをクリックし、インストールをしてください。



「自動更新」画面が表示されたら

インストールの設定時刻（または次回起動時）に更新プログラムの自動インストールが行われると、「自動更新」画面が表示されます。作業中の場合はデータを保存してください。本機が再起動したら、インストールは完了です。



セキュリティソフトウェア

コンピュータウイルスは、インターネット上やメールの添付ファイルなどから感染する悪意のあるプログラムです。
コンピュータウイルスに感染すると、本機の動作が不安定になったり、保存してあるファイルが破損するなどの被害が発生します。
ウイルス感染を防ぐために、必ずウイルス対策を行ってください。

Norton Internet Security 90日版を使う

本機には、ファイアウォールやウイルス対策機能、フィッシング詐欺検出機能を備えた「Norton Internet Security 90日版」が添付されています。購入時にNorton Internet Security 90日版はインストールされていませんので、必要に応じてインストールを行ってください。詳しくは、『セキュリティソフトウェアをご使用の前に』（別冊）をご覧ください。



更新サービスの有効期限

本機に添付のNorton Internet Security 90日版は、製品版ではありません。更新サービスの有効期限は、セットアップ後90日間です。90日経過後は、更新サービスの延長キー（有償）を購入すると、1年間使用可能です。更新サービスの詳細は、『セキュリティソフトウェアをご使用の前に』をご覧ください。

市販のセキュリティソフトウェアを使う

市販のセキュリティソフトウェアを使用する場合は、ソフトウェア同士の競合を防ぐため、Norton Internet Security 90日版はインストールしないでください。インストールしていた場合は、アンインストール（削除）してください。アンインストール方法は、『セキュリティソフトウェアをご使用の前に』をご覧ください。

ファイアウォール

インターネットに接続していると、不正なアクセスにより、本機のデータやプログラムを勝手に見られたり、改ざんされたり、破壊されたりする可能性があります。「ファイアウォール」は、これらの不正アクセスを検出し、遮断する機能です。
不正アクセスを遮断するため、必ずファイアウォール機能を使用してください。

Norton Internet Security 90日版のファイアウォール機能

本機に添付の「Norton Internet Security 90日版」には、ファイアウォール機能が備えられています。Norton Internet Security 90日版のセットアップを行うと、自動的にファイアウォール機能が有効になりますので、そのままお使いください。

Windowsファイアウォールの設定

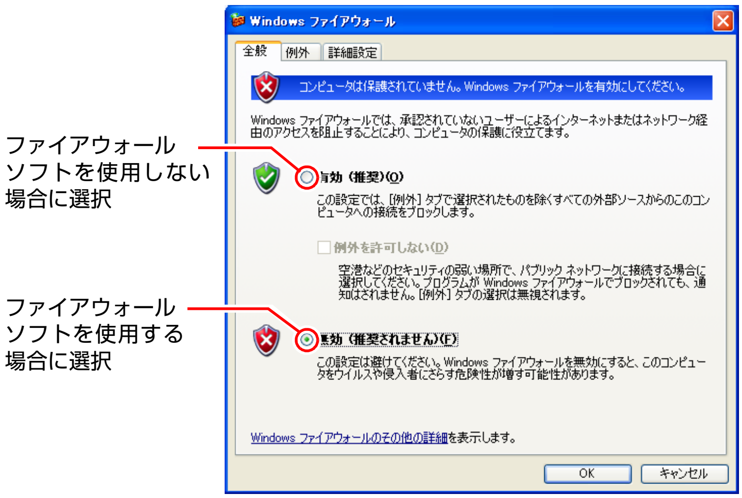
本機には、Windowsのファイアウォール機能が備えられています。
本機の状態によって、Windowsファイアウォールを次のように設定してください。

＜ファイアウォール機能を持つソフトウェアを使用している場合＞
ファイアウォール同士の競合を防ぐため、Windowsファイアウォールを「無効」に設定してください。ソフトウェアによっては、Windowsファイアウォールが自動で「無効」に設定される場合があります。

＜ファイアウォール機能を持つソフトウェアを使用しない場合＞
Windowsファイアウォールを「有効」に設定してください。

Windowsファイアウォールの有効/無効の設定は、次の場所から行います。

［スタート］－「コントロールパネル」－「セキュリティセンター」－「Windowsファイアウォール」



▶Webフィルタリングソフトウェア

Webフィルタリングとは、インターネット上の有害なサイトを見せないようにするための技術です。Webフィルタリングは万全ではありません。ただし、有害サイトへのアクセスを自動的に制限することができます。

i−フィルター 30日版を使う

本機には、「Webフィルタリング」機能を持つ「i−フィルター 30日版」が添付されています。家庭内でお子様がコンピュータを使用する際に、有害なサイトへのアクセスを制限したいときなどは、i−フィルター 30日版を使用することをおすすめします。

i−フィルター 30日版のインストール

購入時、本機にはi−フィルター 30日版はインストールされていません。
インストール方法は、p.213 「i−フィルター 30日版のインストール」をご覧ください。

市販のWebフィルタリングソフトウェアを使用する場合は、ソフトウェア同士の競合を防ぐため、i−フィルター 30日版はインストールしないでください。

i−フィルター 30日版の使用方法

i−フィルター 30日版をインストールすると、フィルター設定が有効になり、有害サイトにアクセスしようとすると、自動的にブロックされます。

初期設定では、フィルター強度は中学生向けです。フィルター強度は使用者別に設定できます。必要に応じて、「設定メニュー」画面で設定を変更してください。
「設定メニュー」画面の表示方法は、次のとおりです。

1　通知領域の「i−フィルター」アイコンをクリックします。



＜i−フィルターアイコン＞

2 **「パスワード確認」画面が表示されたら、管理パスワードを入力して［OK］をクリックします。**

「設定メニュー」画面が表示されます。

i－フィルター 30日版の詳しい使用方法は、ヘルプをご覧ください。



参考

ファイアウォール機能による警告画面が表示された場合は

セキュリティソフトウェアのファイアウォール機能を有効にしている場合、インターネット閲覧時に「i－フィルター 30日版」でのインターネットアクセスに関する警告が表示されることがあります。

この場合は、「i－フィルター 30日版」の使用を許可してください。

i－フィルター 30日版の利用期限

i－フィルター 30日版の利用期限は、セットアップ後30日間です。利用期限が過ぎると、フィルター機能が停止します。

<継続して利用する場合>

継続利用の手続き（有償）をオンラインで行ってください。

p.157「i－フィルター 30日版のサポート」

制限

本機に添付のｉ－フィルター 30 日版は、「i －フィルター更新パック」で継続利用手続きを行うことはできません。

＜継続して利用しない場合＞

iーフィルター 30日版のアンインストールを行ってください。

iーフィルター 30日版のアンインストール方法は、デジタルアーツ社のホームページの「よくある質問」をご覧ください。

p.157 「iーフィルター 30日版のサポート」

iーフィルター 30日版のサポート

iーフィルター 30日版のサポートは、デジタルアーツ社で行います。

よくあるご質問と回答・サポート窓口・継続利用手続き・サービスページなどについては、デジタルアーツ社の次のホームページをご覧ください。

http://www.daj.jp/cs/ifpe/sup_dl.htm

なお、このサポート情報は、予告なく変更される場合があります。

FAXモデムを使う

本機には56Kbps（V.92対応）の通信速度に対応したFAXモデムが搭載されていて、ナローバンドでの通信が可能です。ここでは、FAXモデムを使用してダイヤルアップ接続でインターネットに接続するための設定について説明します。

注意

FAX モデムを次の回線に接続しないでください。発熱し火災の原因となります。
- 構内交換機（PBX）
- 2線式でない回線（ホームテレホンやビジネスホンなど）
- ISDN対応公衆電話のデジタル側ジャック

お使いになる前に

使用回線について

本機は、ダイヤル回線でも、プッシュ回線でも使用できます。使用している回線がどちらかわからないときは、NTTへお問い合わせください。ダイヤル回線、プッシュ回線の選択は、添付されている通信ソフトや、Windows上で設定することができます。

- ダイヤル回線（パルス）
  回転式ダイヤル電話のように、ダイヤルの戻る時間によりダイヤルパルス信号を送り、相手につなげる方式の電話回線のことです。
- プッシュ回線（トーン）
  押しボタン電話機のように、「ピ・ポ・パ・・」とトーンによる信号を送り、相手につなげる方式の電話回線のことです。

特殊な電話機・回線での使用

- PBXやホームテレホン回線への接続
  本機のFAXモデムは、構内交換機（PBX）やホームテレホン、ビジネスホンなどの2線式でない回線およびISDN対応公衆電話のデジタル側ジャックに接続して使用できません。モデムに必要以上の電流が流れ、故障の原因になります。これらの回線には接続しないでください。
- キャッチホンサービスについて
  NTTのキャッチホンサービスや他社の類似サービスを利用している場合、キャッチホンの呼び出し音によって通信中の回線が切断されます。モデムを接続する回線では、キャッチホンサービスの利用は避けてください。なお、この現象を回避できるサービスについては、NTTまたは類似サービスの供給元へお問い合わせください。

通信速度の制限

本機のモデム機能は、V.92*通信方式により、最大受信速度（プロバイダなどの相手側から本機側への方向）は、56000bps、最大送信速度（本機からプロバイダなどの相手側への方向）は、48000bpsになります。
ただし、この最大送受信速度は、接続先のプロバイダやアクセスポイントなどの電話回線状況、モデムの性能や送出レベルなどにより変化します。また、接続先のプロバイダなどが同じ規格に対応しており、お客様の電話回線がつながる電話局の交換機とプロバイダまでの通信経路がデジタル化されている必要があります。
*V.92 ：ITU-T 国際電気通信連合が制定した通信規格

2

通信を行う

モデム機能を使って、データ通信やFAX機能を使用するには、別途通信ソフトウェアが必要です。通信ソフトウェアのインストール方法や使い方については、通信ソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。
また、Windowsの通信機能を使用する場合は、「Windowsのヘルプ」をご覧ください。

ATコマンドについて

本機のモデム機能では、モデム制御コマンドとして、「ATコマンド」を採用しています。ATコマンドについては、p.276 「ATコマンドの使用」をご覧ください。

▶ダイヤル情報の設定

モデムの設定をしていない場合は、市外局番やダイヤル方法などの設定を行います。

1 **［スタート］－「コントロールパネル」－「プリンタとその他のハードウェア」－「電話とモデムのオプション」をクリックします。**

2 **「国名/地域名」、「市外局番/エリアコード」、「外線発信番号」や「ダイヤル方法」などを設定します。**
これでダイヤル情報の設定は完了です。
インターネットに接続する場合は、このあとダイヤルアップ接続の設定が必要です。
p.160 「手動でダイヤルアップ接続の設定をする」

▶手動でダイヤルアップ接続の設定をする

はがきや電話で加入申し込みをした場合は、プロバイダから提示された資料に基づいて各種設定を行います（ダイヤルアップ接続の設定）。次の手順は設定方法の一例です。プロバイダから設定方法資料が提供されている場合は、そちらを参照してください。

参考

接続に関する用語一覧
プロバイダによって設定項目の呼び方が異なる場合があります。本書での記述とプロバイダが使用する類似名称の一例です。

本書での記述	類似名称
接続ユーザー名	ユーザ名、コネクションID 、PPPログイン名、アカウント名、アカウント、ID、接続ID 、ID番号、接続アカウント、ダイヤルアップログイン名
接続パスワード	パスワード、PPPパスワード、ダイヤルアップパスワード、初期パスワード、コネクションパスワード
メールアカウント	Mailアカウント名、メールボックス名、メールボックス、メールアカウント名、Mailアカウント、アカウント名
メールパスワード	Mailパスワード、パスワード、初期パスワード
受信メールサーバ	メールサーバ、受信メールサーバ（POP3）
送信メールサーバ	メールサーバ、送信メールサーバ（SMTP）

手動でダイヤルアップ接続の設定を行う手順は、次のとおりです。

1 ［スタート］－「すべてのプログラム」－「アクセサリ」－「通信」－「新しい接続ウィザード」をクリックします。

2 「新しい接続ウィザードの開始」と表示されたら、［次へ］をクリックします。

3 「ネットワーク接続の種類」と表示されたら、「インターネットに接続する」にチェックが付いている状態で［次へ］をクリックします。

4 「準備」と表示されたら、「接続を手動でセットアップする」にチェックを付けて［次へ］をクリックします。

5 「インターネット接続」と表示されたら、「ダイヤルアップモデムを使用して接続する」にチェックを付けて［次へ］をクリックします。

6 「接続名」と表示されたら、アクセスポイントの名前を入力して［次へ］をクリックします。

7 「ダイヤルする電話番号」と表示されたら、アクセスポイントの電話番号を入力して［次へ］をクリックします。

8 「インターネットアカウント情報」と表示されたら、プロバイダから指定されている「ユーザー名」、「パスワード」をそれぞれの項目に入力して［次へ］をクリックします。

9 「新しい接続ウィザードの完了」と表示されたら、［完了］をクリックします。

10 ［スタート］－「接続」－「（手順6で設定したアクセスポイントの名前）」をクリックします。

11 ［プロパティ］をクリックします。

12 プロバイダから DNS（ネーム）サーバのアドレスを指定されている場合は次の設定を行います。

(1) 「ネットワーク」タブの「インターネットプロトコル（TCP/IP）」を選択し［プロパティ］をクリックします。
(2) 「次のDNSサーバーのアドレスを使う」にチェックを付けます。
(3) 「優先DNSサーバー」、「代替DNSサーバー」に、プロバイダから指定されているDNS（ネーム）サーバのアドレスを入力し、［OK］をクリックします。

13 「全般」タブ－「ダイヤル情報を使う」にチェックを付けて［OK］をクリックします。

14 「（手順6で設定したアクセスポイントの名前）へ接続」の画面で［キャンセル］をクリックします。

☞ p.162 「回線接続前の設定」に進みます。

2

▶回線接続前の設定

Windows XPでは回線に接続する前に、接続に関する次の設定を行います。

- **接続方法の設定**
  電話回線を使用して、インターネットに接続するように設定をします。
- **切断画面の設定**
  Internet Explorerを終了した際に、インターネットとの切断画面を表示するように設定します。

接続に関する設定は、次の手順で行います。

1. **［スタート］－「コントロールパネル」－「ネットワークとインターネット接続」－「インターネットオプション」－「接続」タブをクリックします。**
2. **「通常の接続でダイヤルする」にチェックを付けます。**
   （接続方法の設定）
3. **［設定］－［詳細設定］をクリックします。**
4. **「接続が必要なくなったとき切断する」にチェックを付けて［OK］をクリックします。**（切断画面の設定）
5. **「（接続先の名前）の設定」画面で［OK］をクリックします。**
6. **「インターネットのプロパティ」画面で［OK］をクリックします。**
   これで接続に関する設定は完了です。

省電力機能を使う

省電力機能を利用すると、本機を使用していない間、省電力状態に移行して消費電力を抑えることができます。特にバッテリだけで使用する場合は、省電力機能を使うことで本機の使用可能時間を延ばすことができます。

参考

本機では、この機能のほかに、光ディスクドライブの電源を切って消費電力を抑えることもできます。

p.85 「光ディスクドライブのON/OFF」

▶省電力機能使用時の注意

省電力機能を使用する際には、次のような制限事項があります。使用する前に確認して正しくお使いください。

- 省電力状態に移行する場合は、万一正常に復帰しない場合に備え、使用中のデータ（作成中の文書やデータなど）は保存しておいてください。
- 次のような場合は、省電力状態に移行しないことがあります。
  - 周辺機器を接続している
  - ソフトウェアを起動している
- 次のような場合に省電力状態に移行すると、不具合が発生する可能性があります。省電力状態に移行しないように設定してください。

  p.166 「時間経過で移行させない」
  - 光ディスクメディアへの書き込み時：書き込みに失敗する可能性
  - サウンド機能で録音、再生時：録音や再生が途中で切断される可能性
  - メモリカードなど外部接続記憶装置へのデータ書き込み時：データ破壊の可能性
  - FAXモデム、ネットワーク機能やBluetooth機能などを使っての通信時：通信が切断される可能性
  - 動画再生時：コマ落ちしたりソフトウェアの動作が遅くなるなどの現象が発生する可能性
- 次のような場合は、省電力状態から正常に復帰できないことがあります。
  - 省電力状態で、PCカードや周辺機器などの抜き差しを行った場合
  - ネットワーク上のファイルなどを開いたまま、省電力状態に移行した場合
- ネットワークに接続している場合に、省電力状態に移行すると、省電力状態からの復帰時にサーバから切断されてしまうことがあります。
- 光ディスクドライブの電源を切っていた場合でも、省電力状態から復帰すると、光ディスクドライブの電源は自動的にONになります。必要に応じてOFFにしてください。

  p.85 「光ディスクドライブのON/OFF」

● Bluetooth機能をONにしていた場合でも、休止状態に移行するとBluetooth機能は自動的にOFFになります。その場合は、再度Bluetooth機能をONにしてください。

p.103 「Bluetooth機能のON/OFF」

省電力状態の種類

省電力状態には、主に次のようなものがあります。

● **HDD/ディスプレイの電源を切る**

HDDやディスプレイの電源を切ります。省電力の効果は、スタンバイより低いですが、通常の状態にすぐに復帰できます。

● **スタンバイ**

作業内容をメモリに保持した状態で本機の動作を中断します。ディスプレイの電源が切れ、電源ランプと電源スイッチが点滅します。通常の状態へは、十数秒で復帰できます（使用環境により復帰時間は異なります）。

● **休止状態**

作業内容をHDDに保存して電源を切ります。本機の電源を切った状態と同様に電力を消費しません。通常の状態への復帰には多少時間がかかります。
休止状態を有効にするためには設定が必要です。

p.165 「休止状態を有効にする」

電源ランプの表示

省電力状態は、電源ランプ（⏻）の点灯、点滅により確認できます。

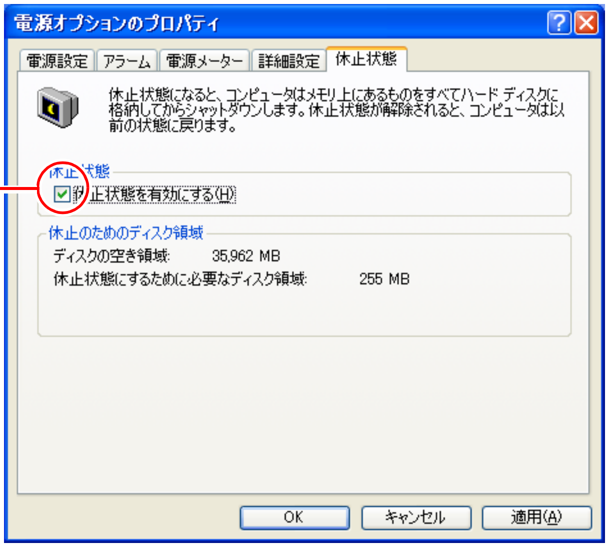
動作状態	電源ランプの表示
通常の状態	点　灯
HDD/ディスプレイの電源を切る	点　灯
スタンバイ	点　滅
休止状態	消　灯
電源切断時	消　灯

休止状態を有効にする

「休止状態」タブの「休止状態を有効にする」にチェックを付けると休止状態が有効になります。
休止状態の設定は、次の画面で行います。

［スタート］－「コントロールパネル」－「パフォーマンスとメンテナンス」－「電源オプション」－「休止状態」タブ

チェックをつける



▶省電力状態に移行する

省電力状態に移行するには、次の方法があります。

- **時間経過で移行する**
  設定した時間を超えて本機を使用しないと省電力状態に移行します。
- **直ちに移行する**
  席を外すときなどに、手動で省電力状態に移行します。
- **バッテリ残量低下時に移行する**
  バッテリ残量が少なくなると、省電力状態に移行します。

省電力に関する各種設定は、次の画面の各タブで行います。

［スタート］－「コントロールパネル」－「パフォーマンスとメンテナンス」－「電源オプション」

時間経過で移行する

省電力状態に移行する時間の設定は、「電源設定」タブで行います。



設定した時間を超えて何も操作しないと、各モードに移行

時間経過で移行させない

光ディスクメディアへ書き込みを行う場合などは、時間経過による省電力状態への移行を無効に設定します。

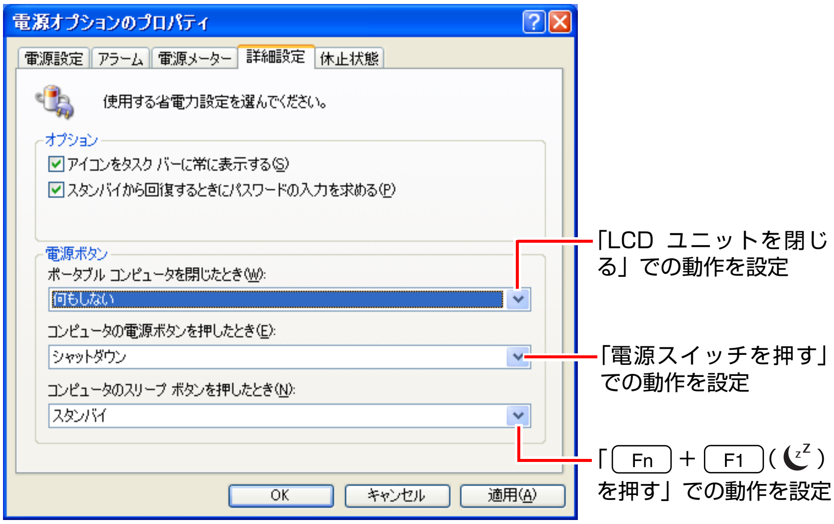
時間経過による省電力状態への移行を無効にするには、「モニタの電源を切る」などすべての項目の時間設定を「なし」に設定します。

直ちに移行する

次の方法でスタンバイ、または休止状態に移行します。

- **[スタート] －「終了オプション」から選択、実行する**
  休止状態が有効のときに「コンピュータの電源を切る」画面で Shift を押すと、「スタンバイ」ではなく「休止状態」を選択できるようになります。
  p.165 「休止状態を有効にする」
- **LCDユニットを閉じる**
- **電源スイッチを押す**
- **Fn ＋ F1 （ ）を押す**

「LCDユニットを閉じる」、「電源スイッチを押す」、「Fn + F1（☾ᶻᶻ）を押す」方法で、どの状態に移行するかの設定は、「詳細設定」タブで行います。



購入時の設定は、次のとおりです。

実行方法	設　定
LCDユニットを閉じる	「何もしない」（バックライトの消灯のみ）
電源スイッチを押す	「シャットダウン（電源オフ）」
Fn ＋ F1（☾ᶻᶻ）を押す	「スタンバイ」

バッテリ残量低下時に移行する

本機は、バッテリ残量が低下したときに省電力状態に移行するように設定することもできます。

p.66 「バッテリアラームの設定」

▶省電力状態から復帰する

省電力状態から復帰して通常の状態に戻る方法は、次のとおりです。

省電力状態	電源ランプ	復帰方法
HDD/ディスプレイの電源が切れている状態	点　灯	● タッチパッド、キーボードを操作する
スタンバイ	点　滅	● 電源スイッチを押す ● キーボードを操作する
休止状態	消　灯	● 電源スイッチを押す

そのほかの機能

ここでは、そのほかの機能について説明します。

IEEE1394コネクタ

本機左側面にはIEEE1394コネクタ（4ピン）が1個用意されています。IEEE1394コネクタにはIEEE1394対応の機器を接続します。

接続と取り外し

IEEE1394機器の接続、取り外しは電源が入った状態で行うことができます。ただし、通知領域にアイコン（「取り外し」アイコンなど）が表示される場合は、Windows上で終了処理が必要です。詳しくは、接続する機器に添付のマニュアルをご覧ください。



＜取り外しアイコン＞

SpeedStep（スピードステップ）機能

＜インテルCore 2プロセッサ搭載時＞

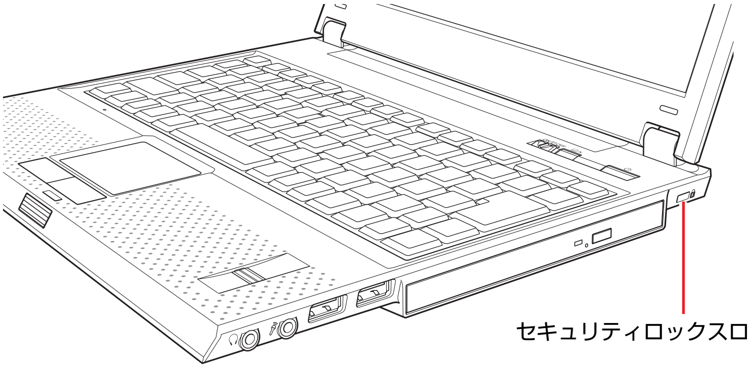
本機では、「スピードステップ」機能が自動的に機能しています。スピードステップ機能とは、使用時のCPUの使用率にあわせて、CPUの処理速度を自動で調整する機能です。
CPUの使用率が少ないときは、CPUの処理速度を抑え、消費電力を少なくします。また、CPUの使用率が高いときはCPU処理が最速になります。

スピードステップ機能を無効する方法は次のとおりです。

［スタート］－「コントロールパネル」－「電源オプション」－「電源設定」で「常にオン」を選択

セキュリティロックスロット

本機右側面には、「セキュリティロックスロット」が装備されています。ここには、専用の盗難抑止ワイヤーを取り付けます。



当社では、専用の盗難抑止ワイヤーを取り扱っています。詳しくは当社のホームページをご覧ください。
ホームページのアドレスは、次のとおりです。

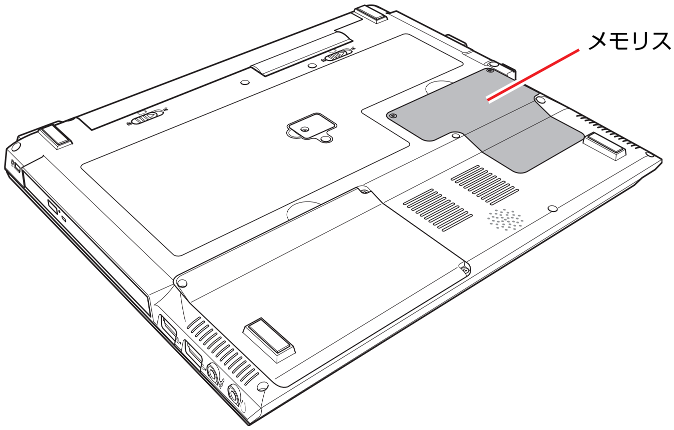
http://epsondirect.jp/

第3章
システムの拡張

アップグレードサービスやメモリの増設方法、本機に接続できる装置について説明します。

拡張できる装置

本機では、メモリモジュール（以降、メモリ）を増設・交換することができます。



メモリスロット

本機には、512MBの内蔵メモリのほかに、メモリを増設するためのメモリスロットが1本用意されています。

p.173 「メモリの増設」

制限

本機は、ご自身でメモリ以外の機能を拡張することはできません。

アップグレードサービスについて

当社では、本機をお預かりして装置の増設・交換を行うアップグレードサービスを有償で行っています。
本機では次の装置のアップグレードサービスを利用できます。

- メモリ　：　増設・交換
- 内蔵HDD　：　交換
- 光ディスクドライブ　：　交換

アップグレードサービスをご希望の場合は、カスタマーサービスセンターにご相談ください。カスタマーサービスセンターの連絡先は、『サポート・サービスのご案内』をご覧ください。

ご自身での装置の交換（メモリを除く）は、故障の原因となりますので行わないでください。

メモリの増設

本機で使用可能なメモリの仕様と、取り付け/取り外し方法について説明します。

メモリの仕様

本機底面には、メモリスロットが1本用意されていて、メモリの増設または交換をすることができます。

本機で使用可能なメモリは次のとおりです。

- PC2-4200 SODIMM（DDR2-533 SDRAM使用、200ピン）
- メモリ容量　512MB、1GB（1024MB）、2GB（2048MB）
- Non ECC
- CL=4

制限

本機がサポートするメモリの最大容量は 2GB です。
内蔵メモリ（512MB）に 2GB の増設メモリを装着した場合、増設した 2GB メモリのみ認識します。

最新メモリ情報

今後、新しいメモリを取り扱う場合があります。
本機で使用可能な最新のメモリは、当社ホームページでご確認ください。

http://epsondirect.jp

作業時の注意

メモリの増設・交換をする場合は、次の点に注意してください。

警告

- メモリの増設・交換をするときは、電源プラグをコンセントから抜いて、バッテリパックを取り外してください。感電や火傷の原因となります。
- 本機の分解・改造やマニュアルで指示されている以外の増設・交換はしないでください。けが・感電・火災の原因となります。

注意

- メモリの増設・交換は本機の内部が高温になっているときには行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、本機の内部が十分冷めてから行ってください。
- 不安定な場所（ぐらついた机の上や、傾いた所など）で、作業をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。

制限

- 作業を行う前に金属製のものに触れて静電気を逃がしてください。メモリや本機に静電気が流れると、基板上の部品が破損するおそれがあります。
- 本機内部にネジや金属などの異物を落とさないでください。
- メモリを持つときは、メモリの端子部や素子に触れないでください。メモリの破損や接触不良による誤動作の原因になります。
- 装着する方向を間違えないでください。メモリが抜けなくなるなど故障の原因になります。
- メモリを落とさないように注意してください。強い衝撃が、破損の原因になります。
- メモリの着脱は、頻繁に行わないでください。必要以上に着脱を繰り返すと、端子部などに負担がかかり、故障の原因になります。

メモリの増設・交換

メモリの増設・交換は、次の手順で行います。

メモリの取り付け

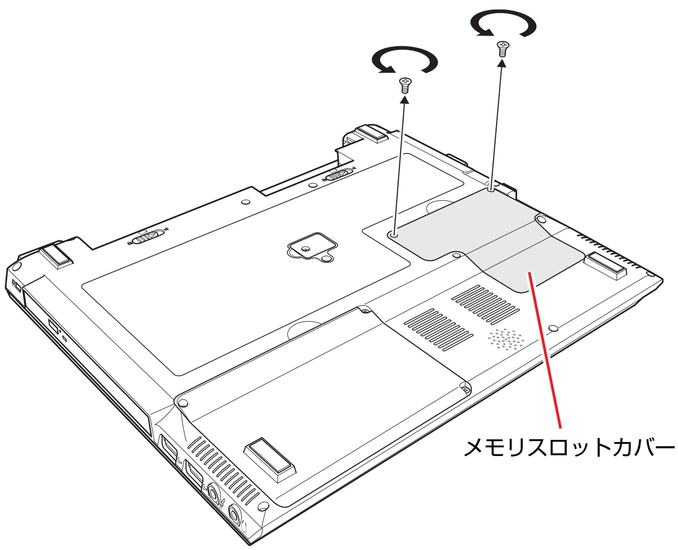
1 **本機の電源を切ります。**

2 **接続しているすべてのケーブルを外します。**

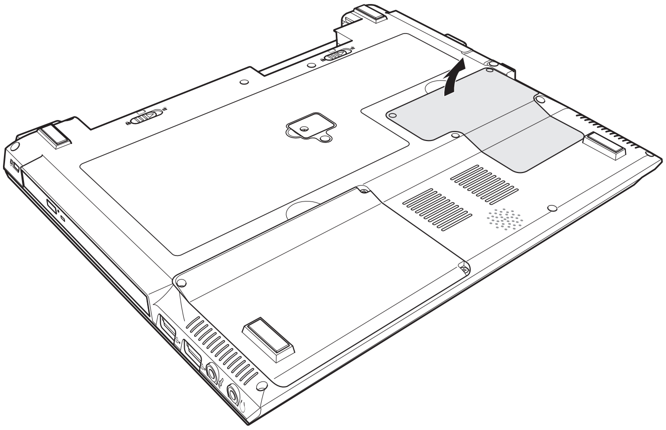
3 **本機の底面を上にして置き、バッテリを取り外します。**

p.68 「バッテリの交換」

4 **メモリスロットカバーのネジ（2本）を外します。**

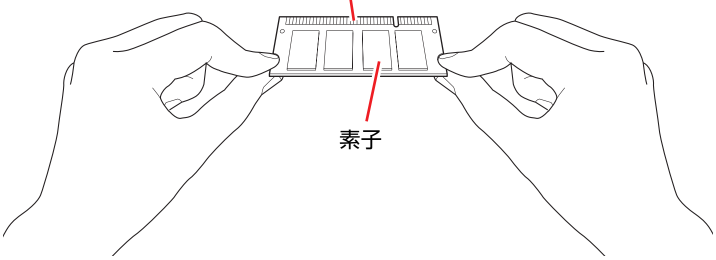


5 **メモリスロットカバーを矢印の方向に持ち上げて取り外します。**



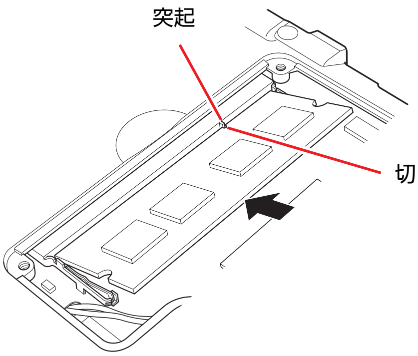
6 **増設するメモリを静電防止袋から取り出します。**

メモリの端子部や素子に触れないように持ちます。



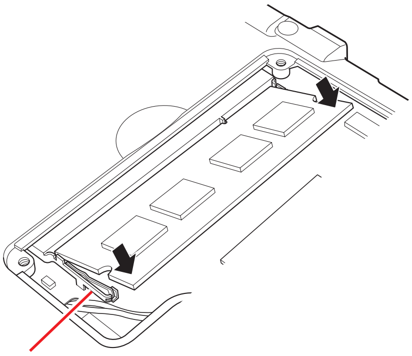
7 **メモリを、メモリスロットに差し込みます。**

メモリの切り欠きを突起にあわせ、メモリを約15度の角度でメモリスロットに差し込みます。



8 **メモリを静かに倒します。**

正しく装着すると「カチッ」と音がしてスロット左右の固定タブに固定されます。



9 **メモリスロットカバーを取り付け、ネジ（2本）で固定します。**

10 **取り外したバッテリと、ケーブル類を元に戻します。**

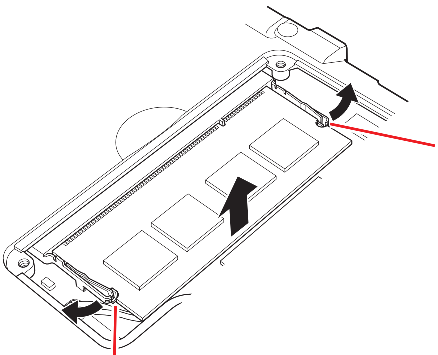
p.68 「バッテリの交換」

11 **「BIOS Setupユーティリティ」を起動して、総メモリ容量を確認します。**

p.177 「メモリの増設・交換後の作業」

メモリの取り外し

1 **メモリスロットの両側にある固定タブを外側に広げるとメモリが起き上がります。**



2 **起き上がったメモリの両端を持って静かに引き抜きます。**

取り外したメモリは静電防止袋に入れて保管してください。

▶メモリの増設・交換後の作業

メモリの増設・交換をしたら、必ずメモリの容量を確認します。
メモリ容量の確認方法は次のとおりです。

1　本機の電源を入れたら、F2 を押して、「BIOS Setupユーティリティ」を起動します。

☞ p.181 「BIOS Setupユーティリティの起動」

2　「Main」メニュー画面－「System Memory」に表示されているメモリ容量を確認します。

メモリ容量が正しく表示されない場合は、メモリが正しく取り付けられていないことが考えられます。すぐに電源を切り、正しく取り付けなおしてください。

参考

総メモリ容量の表示

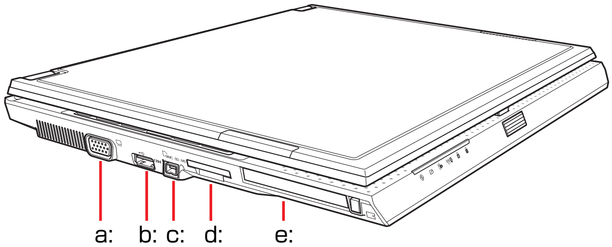
本機は、メインメモリの一部をビデオメモリとして使用します。BIOSではメインメモリからビデオメモリ（最小8MB）を引いた値が表示されます。

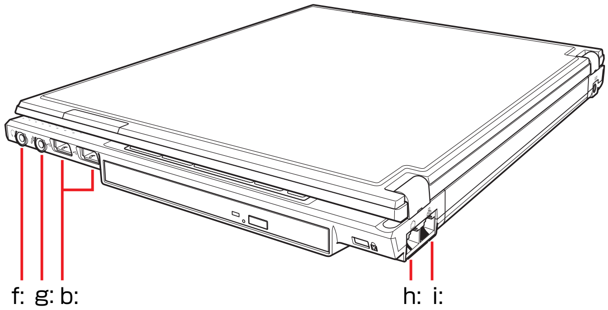
※本機がサポートするメモリの最大容量は、2GB（2048MB）です。
512MB（内蔵メモリ）＋2GB（増設メモリ）を搭載した場合、表示は2GB（2048MB）からビデオメモリ容量を引いた値になります。

3

外付け可能な周辺機器

本機には、次のような周辺機器を取り付けることができます。
接続方法は、本書または接続する周辺機器に添付のマニュアルをご覧ください。





a: VGAコネクタ
- 外付けディスプレイ
- ビデオプロジェクタ

b: USBコネクタ
- USB FDD
- プリンタ
- USBマウス

USB対応機器が接続できます。

c: IEEE1394コネクタ
- DV機器

IEEE1394対応機器が接続できます。

d: メモリカードスロット
- メモリースティック
（メモリースティックPro対応）
- マルチメディアカード
- SDメモリーカード

e: PCカードスロット
- PCカード

PC Card Standard準拠のPCカード（Type II）が利用できます。

f: ヘッドフォン出力コネクタ
- スピーカ
- ヘッドフォン

g: マイク入力コネクタ
- マイク

h: モデムコネクタ
- 電話回線

i: LANコネクタ
- ネットワーク

そのほかの接続可能な周辺機器

上記のほかにも、ケーブルを介さずに次の機器を接続できます。

- 無線LAN対応機器（無線LAN搭載時のみ）
- Bluetooth対応機器（Bluetooth搭載時のみ）

第4章
BIOSの設定

本機の基本状態を管理しているプログラム「BIOS」の設定を変更する方法について説明します。

BIOSの設定を始める前に

制限

当社製以外の BIOS を使用すると、Windows が正常に動作しなくなる場合があります。当社製以外の BIOS へのアップデートは絶対に行わないでください。

BIOSは、コンピュータの基本状態を管理しているプログラムです。このプログラムは、メインボード上にROMとして搭載されています。
BIOSの設定は、「BIOS Setupユーティリティ」で変更できますが、購入時のシステム構成にあわせて最適に設定されているため、通常は変更する必要はありません。BIOSの設定を変更するのは、次のような場合です。

- 本書や周辺機器のマニュアルで指示があった場合
- パスワードを設定する場合
- メインボード上の機能の有効/無効を設定する場合

BIOSの設定値を間違えると、システムが正常に動作しなくなる場合があります。設定値をよく確認してから変更を行ってください。
BIOS Setupユーティリティで変更した内容は、バックアップ電池によって保持されます。コンピュータの電源を切ったり、再起動しても消去されることはありません。

参考

バックアップ電池
BIOS Setupユーティリティの内容は、バックアップ電池で保持しています。コンピュータの使用状況によって異なりますが、ACアダプタ、およびバッテリからの電源供給が全くない場合、約半年で設定値が保持できなくなります。半年以上本機を使用しないで、日付や時間が異常になったり、設定した値が変わってしまった場合には、本機にACアダプタやバッテリを接続して電源を供給してください。

p.275 「バックアップ電池」

動作が不安定になったら

設定値を変更して本機の動作が不安定になった場合は、次の方法で設定値を戻すことができます。

- 購入時の設定と変更後の設定をあらかじめ記録しておき、手動で戻す
  万一に備え、設定値を記録しておくことをおすすめします。
  p.196 「BIOS Setup ユーティリティの設定値」
- 初期値や前回保存した設定値に戻す
  p.184 「設定値を元に戻すには」

BIOS Setupユーティリティの操作

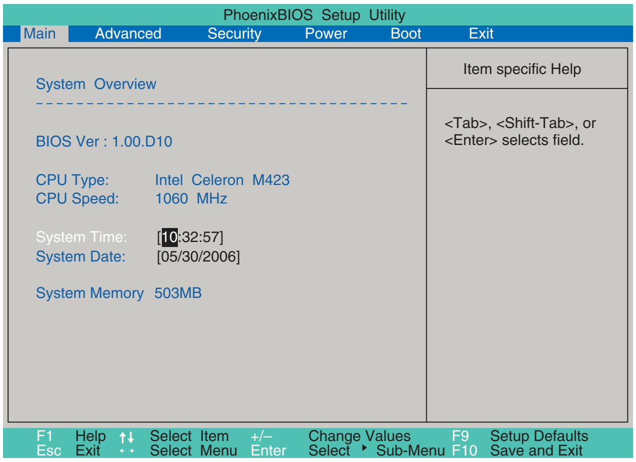
▶BIOS Setupユーティリティの起動

1 本機の電源を入れます。すでにコンピュータが起動している場合は再起動します。

2 本機の起動直後、黒い画面の中央に「EPSON」と表示されたら、すぐに [F2] を押します。

Windowsが起動してしまった場合は、再起動して手順2をもう一度実行してください。

3 「BIOS Setupユーティリティ」が起動して「Main」メニュー画面が表示されます。



BIOS Setupユーティリティ（イメージ）

仕様が前回と異なるとき

本機の状態が、前回使用していたときと異なる場合には、起動時に次のメッセージが表示されます。

Press F1 to continue, F2 to enter SETUP

このメッセージが表示されたら [F2] を押してBIOS Setupユーティリティを起動します。通常はそのまま「Exit Saving Changes」を実行して終了します。

p.189 「BIOS Setupユーティリティの終了」

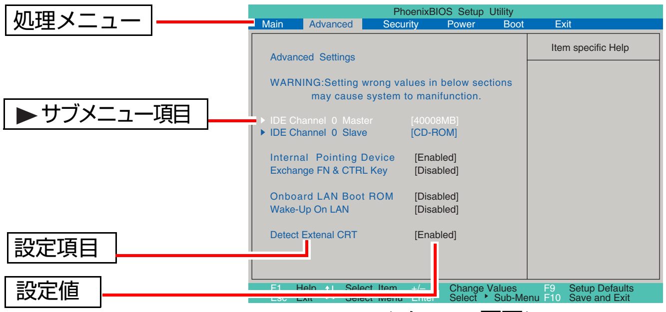
[F1] を押すとWindowsが起動しますが、動作中に問題が発生する可能性があります。

4

▶BIOS Setupユーティリティの操作

画面の構成

「BIOS Setupユーティリティ」の画面構成は次のとおりです。



<メニュー画面>

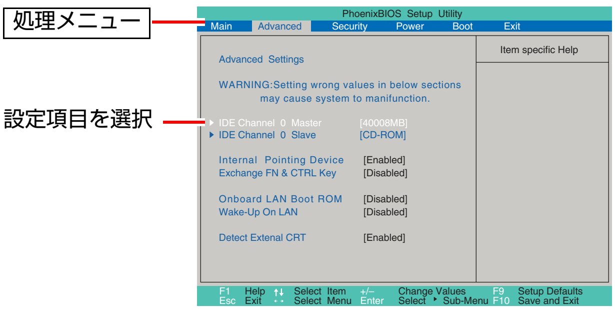
各メニュー画面と設定項目の説明は、p.190「BIOS Setupユーティリティの設定項目」をご覧ください。

設定値の変更方法

「BIOS Setupユーティリティ」の設定値を変更する方法は次のとおりです。
操作はキーボードで行います。

1 処理メニューで設定を変更したい項目のあるメニュー画面に移動し、設定項目を選択します。

[→][←]でメニュー間を移動します。
[↑][↓]で設定値を変更したい項目まで移動します。

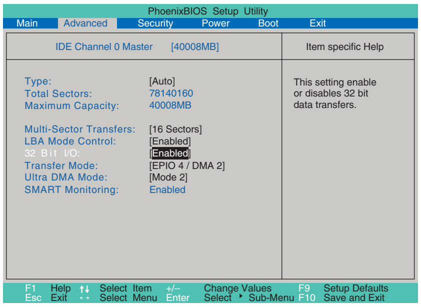


<メニュー画面>

＜▶のある項目の場合＞

▶のある項目の場合、[↵]を押すとサブメニュー画面が表示されます。

[↑][↓]で設定値を変更したい項目まで移動します。

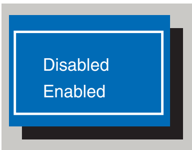


＜サブメニュー画面＞

サブメニュー画面から戻るには[Esc]を押します。

2　設定値を変更します。

[↵]を押して選択ウィンドウを表示し、[↑][↓]で値を選択し[↵]で決定します。



＜選択ウィンドウ＞

キー操作一覧

BIOSの画面では、次のキーを使って操作を行うことができます。

キー	操作できる内容
[Esc]	● 変更した内容を破棄し、終了するか確認するメッセージを表示します。 ● サブメニュー画面からメニュー画面に戻ります。
[↑], [↓]	設定を変更する項目を選択します。
[←], [→]	処理メニューを選択します。
[Fn]+[-] [Fn]+[+]	項目の値を変更します。
[↵]	● メニュー画面中の▶マークの付いている項目で押すとサブメニュー画面を表示します。 ● 選択項目の選択ウィンドウを表示します。 ● 設定値を選択します。
[F1]	ヘルプを表示します。
[F9]	全設定項目の値を初期値に戻します。
[F10]	変更した設定値を保存して終了します。

▶設定値を元に戻すには

BIOS Setupユーティリティの設定を間違えてしまい、万一本機の動作が不安定になってしまった場合などには、BIOS Setupユーティリティの設定を初期値や前回保存した値に戻すことができます。

Load Setup Defaults（初期値に戻す）

BIOS Setupユーティリティの設定を、BIOSの初期値に戻します。

1 **F9 を押す、または「Exit」メニュー画面－「Load Setup Defaults」を選択すると次のメッセージが表示されます。**

Setup Confirmation	
Load default configuration now?	
［Yes］	［No］

2 **［Yes］を選択して ↵ を押します。**

Load Setup Defaultsを実行したあとに、BIOSの設定値を設定しなおしてください。

- **セキュリティチップのセキュリティ機能を有効にする（お使いの場合のみ）**
  メインボード上のセキュリティチップの機能を有効にするためには、p.264「セキュリティ機能を使い始めるまでの準備」を参照し、BIOSの設定を行ってください。

設定を行ったら、変更した内容を保存して終了します。
p.189「Exit Saving Changes（変更した内容を保存し終了する）」

Discard Changes（前回保存した設定値に戻す）

BIOS Setupユーティリティを終了せずに、前回保存した設定値に戻します。

1 **「Exit」メニュー画面－「Discard Changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。**

Setup Confirmation	
Load previous configuration now?	
［Yes］	［No］

2 **［Yes］を選択して ↵ を押します。**

▶Passwordの設定

パスワードを設定することで、本機を使用するユーザーを限定することができます。コンピュータ起動時や「BIOS Setupユーティリティ」起動時、休止状態からの復帰時にパスワードの入力を要求し、正しいパスワード入力が行われないと本機を使用することができません。
パスワードの設定は、「BIOS Setupユーティリティの設定項目」の「Security」メニュー画面にあるPasswordに関する設定項目で行います。

p.192 「Securityメニュー画面」

制限

パスワードを登録・変更・削除した場合、「Discard Changes」または「Exit Discarding Changes」を実行しても、パスワードの設定を元に戻すことはできません。

パスワードの種類

パスワードには次の3種類があります。

- Supervisor Password（管理者パスワード）
  コンピュータ管理者用のパスワードです。管理者パスワードでBIOSにログオンした場合は、すべての項目の閲覧と変更が可能です。
  管理者パスワード設定すると、他の2つのパスワードも設定可能になります。
  管理者パスワードを削除すると、他の2つのパスワードも削除されます。
- User Password（ユーザーパスワード）
  一般ユーザー用のパスワードです。ユーザーパスワードでBIOSにログオンした場合は、項目の閲覧や変更が制限されます。
- HDD Password（HDDパスワード）
  本機内部のHDDへのアクセスを制限するためのパスワードです。
  HDDパスワードを設定すると、コンピュータ起動時や休止状態から復帰時にパスワードの入力が必要になります。

パスワード入力時の注意

パスワード入力時は、キーボードの入力モードに注意してください。たとえば、数値キー入力モードでパスワードを設定し、起動時に数値キー入力モードではない状態でパスワードを入力するとエラーになります。

4

パスワードの設定

管理者パスワードおよびユーザーパスワードを設定すると、「BIOS Setupユーティリティ」起動時（「Password Check」が「Setup」の場合）あるいはコンピュータ起動時や休止状態からの復帰時（「Password Check」が「Always」の場合）にパスワードの入力が要求されます。
HDDパスワードを設定すると、コンピュータ起動時や休止状態からの復帰時にHDDパスワードの入力が要求されます（「Password Check」が「Always」の場合は、管理者パスワードまたはユーザーパスワードの入力が要求されます）。

制限

設定したパスワードは、絶対に忘れないようにしてください。パスワードを忘れると、BIOSの設定変更や、設定によってはWindowsの起動ができなくなります。万一、パスワードを忘れた場合は、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。

ユーザーパスワードやHDDパスワードは、管理者パスワードを設定した場合に、設定できるようになります。
ここでは管理者パスワードの設定の手順を説明します。
ユーザーパスワードやHDDパスワードを設定する場合は、手順1で、「Set User Password」または「Set HDD Password」を選択して同じ手順で進めてください。

1 「Set Supervisor Password」の［Enter］を選択して ↵ を押します。

次のメッセージが表示されます。

Set Supervisor Password	
Enter New Password	[ ]
Confirm New Password	[ ]

2 「Enter New Password」欄にパスワードを入力し、↵ を押します。

アルファベットの大文字と小文字は区別されません。パスワードは8文字まで入力できます。

3 「Confirm New Password」欄に、確認のため手順2と同じパスワードを入力し、↵ を押します。

同じパスワードを入力しないと、エラーになります。

4 「Changes have been saved.」とメッセージが表示されたら、[Continue]が選択されている状態で ↵ を押します。

パスワードの設定が完了すると、「Supervisor Password Is」や「User Password Is」、「HDD Password Is」の値が「Set」に変わります。

パスワードの変更

ここでは管理者パスワードの変更の手順を説明します。
ユーザーパスワードやHDDパスワードを変更する場合は、手順1で「Set User Password」または「Set HDD Password」を選択して同じ手順で進めてください。

1 「Set Supervisor Password」の［Enter］を選択して［↵］を押します。
次の画面が表示されます。

Set Supervisor Password	
Enter Current Password	[　　　]
Enter New Password	[　　　]
Confirm New Password	[　　　]

2 「Enter Current Password」欄に、今まで使用していたパスワードを入力し［↵］を押します。

3 「Enter New Password」欄に、新しく設定したいパスワードを入力して、［↵］を押します。

4 「Confirm New Password」欄に、確認のため手順3と同じパスワードを入力し、［↵］を押します。

5 「Changes have been saved.」とメッセージが表示されたら、[Continue]が選択されている状態で［↵］を押します。
これでパスワードの変更は完了です。

パスワードの削除

ここでは管理者パスワードの削除の手順を説明します。
ユーザーパスワードやHDDパスワードを削除する場合は、手順1で「Set User Password」または「Set HDD Password」を選択して同じ手順で進めてください。
管理者パスワードを削除する場合は、「BIOS Setupユーティリティ」起動時に管理者パスワードを入力してください。
管理者パスワードを削除すると、ユーザーパスワードやHDDパスワードも削除されます。

1 「Set Supervisor Password」の［Enter］を選択して［↵］を押します。
次の画面が表示されます。

Set Supervisor Password	
Enter Current Password	[　　　]
Enter New Password	[　　　]
Confirm New Password	[　　　]

4

2 「Enter Current Password」欄に今まで使用していたパスワードを入力し【↵】を押します。

3 「Enter New Password」欄に何も入力せずに【↵】を押します。

4 「Confirm New Password」欄に何も入力せずに【↵】を押します。

5 「Changes have been saved.」とメッセージが表示されたら、[Continue]が選択されている状態で【↵】を押します。
これでパスワードの削除は完了です。

▶日付と時刻の設定

日付や時刻の表示が異常になったり設定した値が変わってしまうような場合には、次の操作で日付と時刻を設定してください。

1 「BIOS Setup ユーティリティ」の「Main」メニュー画面を開き、「System Time」の表示が反転していることを確認します。

2 カーソルのある位置で、【Fn】+【+】または【Fn】+【-】を押して、時刻の時間表示を正しく設定します。

3 【Tab】を押して、時刻の分表示にカーソルを移動します。【Fn】+【+】または【Fn】+【-】を押して、時刻の分表示を設定します。
時間表示に戻るときは、【Shift】+【Tab】を押します。

4 手順3と同じ要領で、秒表示を設定します。

5 【↓】を押して、「System Date」に移動し、手順3と同じ要領で、月・日・年を設定します。

6 「Exit」メニュー画面－「Exit Saving Changes」で設定を保存して終了し、Windowsを再起動します。

BIOS Setupユーティリティの終了

「BIOS Setupユーティリティ」を終了するには、次の2つの方法があります。

Exit Saving Changes（変更した内容を保存し終了する）

変更した設定値を保存して、「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。

1 **F10 を押す、または「Exit」メニュー画面－「Exit Saving Changes」を選択すると次のメッセージが表示されます。**

Setup Confirmation
Save configuration changes and exit now? ［Yes］　　　　［No］

2 **［Yes］を選択し、↵ を押します。**

Exit Discarding Changes（変更した内容を破棄し終了する）

変更した設定値を保存せずに、「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。

1 **Esc を押す、または [Exit] メニュー画面－「Exit Discarding Changes 」を選択すると、次のメッセージが表示されます。**

Setup Warning
Configuration has not been saved! Save before exiting? ［Yes］　　　　［No］

設定値が変更されていなければ、メッセージは表示されずに、そのままBIOS Setupユーティリティが終了しWindowsが起動します。

2 **［No］を選択し、↵ を押します。**

4

BIOS Setupユーティリティの設定項目

本章では、BIOS Setupユーティリティで設定できる項目と、設定方法などについて説明します。BIOS Setupユーティリティのメニュー画面には、次の7つのメニューがあります。

- Mainメニュー画面
- Advancedメニュー画面
- Securityメニュー画面
- TPM Stateメニュー画面

  Securityメニュー画面の「TPM Support」を「Enabled」にすると表示されます。
- Powerメニュー画面
- Bootメニュー画面
- Exitメニュー画面

Mainメニュー画面

日付と時刻の設定を行います。日付と時刻の設定方法はp.188「日付と時刻の設定」をご覧ください。

「Main」メニュー画面の設定項目は、次のとおりです。

____は初期値

＊は項目表示のみ

*BIOS Ver	本機に搭載されているBIOSのバージョンを表示します。
*CPU Type	本機に搭載されているCPUのタイプを自動的に表示します。
*CPU Speed	本機に搭載されているCPUの周波数を自動的に表示します。
System Time	時刻を設定します。（時：分：秒）の順で表示されています。
System Date	日付を設定します。（月/日/年）の順で表示されています。
*System Memory	メモリ容量を起動時に自動的に計算して表示します。 表示される容量は、搭載されたメインメモリ容量から、あらかじめ割り当てられているビデオメモリ容量（最小8MB）を引いた値です。 ※本機がサポートするメモリの最大容量は、2GB（2048MB）です。 512MB（内蔵メモリ）＋2GB（増設メモリ）を搭載した場合、2GB（2048MB）からビデオメモリ容量を引いた値が表示されます。

▶Advancedメニュー画面

IDE装置の仕様（転送モードやパラメータ）やタッチパッドの設定を行います。
「Advanced」メニュー画面の設定項目は、次のとおりです。

____は初期値
＊は項目表示のみ

IDE Channel 0 Master/ IDE Channel 0 Slave 接続しているIDE装置の情報を表示します。 表示される項目はIDE装置によって異なります。	*Type	IDE装置の型番を表示します。
	*Total Sectors	セクタの総数を表示します。
	*Maximum Capacity	HDDの容量を表示します。
	*Multi-Sector Transfers	一度に何セクタ転送できるかを表示します。
	*LBA Mode Control	LBA（Logical Block Addressing）をサポートしているかどうかを表示します。
	*Transfer Mode	IDE 装置の転送モード、DMA転送モードとチャンネルを表示します。
	*Ultra DMA Mode	Ultra DMA 対応装置の転送モードとチャンネルを表示します。
	*SMART Monitoring	SMART（Self Monitoring Analysis and Reporting Technology）をサポートしているかどうかを表示します。
Internal Pointing Device		本機のタッチパッドを使用するかどうかを設定します。 Enabled ：タッチパッドを使用します。 Disabled：タッチパッドを使用しません。
Exchange FN & CTRL Key		キーボードの左下側にあるFnキーと、その隣にあるCtrlキーの機能を入れ替えるかどうかを設定します。 Disabled：FnキーとCtrlキーの機能を入れ替えません。 Enabled ：FnキーとCtrlキーの機能を入れ替えます。
Onboard LAN Boot ROM		リモートブートを行う場合は「Enabled」に設定します。 Disabled：無効にします。 Enabled ：有効にします。
Wake-Up On LAN （LANからの起動設定）		電源切断時やスタンバイ、休止状態において、ネットワークからの信号により起動するかどうかを設定します。この機能は、Windows を正常に終了または省電力状態に正常に移行し、ACアダプタを接続した状態でのみ使用可能です。 Enabled ：起動します。 Disabled：起動しません。
Detect External CRT		外部出力を有効にするかどうかを設定します。 Enabled ：外部出力を有効にします。 Disabled：外部出力を無効にします。 外付けディスプレイなどに画面が表示されませんが、消費電力は抑えられます。

▶Securityメニュー画面

システム起動時や「BIOS Setupユーティリティ」起動時などのパスワードに関する設定や、メインボード上のデバイスに関する設定を行います。パスワードの設定方法は、p.185 「Passwordの設定」をご覧ください。
「Security」メニュー画面の設定項目は、次のとおりです。

____は初期値
＊は項目表示のみ

項目	説明
*Supervisor Password Is/User Password Is	Supervisor Password（管理者パスワード）とUser Password（ユーザーパスワード）が設定されているかどうかを表示します。 Clear ：パスワードが設定されていません。 Set ：パスワードが設定されています。
Set Supervisor Password	Supervisor Password（管理者パスワード）を設定します。 「BIOS Setupユーティリティ」起動時にパスワード入力を要求します。 [↵]を押すとパスワード設定ウィンドウが表示されます。
Set User Password ※ Supervisor Password（管理者パスワード）を設定すると設定可能になります。	User Password（ユーザーパスワード）を設定します。 「BIOS Setupユーティリティ」起動時にパスワード入力を要求します。 [↵]を押すとパスワード設定ウィンドウが表示されます。
Password Check ※ Supervisor Password（管理者パスワード）を設定すると設定可能になります。	パスワード入力を要求するタイミングを設定します。 Setup ：「BIOS Setupユーティリティ」起動時にパスワード入力を要求します。 Always：「BIOS Setupユーティリティ」やコンピュータ起動時、休止状態からの復帰時にパスワード入力を要求します。
Boot Sector Virus Protection	HDDのブートセクタ（システム領域）への書き込みを禁止するかどうかを設定します。書き込みを禁止すると、ウイルスがHDDのブートセクタ（システム領域）への感染を防ぐことができます。 Disabled：書き込みを許可します。 Enabled ：書き込みを禁止します。
Set HDD Password ※ Supervisor Password（管理者パスワード）を設定すると設定可能になります。	HDD Passwordを設定します。 コンピュータ起動時と休止状態からの復帰時にパスワード入力を要求します。 [↵]を押すとパスワード設定ウィンドウが表示されます。
HDD Password Is	HDD Passwordが設定されているかどうかを表示します。 Clear ：パスワードが設定されていません。 Set ：パスワードが設定されています。

<table>
<tr><td rowspan="6">I/O Interface Security

データの盗難を防ぐために、インタフェースの有効、無効を設定します。</td><td>Bluetooth</td><td>Bluetooth機能の使用を可能にするかどうかを設定します。
<u>Enabled</u>　: Bluetooth機能の使用を可能にします。
Disabled : Bluetooth機能の使用を不可にします。
※ここでEnabledを選択していても、下にある「All USB Port」項目でDisabledを選択すると、Bluetooth機能は使用できなくなります。</td></tr>
<tr><td>PC Card/SD/MS/MMC/IEEE1394</td><td>PC カード/メモリカード/IEEE1394機能の使用を可能にするかどうかを設定します。
<u>Enabled</u>　: PC カード/メモリカード/IEEE1394機能の使用を可能にします。
Disabled : PC カード/メモリカード/IEEE1394 機能の使用を不可にします。</td></tr>
<tr><td>All USB Port</td><td>USBと指紋認証機能、Bluetooth機能の使用を可能にするかどうかを設定します。
<u>Enabled</u>　: USBと指紋認証機能、Bluetooth機能の使用を可能にします。
Disabled : USBと指紋認証機能、Bluetooth機能の使用を不可にします。
※Disabledを選択すると、次の「Finger Print」項目は、表示されなくなります。上にある「Bluetooth」項目は表示されたままですが、項目内の決定は反映されません。</td></tr>
<tr><td>Finger Print</td><td>指紋認証のみの使用を不可にするかどうかを設定します。
<u>Enabled</u>　: 指紋認証の使用を可能にします。
Disabled : 指紋認証の使用を不可にします。</td></tr>
<tr><td>LAN</td><td>ネットワーク（有線LAN）機能の使用を可能にするかどうかを設定します。
<u>Enabled</u>　: LAN 機能の使用を可能にします。
Disabled : LAN 機能の使用を不可にします。</td></tr>
<tr><td>Audio/Modem</td><td>サウンド機能とFAX モデム機能の使用を可能にするかどうかを設定します。
<u>Enabled</u>　: サウンド機能とFAX 機能の使用を可能にします。
Disabled : サウンド機能とFAX 機能の使用を不可にします。</td></tr>
<tr><td colspan="2">TPM Support</td><td>セキュリティチップ（TPM）の機能を使用するかどうかを設定します。
<u>Disabled</u> : 使用しません。
Enabled　: 使用します。</td></tr>
</table>

4

▶TPM Stateメニュー画面

「TPM State」メニュー画面は、「Security」メニュー画面の「TPM Support」を「Enabled」にすると表示されます。

____は初期値
＊は項目表示のみ

項目	説明
Current TPM State	セキュリティチップ（TPM）の現在の設定状態を表示します。 Disabled and Deactivated : 使用できない状態です。 Enabled and Activated:使用可能な状態です。
TPM Function	セキュリティチップ（TPM）の機能を使用するかどうか、また初期化するかどうかを設定します。 初期化を行うと、それまでに暗号化されたデータを使用することができなくなります。セキュリティチップの初期化は、十分に注意し、お客様の責任において行ってください。 No Change : 設定を変更しません。 Enabled : セキュリティチップ機能を使用します。 Disabled : セキュリティチップ機能を使用しません。 Clear & Enabled : 初期化してから、セキュリティチップ機能を使用可能にします。

▶Powerメニュー画面

「Power」メニュー画面では、バッテリのリフレッシュを行います。

項目	説明
Start Battery Calibration （バッテリのリフレッシュの実行）	バッテリのリフレッシュを行う場合に実行します。 p.67 「バッテリ残量が正しく表示されないときは」

Bootメニュー画面

システムの起動（Boot）に関する項目を設定します。
「Boot」メニュー画面の設定項目は、次のとおりです。

Boot priority order システムを起動するドライブの順番を設定します。	1: USB FDC	USB FDD から起動します。
	2: USB KEY	USB フラッシュメモリから起動します。
	3: USB CDROM	USB 接続の光ディスクドライブから起動します。
	4: ODD:	光ディスクドライブから起動します。
	5: HDD:	HDD から起動します。
Excluded from boot order システムの検出対象から外すドライブを設定します。	USB HDD	このドライブからは起動しません。
	Network	このドライブからは起動しません。
	Other USB	このドライブからは起動しません。

起動するドライブとは

「Boot」メニュー画面の「Boot priority order」では、順番にシステムを検出し、起動（boot）するドライブを設定しています。
コンピュータが、［1］、［2］という順番でドライブを検出して、システムが見つかったドライブからシステムを起動します。
順番を示す数字の隣には、次のような項目が表示されます（購入時のシステム構成により異なります）。

- USB機器の型番
- 接続されている光ディスクドライブの型番
- 接続されているHDDの型番

Exitメニュー画面

BIOS Setupユーティリティをどのように終了するかを設定する場合に使用します。
「Exit」メニュー画面の設定項目は、次のとおりです。

Exit Saving Changes	変更した内容（設定値）を保存してから、BIOS Setupユーティリティを終了します。
Exit Discarding Changes	変更した内容（設定値）を保存せずに、BIOS Setupユーティリティを終了します。
Load Setup Defaults	BIOS Setupユーティリティの設定値を、BIOSの初期設定値に戻します。
Discard Changes	BIOS Setupユーティリティを終了せずに、変更した設定値を前回保存した設定値に戻します。
Save Changes	BIOS Setupユーティリティを終了せずに、変更した設定値を保存します。

BIOS Setup ユーティリティの設定値

BIOS Setupユーティリティで設定を変更した場合は、変更内容を下表に記録しておくと便利です。購入時の設定および変更した内容は必ず記録しておいてください。

Advanced メニュー画面

項目	購入時の設定		変更内容	
Internal Pointing Device	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
Exchange FN & CTRL key	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
Onboard LAN Boot ROM	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
Wake-up On LAN	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
Detect External CRT	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled

Security メニュー画面

項目		購入時の設定		変更内容	
Supervisor Password Is		Clear	Set	Clear	Set
User Password Is		Clear	Set	Clear	Set
Password Check		Setup	Always	Setup	Always
Boot Sector Virus Protection		Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
I/O Interface Security	Bluetooth	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	PC Card/SD/MS/MMC/IEEE1394	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	USB/Finger Print	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Finger Print	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	LAN	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Audio/Modem	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
HDD Password Is		Clear	Set	Clear	Set
TPM Support		Disabled	Enabled	Disabled	Enabled

TPM Stateメニュー画面

項目	購入時の設定		変更内容	
TPM Function	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled

Boot メニュー画面

項目		購入時の設定	変更内容
Boot priority order	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
Excluded from boot order			

第5章
ソフトウェアの再インストール

ソフトウェアを再インストールする手順について説明します。

再インストールする前に必ずお読みください

ここでは、ソフトウェアの再インストールを行う前に知っておいていただきたい情報について記載しています。
HDDをフォーマットして、Windowsや本体ドライバなどをインストールしなおす作業のことを、本書では「再インストール」と記載します。
再インストールは「リカバリ」とも言います。

▶再インストールが必要な場合

再インストールは次のような場合に行います。通常は必要ありません。

- なんらかの原因でWindowsが起動しなくなり、修復できない場合
- HDD領域の構成を変更したい場合

▶重要事項

再インストールする前に、次の重要事項を必ずお読みください。

当社製以外のBIOSへのアップデート禁止

当社製以外のBIOSに、絶対にアップデートしないでください。当社製以外のBIOSにアップデートすると、再インストールができなくなります。

セキュリティソフトウェアの更新サービス

本機に添付のセキュリティソフトウェア「Norton Internet Security 90日版」で、90日経過後に更新サービスの延長キーを購入して更新サービスを継続している場合、再インストールを行うと更新サービスの延長が無効になります。更新サービスの延長が無効になってしまった場合は、シマンテックストアまでお問い合わせください。

『セキュリティソフトウェアをご使用の前に』(別冊)

Webフィルタリングソフトウェアの継続利用

本機に添付のWebフィルタリングソフトウェア「ｉ－フィルター30日版」で継続利用手続きを行っている場合、Windowsを再インストールすると利用期限が30日に設定されてしまいます。
この場合は、デジタルアーツ社のホームページから最新版を入手し、契約済みのシリアルIDを利用してインストールを行ってください。
詳細は、デジタルアーツ社にお問い合わせください。

http://www.daj.jp/cs/ifpe/sup_dl.htm

消去禁止領域

Windowsのインストール中に、「消去禁止領域」は絶対に削除しないでください。「消去禁止領域」には、本体ドライバやソフトウェアなどが登録されているため、削除すると再インストールができなくなります。

最新の情報

インストール方法に関する最新情報を記載した紙類が添付されている場合があります。梱包品を確認して、紙類が添付されている場合は、その手順に従って作業をすすめてください。

ソフトウェアの再インストールを行う

ここでは、ソフトウェアの再インストールの方法について記載しています。

必要なメディア

再インストールの際には、次のメディアが必要です。

- **Windows XPリカバリCD**
  Windows XPが登録されているCD-ROMです。
- **リカバリツールCD**
  本体ドライバやソフトウェアをHDDの「消去禁止領域」からインストールするためのプログラムが登録されているCD-ROMです。
- **そのほか必要なメディア**
  お使いのシステム構成によって必要なメディアは異なります。

本体ドライバやソフトウェアはHDDの消去禁止領域に登録されています。
専用のメディアは添付されていません。
p.27 「添付されているソフトウェア」
HDDの消去禁止領域に登録されているドライバやソフトウェアのインストールは、リカバリツールを使用して行います。

光ディスクドライブを装着していないモデルをお使いの場合

光ディスクドライブを装着していないモデルでソフトウェアの再インストールを行う際は、外付けの光ディスクドライブが必要です。

インストールの順番

再インストールは、次の順番で行います。

Windows
HDD領域の変更は、Windowsのインストール中に行います。
p.205 「Windows XPのインストール」

↓

リカバリツール
p.210 「リカバリツールのインストール」

↓

本体ドライバ
p.211 「本体ドライバのインストール」

↓

Adobe Reader
p.212 「Adobe Readerのインストール」

↓

セキュリティソフトウェア
p.213 「セキュリティソフトウェアのインストール」

↓

Webフィルタリングソフトウェア
p.213 「Webフィルタリングソフトウェアのインストール」

↓

マニュアルびゅーわ
p.214 「マニュアルびゅーわのインストール」

↓

Nero 7 Essentials
（光ディスクドライブ搭載時のみ）
p.215 「Nero 7 Essentialsのインストール」

↓

WinDVD
（光ディスクドライブ搭載時のみ）
p.215 「WinDVDのインストール」

↓

JWord Plugin
p.215 「JWord Pluginのインストール」

↓

Bluetoothドライバ（Bluetooth搭載時のみ）
p.216 「Bluetoothドライバのインストール」

↓

gooスティック
p.217 「gooスティックのインストール」

↓

マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版
p.217 「マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版のインストール」

↓

そのほかの作業
p.219 「そのほかの作業」

▶インストール作業における確認事項

再インストールを始める前に、下記の点を確認してください。

インストール全般

インストール作業は、ACアダプタを接続して行ってください。

コンピュータの管理者（Administrator）権限でログオン

インストール作業は、「コンピュータの管理者」権限（または同等の権限を持つユーザーアカウント）でログオンして行ってください。

システム構成

本章のインストール手順は、購入時のシステム構成を前提にしています。インストールは、BIOSの設定とシステム構成を購入時の状態に戻して行うことをおすすめします。

HDDのファイルシステム

購入時のHDDは、NTFSファイルシステムを使用して領域を作成し、Windowsをインストールしています。Windowsのインストールでパーティションをフォーマットする際は、必ずNTFSファイルシステムを使用してください。

ドライブ名

本章の説明では、ドライブ構成が次のようになっているものとします。
実際の光ディスクドライブのドライブ名は、HDD領域の数によって異なります。

Aドライブ　：USB FDD（オプション）
Cドライブ　：HDD
Dドライブ　：光ディスクドライブ

各種設定やデータのバックアップ

再インストールを行うと、設定した事項が初期値に戻ってしまったり、データが消えてしまったりします。再インストールを行う前に必要に応じて設定を書き写したり、データのバックアップを行っておいてください。

p.206 「バックアップを取る」

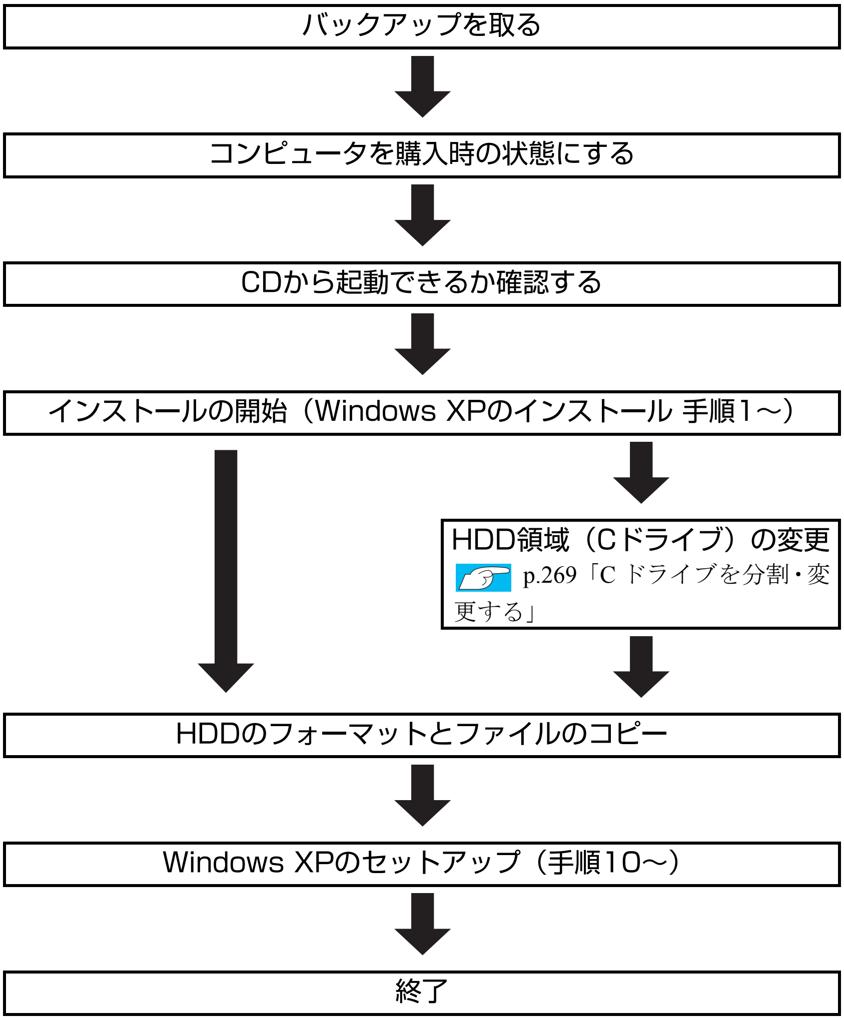
初期設定ツール

初期設定ツールは、Windowsを再インストールすると消去されます。初期設定ツールでインストールした「セキュリティソフトウェア」などのソフトウェアは、以降で説明する手順に従ってインストールを行ってください。

Windows XPのインストール

インストールの流れ

Windows XPのインストールの主な流れは次のとおりです。
インストール作業は、p.206 「Windows XPをインストールする」以降の手順に従って行ってください。



HDD領域（Cドライブ）を変更するには

Windowsのインストール中にCドライブ（Windowsがインストールされている領域）のサイズを変更したり、分割したりすることができます。
HDD領域の変更や、分割についての詳しい説明は、p.266 「HDD領域（ドライブ）の分割・変更・作成」をご覧ください。

▶Windows XPをインストールする

バックアップを取る

次の設定やデータは、Windowsの再インストールを行うと消えてしまいます。必要に応じてバックアップを行ってください。

- **ネットワークやモデムの設定**
  接続に関する設定を書き写しておいてください。
- **Internet Explorerの「お気に入り」、Outlook Expressの「アドレス帳」「メールデータ」**
  ☞ p.259 「データのバックアップ」
  このほかのWeb閲覧ソフトやメールソフトをお使いの場合は、ソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。
- **セキュリティチップユーティリティの設定**
  セキュリティチップユーティリティを使用している場合は、設定のバックアップを行ってください。
  ☞『セキュリティ機能（TPM）設定ガイド』（別冊）－「Windowsを再インストールする前に」
- **重要なデータ**
  ほかのメディアなどにコピーしておいてください。
  HDD領域の変更を行わない場合でも、Cドライブ以外のドライブ（HDD領域）のデータのバックアップをおすすめします。
  ☞ p.259 「データのバックアップ」

コンピュータを購入時の状態にする

マウスなどの周辺機器が接続されていたり、BIOSの設定値が変更されていたりすると、正常にインストールが行われない可能性があります。コンピュータを購入時の状態に戻してから再インストールを行ってください。

指紋を削除する

指紋認証機能を使用していた場合には、Windowsの再インストールを行う前に、すべての指紋を必ず削除してください。指紋の情報が残っていると、Windows再インストール後の起動時に、残った情報での指紋認証を要求されます。

☞ p.125 「指紋の追加登録・変更・削除」
☞ p.250 「指紋認証機能の不具合」

Windows XPのインストール

Windows XPのインストール方法は、次のとおりです。

1 **Windowsが起動した状態で、「Windows XPリカバリCD」を光ディスクドライブにセットします。**

「実行する操作の選択」画面が表示されたら、画面左下の［終了］をクリックし、画面を閉じてください。ここからはインストールを行いません。

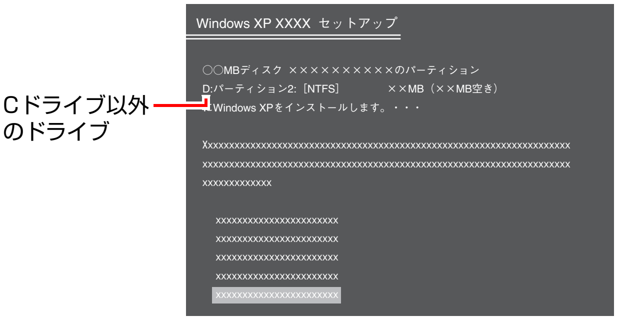
2 **［スタート］－［終了オプション］－［再起動］をクリックして、コンピュータを再起動します。**

3 **「EPSON」と表示後、黒い画面に「Press any key to boot from CD.」と表示されたら、どれかキーを押します。**

一定時間内にキーを押さないと、HDD内のWindowsが起動してしまいます。Windowsが起動してしまった場合は、手順2へ戻ります。
手順4の画面が表示されるまでしばらく時間がかかります。

4 **HDDの領域が複数ある場合は、次の画面が表示されます。この場合は、必ず Esc を押します。**

HDD領域が1つ（Cドライブのみ）の場合、この画面は表示されません。
手順5へ進みます。



上の画面では必ず Esc を押して、CドライブにWindowsをインストールしてください。↵ を押してしまうと、Cドライブ以外のドライブにWindowsがインストールされるため、そのドライブに収録されているデータはすべて消えてしまいます。ご注意ください。

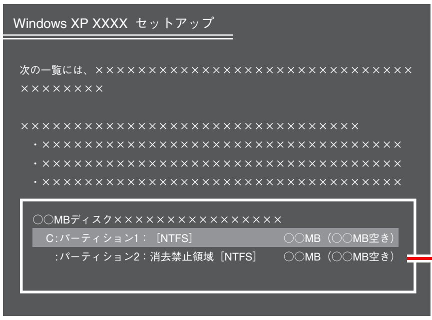
5 「次の一覧には、このコンピュータ上の既存のパーティションと未使用の領域が表示されています。・・・」と表示されたら、次のとおり作業を続けます。

＜領域変更を行う場合＞

p.269「Cドライブを分割・変更する」の手順に従ってください。

＜領域変更を行わない場合（通常）＞

Cドライブが選択されていることを確認し［Enter］を押します。



「消去禁止領域」を、誤って削除しないでください。

画面下方に、HDD領域の一覧が表示されます。このうち、「消去禁止領域」は、本体ドライバやソフトウェアの再インストールに使用する領域です。絶対に削除しないでください。

6 HDDの領域が複数ある場合、「別のオペレーティングシステムのあるパーティションに…」と表示されたら［C］を押します。

HDDの領域が1つの場合は、上記は表示されませんので手順7に進みます。

7 「…にWindows XPをインストールします。」と表示されたら、「NTFSファイルシステムを使用してパーティションをフォーマット」を選択して［Enter］を押します。

「現在のファイルシステムをそのまま使用（変更なし）」を選択すると、Cドライブに Windowsが追加登録されてしまいます（Windowsが複数になります）ので注意してください。

8 「警告：このドライブをフォーマットすると・・・」と表示されたら、［F］を押します。

9 フォーマットと、ファイルのコピーが行われます。終了すると、自動的にコンピュータが再起動します。

再起動してから「ライセンス契約」が表示されるまでに、少し時間がかかります。

10 「ライセンス契約」と表示されたら、契約内容に同意するかしないかを設定します。

「同意しない」を選択するとWindows XPのインストールが中止されます。

11 **「ソフトウェアの個人用設定」と表示されたら、「名前」と「組織名」を入力し、［次へ］をクリックします。**

「名前」は必ず入力してください。

12 **「コンピュータ名…」と表示されたら、必要な項目を入力して［次へ］をクリックします。**

☞ p.44「セットアップ中に入力する項目について」

13 **「日付と時刻の設定」と表示されたら、表示内容を確認して［次へ］をクリックします。**

コンピュータ設置場所の日付と時刻の設定を行います。

14 **Windows XP Professionalをお使いの場合は、「ワークグループまたはドメイン名」と表示されます。必要な項目を入力して［次へ］をクリックします。**

- **ネットワークに接続する場合**

  「ワークグループ」または、「ドメイン名」を入力します。

- **ネットワークに接続しない場合**

  「このコンピュータはネットワーク上にないか…」に任意の英数字（例：「WORKGROUP」など）を入力する必要があります。

Windows XP Home Editionをお使いの場合や、購入時の構成によっては表示されない場合があります。表示されない場合は、次の手順へ進みます。

15 **再起動後に「ディスプレイの設定」画面が表示されたら、［OK］をクリックします。**

16 **「モニタの設定」画面が表示されたら、［OK］をクリックします。**

17 **「Microsoft Windowsへようこそ」と表示されたら、画面右下の［⇨］をクリックします。**

18 **「コンピュータを保護してください」と表示されたら、自動更新を有効にするかどうかを選択し、画面右下の［⇨］をクリックします。**

インターネットに接続している環境の場合は、自動更新を有効にすることをおすすめします。

19 **「インターネットに接続する方法を指定してください。」と表示されたら、画面右下にある［▷▷］（省略）をクリックします。**

購入時の構成によっては、表示されない場合があります。表示されない場合は、次の手順に進みます。

20 **「Microsoftにユーザー登録する準備はできましたか？」と表示されたら、「いいえ、今回はユーザー登録しません。」にチェックを付けて⇨をクリックします。**

購入時の構成によっては、表示されない場合があります。表示されない場合は、次の手順に進みます。

21 **「このコンピュータを使うユーザーを指定してください」と表示されたら、ユーザー名を入力して⇨をクリックします。**

ユーザー名を少なくとも1つ入力してください。

22 **「設定が完了しました」と表示されたら、⇨をクリックします。**

23 **Windows XPのデスクトップ画面が表示されたら、「Windows XPリカバリCD」を取り出します。**

これでWindows XPのインストールは終了です。

24 **手順5でHDD領域（Cドライブ）を変更した場合は、「未使用の領域」に領域（パーティション）の作成を行います。**

領域（パーティション）の作成は、ドライバやソフトウェアのインストールが終了してから行っても構いません。

p.270 「Cドライブ以外のドライブを作成・変更する」

リカバリツールのインストール

リカバリツールは、HDDの消去禁止領域に登録されている本体ドライバやソフトウェアのインストールの際に使用します。
リカバリツールのインストールは、次の手順で行います。

1 **「リカバリツールCD」を光ディスクドライブにセットします。**

正しくセットされると自動的に「リカバリツールセットアップへようこそ」画面が表示されます。
表示されない場合は、［スタート］－「マイコンピュータ」－「EPSON_CD」をダブルクリックします。

2 **以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。**

インストールが完了すると、デスクトップ上に「リカバリツール」アイコンが表示されます。「リカバリツールCD」を光ディスクドライブから取り出してください。



▶本体ドライバのインストール

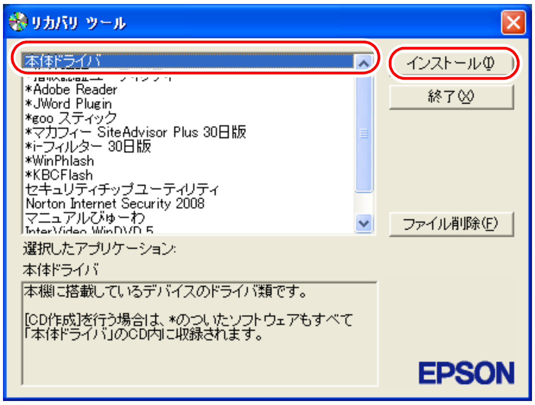
本機のメインボード上に搭載しているデバイスドライバ類を一括してインストールします。
インストールは、次の手順で行います。

1 **デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。**

2 **「リカバリツール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。**

3 **本体ドライバやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「本体ドライバ」を選択して［インストール］をクリックします。**

手順4の画面が表示されるまでには、数分かかります。



<イメージ>

4 **「ドライバ・ソフトウェアのインストール」画面が表示されたら、一覧から［インストール］をクリックします。**

5 **「インストール確認」画面が表示されます。内容をよくお読みになり［OK］をクリックします。**

各ドライバが自動的にインストールされます。インストールには10数分かかります。

6 **「インストールが完了しました」と表示されたら、[OK] をクリックします。**

7 **「インストール処理」画面が表示されたら、ドライバのインストール状態を確認して［PC再起動］をクリックします。**

ドライバによっては、Windowsの再起動後に自動的にインストールされます。
Windowsが再起動したら、本体ドライバのインストールは終了です。

参考

リカバリツールの［ファイル削除］の表示について

リカバリツールからインストールを行う際、ソフトウェアによっては一時的にHDDにインストール用データをコピーします。「リカバリツール」画面で［ファイル削除］が黒字で表示されるときは、コピーされた不要なインストール用データがHDDに残っています。［ファイル削除］をクリックしてデータを削除すると、HDDの容量を節約することができます。

Adobe Readerのインストール

「Adobe Reader」は、PDF形式のファイルを表示したり、印刷したりするためのソフトウェアです。

インストール

Adobe Readerのインストール手順は、次のとおりです。

1 **デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。**

2 **「リカバリツール」画面が表示されたら、［インストール］をクリックします。**

3 **本体ドライバやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「Adobe Reader」を選択して［インストール］をクリックします。**

4 **「インストール先のフォルダ」と表示されたら、［次へ］をクリックします。**

5 **「プログラムをインストールする準備ができました」と表示されたら、［インストール］をクリックします。**

インストールにはしばらく時間がかかります。

6 **「セットアップ完了」と表示されたら、［完了］をクリックします。**

続いてAdobe Readerのセットアップを行います。

セットアップ

インストールが完了したら、続いてセットアップを行います。Adobe Readerのセットアップ手順は次のとおりです。

1 **デスクトップ上の「Adobe Reader」アイコンをダブルクリックします。**

2 **「使用許諾契約書」が表示されたら、「…言語を選択してください。」が「日本語」になっていることを確認します。**

3 **「使用許諾契約書」に同意するかしないかを選択します。**

同意する場合は、［同意する］をクリックします。［同意しない］を選択すると、Adobe Readerは使用できません。

4 **「Adobe Reader操作ガイド」が表示されます。**

内容を確認してください。
これで、Adobe Readerのセットアップは完了です。

▶セキュリティソフトウェアのインストール

本機に添付のセキュリティソフトウェア「Norton Internet Security 90日版」をインストールします。『セキュリティソフトウェアをご使用の前に』（別冊）をご覧ください。
市販のセキュリティソフトウェアなどをインストールする場合は、ソフトウェアに添付のマニュアルをご覧になり、インストールを行ってください。

▶Webフィルタリングソフトウェアのインストール

本機に添付の「i−フィルター 30日版」をインストールします。i−フィルター 30日版は、有害サイトをブロックするためのWebフィルタリングソフトウェアです。
市販のWebフィルタリングソフトウェアなどをインストールする場合は、ソフトウェアに添付のマニュアルをご覧になり、インストールを行ってください。

i−フィルター 30日版のインストール

i−フィルター 30日版のインストール方法は、次のとおりです。

1 **デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。**

2 **「リカバリツール」画面が表示されたら、［インストール］をクリックします。**

3 **本体ドライバやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「i −フィルター 30日版」を選択して［インストール］をクリックします。**

4 **「i−フィルター･･･セットアップへようこそ」と表示されたら、［次へ］をクリックします。**

5 **「使用許諾契約」画面が表示されたら、内容をよくお読みになり同意するかしないかを選択します。**

同意する場合は［はい］をクリックします。［いいえ］を選択すると、i−フィルター 30日版は使用できません。

6 **「インストール先の選択」画面が表示されたら、［次へ］をクリックします。**

7 「インストールを完了するためにはコンピュータの再起動が必要です。･･･」と表示されたら、［OK］をクリックします。

Windowsが再起動したら、i－フィルター 30日版のインストールは完了です。続いて、i－フィルター 30日版のセットアップを行います。

i－フィルター 30日版のセットアップ

1 Windowsが再起動して「i－フィルター･･･」画面が表示されたら、使用許諾契約書の内容をよくお読みになり、［「i－フィルター」を使ってみる］をクリックします。

2 「管理パスワードの設定」画面が表示されたら、「管理パスワード」と「管理パスワード（確認）」にパスワードを入力して［設定］をクリックします。

このパスワードは、フィルター設定を変更する場合などに必要になります。

3 「有害サイト遮断ソフト･･･へようこそ！」と表示されたら、画面の注意事項をよくお読みください。

これで、i－フィルター 30日版のセットアップは完了です。

マニュアルびゅーわのインストール

「マニュアルびゅーわ」のインストールは、次の手順で行います。

1 デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。

2 「リカバリツール」画面が表示されたら、［インストール］をクリックします。

3 本体ドライバやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「マニュアルびゅーわ」を選択して［インストール］をクリックします。

4 「マニュアルびゅーわセットアップへようこそ」と表示されたら、「次へ」をクリックします。

5 「インストール準備の完了」と表示されたら、［インストール］をクリックします。

6 「InstallShield Wizardの完了」と表示されたら、［完了］をクリックします。

これで「マニュアルびゅーわ」のインストールは完了です。

Nero 7 Essentialsのインストール

Nero 7 Essentialsは、書き込み機能のある光ディスクドライブ搭載時のみ添付されています。
Nero 7 Essentialsのインストール手順は次のとおりです。

1 デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。

2 「リカバリツール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。

3 本体ドライバやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「Nero 7 Essentials」を選択して［インストール］をクリックします。

4 「Neroマルチインストーラ」画面が表示されたら、[Nero 7 Essentials] をクリックします。

5 「・・・インストールウィザードへようこそ」と表示されたら、以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。

WinDVDのインストール

WinDVDは、DVD再生機能のある光ディスクドライブ搭載時のみ添付されています。
WinDVDのインストールは、次の手順で行います。

1 デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。

2 「リカバリツール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。

3 本体ドライバやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「InterVideo WinDVD …」を選択して [インストール] をクリックします。

4 「WinDVD セットアップへようこそ」と表示されたら、以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。

JWord Pluginのインストール

Internet Explorerのアドレスバーから、日本語でインターネットを検索できるソフトウェアです。
JWord Pluginのインストール手順は次のとおりです。

1 デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。

2 「リカバリツール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。

3 本体ドライバやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「JWord Plugin」を選択して［インストール］をクリックします。

4 「JWordプラグイン　セットアップ」画面が表示されたら、以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。

▶Bluetoothドライバのインストール

Bluetoothドライバは、Bluetooth搭載時のみ添付されています。
Bluetoothドライバのインストールは次の手順で行います。

1 デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。

2 「リカバリツール」画面が表示されたら、［インストール］をクリックします。

3 本体ドライバやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から［Bluetoothドライバ］を選択して［インストール］をクリックします。

4 「セットアップ言語の選択」画面が表示されたら「日本語（日本）」と表示されていることを確認して、［OK］をクリックします。

5 「BlueSoleil…へようこそ」と表示されたら、［次へ］をクリックします。

6 「使用許諾契約」と表示されたら、「使用許諾契約書」に同意するかしないかを選択します。
同意する場合は、「使用許諾の条項に同意します」にチェックを付けて、［次へ］をクリックします。「使用許諾の条項に同意しません」を選択すると、インストールができません。

7 「インストール先のフォルダ」と表示されたら、［次へ］をクリックします。

8 「プログラムをインストールする準備ができました」と表示されたら、［インストール］をクリックします。
インストールが開始されます。

9 「InstallShield ウィザードを完了しました」と表示されたら、［完了］をクリックします。

10 「BlueSoleil…のInstaller情報」画面が表示されたら、内容をお読みになり、［はい］をクリックします。
Windowsが再起動したら、Bluetoothドライバのインストールは完了です。

▶gooスティックのインストール

gooスティックのインストールは、次の手順で行います。

1 **デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。**

2 **「リカバリツール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。**

3 **本体ドライバやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「gooスティック」を選択して［インストール］をクリックします。**

4 **「インストールが完了しました。」と表示されたら、[OK] をクリックします。**
これで、gooスティックのインストールは完了です。

▶マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版のインストール

「マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版」は、Webサイトの安全性を表示し、危険なサイトへのアクセスを防ぐWebセーフティツールです。

インストール

マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版のインストール手順は次のとおりです。

1 **デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。**

2 **「リカバリツール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。**

3 **本体ドライバやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版」を選択して［インストール］をクリックします。**

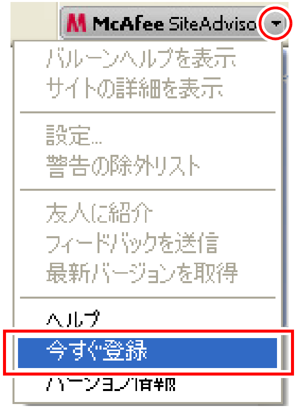
4 **「McAfee　SecurityCenter」画面が表示されたら、以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。**
インストールが完了したら、続いて、ユーザー登録を行います。

ユーザー登録

マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版を使用するには、ユーザー登録が必要です。ユーザー登録の方法は、次のとおりです。

1 **Internet Explorerを起動します。**

2 **Internet Explorerのツールバーに表示される［McAfee SiteAdvisor］の▼をクリックして、表示された一覧から「今すぐ登録」をクリックします。**



3 **表示された画面に従ってユーザー登録を行います。**

ユーザー登録が完了すると、マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版が使用可能になります。

そのほかの作業

領域の作成

Windowsのインストール中にHDD領域を変更した場合、未設定領域は、そのままでは使用できません。Windowsの「ディスクの管理」を使用して、領域の作成を行います。

p.272 「HDD領域（パーティション）の作成手順」

指紋認証ユーティリティのインストール

指紋認証ユーティリティをインストールすると、指紋認証機能を使用することができます。必要に応じてインストールを行ってください。
指紋認証ユーティリティのインストールは次の手順で行います。

1. **デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。**
2. **「リカバリツール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。**
3. **本体ドライバやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「指紋認証ユーティリティ」を選択して [インストール] をクリックします。**
4. **「Protector Suite …インストールウィザードへようこそ」と表示されたら、[次へ] をクリックします。**
5. **「保存先フォルダ」と表示されたら、[次へ] をクリックします。**
6. **「アプリケーションのインストール準備をする」と表示されたら、[次へ] をクリックします。**
   インストールが開始されます。インストールにはしばらく時間がかかります。
7. **「Protector Suite …は、正常にインストールされました。」と表示されたら、[完了] をクリックします。**
8. **「Protector Suite …セットアップ」画面が表示されたら、内容をお読みになり、[はい] をクリックします。**
   Windowsが再起動したら、指紋ユーティリティのインストールは完了です。
   指紋の登録を行ってください。
   p.124 「指紋を登録する」

セキュリティチップユーティリティのインストール

セキュリティチップのセキュリティ機能（TPM）を使用していた場合は、セキュリティチップユーティリティをインストールします。詳しくは、本機に添付の『セキュリティ機能（TPM）設定ガイド』（別冊）をご覧ください。

各種ドライバのインストール

お使いになるシステム構成によって、ドライバやユーティリティ、アプリケーションなどのインストールが必要です。インストールは、オプション機器類に添付されているメディアを使用して行います。詳しくは、本機でお使いになるオプション機器類に添付のマニュアルをご覧ください。

参考

インストールが必要なドライバの例

お使いになるシステム構成によって、次のようなドライバやユーティリティが必要になります。

- USB対応機器を使用する場合：USB機器に添付のドライバ
- プリンタを使用する場合　　：プリンタに添付のドライバ

ネットワークの設定

ネットワーク機能（有線LAN）や無線LAN機能搭載モデルの無線LAN機能を使用する場合は、ネットワークへの接続を行います。

p.129「ネットワーク（有線LAN）を使う」
p.134「無線LANを使う（無線LAN搭載時のみ）」

バックアップしたデータの復元

再インストールを行う前にバックアップしたデータを復元します。

- **Internet Explorer、Outlook Expressの設定の復元**

  p.259「データのバックアップ」

- **重要なデータ**

  バックアップ先のメディアなどから元に戻します。

そのほかのソフトウェアのインストール

そのほかに使用するソフトウェアがある場合は、インストールします。インストール方法についてはソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

マイクから録音するための設定

内蔵マイクを使用して録音する場合は、内蔵マイクを有効に設定する必要があります。購入時は、あらかじめ内蔵マイクは有効に設定されています。Windowsを再インストールした場合は、次の設定を行ってください。

1. **［スタート］－「コントロールパネル」－「サウンド、音声、およびオーディオデバイス」－「サウンドとオーディオデバイス」をクリックします。**

2. **「サウンドとオーディオデバイスのプロパティ」画面が表示されたら、「オーディオ」タブの「録音」項目にある［音量］をクリックします。**

3　**「録音コントロール」画面の「マイクボリューム」領域内にある［選択］項目にチェックを付けて、「オプション」メニュー－「トーン調整」－［トーン］をクリックします。**

4　**「マイクボリュームの詳細設定」画面の「1 マイクブースト」項目にチェックを付けます。**

モデムの設定

ダイヤル情報の設定を行います。

1　**［スタート］－「コントロールパネル」－「プリンタとその他のハードウェア」－「電話とモデムのオプション」をクリックします。**

2　**「所在地情報」画面が表示されたら、「国名/地域名」、「市外局番/エリアコード」、「外線発信番号」や「ダイヤル方法」などを設定します。**

3　**「電話とモデムのオプション」画面が表示されたら、「モデム」タブをクリックし、［プロパティ］をクリックします。**

4　**「（モデムの名称）のプロパティ」画面が表示されたら、「モデム」タブをクリックし、「ダイヤルの管理」項目ー「発信音を待ってからダイヤルする」のチェックを外します。**

これでダイヤル情報の設定は完了です。
インターネットに接続する場合は、このあとダイヤルアップ接続の設定を行ってください。

p.160 「手動でダイヤルアップ接続の設定をする」

Windows Update

Windowsの再インストールを行うと、今までに行った「Windows Update」のプログラムがインストールされていない状態に戻ります。
再インストール後にはじめてインターネットに接続する際は、必ず手動でWindows Updateを行ってください。

p.151 「Windows Update」

第6章
こんなときは

困ったときの確認事項や対処方法などについて説明します。

トラブルが発生したら

本機ご使用時にトラブルが発生した場合は、次の場所から対処方法をご確認ください。

● **困ったときに**

トラブルが発生した場合の確認事項と対処方法を記載しています。

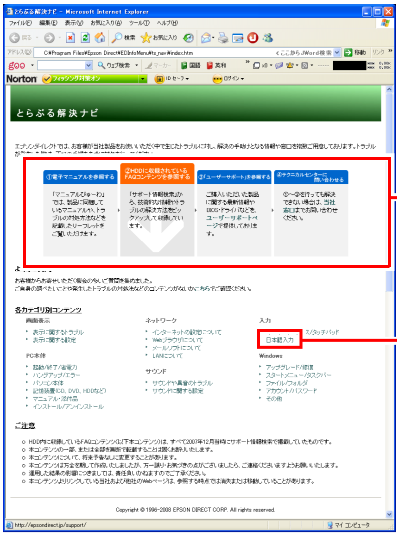
p.225 「困ったときに」

● **とらぶる解決ナビ**

当社ユーザーサポートページの「サポート情報検索」から、技術的なトラブルの解決方法をピックアップして収録しています。



「インフォメーションメニュー」を開き、「とらぶる解決ナビ」をクリック



トラブルが起きた場合の対処の流れを確認します。

起こったトラブルに関する項目をクリックします。
トラブルの詳細が表示されたら、詳細項目をクリックし、対処方法を確認します。

参考

サポート・サービスのご案内

別冊子『サポート・サービスのご案内』には、当社のサポートやサービスの内容が詳しく記載されています。
困ったときや万一の場合に備えてご覧ください。

困ったときに

困ったときの確認事項と対処方法を説明します。不具合が発生した場合に参考にしてください。
対処方法が見つからない場合は、「インフォメーションメニュー」の「とらぶる解決ナビ」や「サポート情報検索」もあわせてご覧ください。

参考

不具合が解消しない場合は
対処を行っても不具合が解消しない場合は、『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧になり、「カスタマーサービスセンター」までご連絡ください。

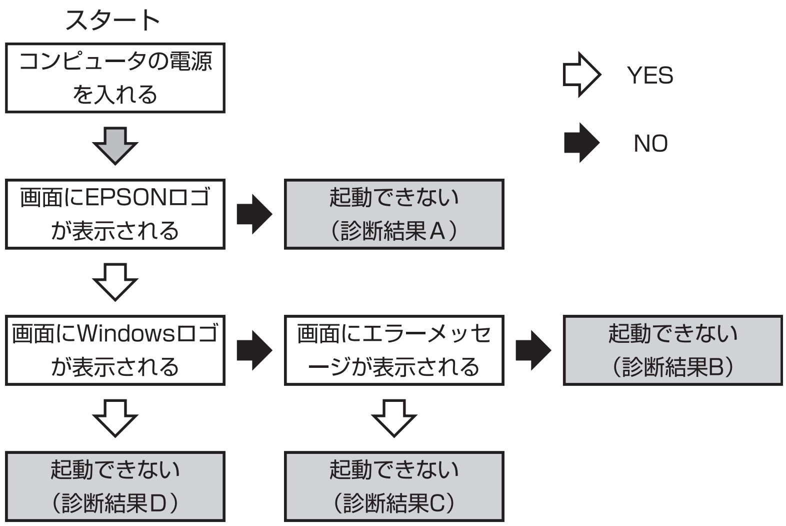
不具合一覧

参考

ネットワーク、インターネットの不具合
ネットワーク（有線LAN、無線LAN）やインターネットでの不具合の対処方法は、「インフォメーションメニュー」－「とらぶる解決ナビ」をご覧ください。

▶コンピュータが起動できない場合

コンピュータが起動できない場合は、次の診断表をご覧ください。各問いにお答えいただき、たどりついた結果の指示に従ってください。



診断結果

診断結果Ａ

次の対処を順に行ってみてください。

(1) → (2) → (6) → (13) → (14)

p.227 「対処方法」

診断結果B

次の対処を順に行ってみてください。

(7) → (9) → (10) → (11) → (12) → (14)

p.227 「対処方法」

診断結果C

表示されるメッセージによって対処方法が異なります。次の対処を順に行ってみてください。

C-1

「S.M.A.R.T Failure Predicted on HDD / WARNING: Immediately back-up your data and replace your HDD」というメッセージが表示された場合

(14)

p.227 「対処方法」

C-2

「DISK BOOT FAILURE」、「Invalid system disk」、「Missing Operating System」、「Operating System Not Found」などのメッセージが表示された場合

(3) → (4) → (5) → (11) → (12) → (14)

p.227 「対処方法」

C-3

上記以外のメッセージが表示された場合

(3) → (6) → (11) → (12) → (14)

p.227 「対処方法」

診断結果D

次の対処を順に行ってみてください。

(6) → (7) → (8) → (9) → (10) → (12) → (14)

p.227 「対処方法」

対処方法

(1) 出力先を切り替える…A

外部ディスプレイへの出力が有効になっていると、LCD画面に何も表示されません。Fn + F7 を押し出力先を切り替えることで、問題が解決されるかどうか確認してください。

(2) コンピュータへの電源供給を確認する…A

コンピュータへの電源供給に問題がある可能性があります。コンピュータの電源を切ってからコンピュータとACアダプタ、電源コードを接続しなおし、再度電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

電源プラグはコンセントに接続してください。

バッテリパックのみで使用している場合は、完全放電している可能性があります。ACアダプタを接続して使用してください。

p.39 「ACアダプタを接続する」

(3) FD やUSB フラッシュメモリを取り外す…C-2・C-3

外付けのFDDにFDがセットされていたり、USB 接続のフラッシュメモリなどが装着されていると、FDやUSB 機器からOS を読み込もうとして、現象が発生する場合があります。FDやUSB 機器を取り外してから、コンピュータを起動して問題が解決されるかどうか確認してください。また、起動に使用するドライブの優先順位の設定でHDD を最優先に設定しておくことで、外付けのFDD やUSB 機器を接続した状態でもコンピュータを起動できるようになります。

p.195 「Bootメニュー画面」

(4) しばらく放置する…C-2

急激な温度変化があった場合は、HDDの表面が結露してしまっている可能性があります。結露した水分が自然に蒸発するまで、しばらく放置しておいてから、再度電源を入れなおしてみてください。

(5) 認識と接続を確認する…C-2

BIOSでHDDを認識できていない可能性があります。次の手順でBIOSを確認してください。

1. BIOS Setupユーティリティを起動します。

   p.181 「BIOS Setupユーティリティの起動」

2. 「Advancedメニュー画面」で「IDE Channel 0 Master」の設定を確認します。

   正常に認識されている場合は、HDDの型番が表示され、正常に認識できていない場合は、「Not Detected」、「None」などと表示されます。

   BIOSで正常に認識できていない場合は、(11)(12)の作業を行ってみてください。

(6) 周辺機器および増設した装置を取り外す…A・B・C-3・D

プリンタやスキャナなどの周辺機器など、ご購入後にお客様ご自身で増設された装置がある場合は、装置を取り外した状態で電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

(7) セーフモードで起動する…B・D

必要最低限の状態であるセーフモードで起動してみてください。

p.253 「セーフモードでの起動」

(8) 常駐ソフトを停止する…D

常駐ソフトとは、システム稼働中、常にメモリ上に存在しているソフトです。これらのソフトが稼働していることにより現象が発生している可能性があるため、セーフモードで起動できた場合は、ソフトを一時的に停止させ、正常に動作するか確認してください。

常駐ソフトを停止する手順は次のとおりです。

1. [スタート] − 「ファイル名を指定して実行」を選択します。
2. 「ファイル名を指定して実行」画面が表示されたら、「名前」に「msconfig」と入力して、[OK] をクリックします。
3. 「スタートアップ」タブをクリックし、一覧から問題の原因となっている可能性のある項目のチェックを外し、[OK] をクリックします。
4. 「再起動する必要があります」というメッセージが表示されたら、[再起動] をクリックします。

5. Windows 起動時に、「開始方法を変更しました」というメッセージが表示されたら、「このメッセージを表示しない」にチェックを入れて、[OK] をクリックします。

※ 常駐ソフトが原因ではなかった場合、外したチェックは元に戻してください。

(9) システムの復元を行う…B・D

セーフモードで起動できた場合は「システムの復元」機能を使用して以前のコンピュータの状態に戻すことで、問題が解決できる可能性があります。システムの復元を行ってみてください。

p.253 「システムの復元」

(10) 前回正常起動時の構成で起動する…B・D

セーフモードで起動できない場合は、前回正常起動時の構成で起動できるかどうかを確認します。

前回正常起動時の構成で起動する手順は次のとおりです。

1. コンピュータの電源を入れます。
2. EPSONと表示され、消えた直後に[F5]を押し、そのまま離さずにしばらく押し続けます。
3. 「Windows 拡張オプションメニュー」と表示されたら、[↑]もしくは[↓]を押して、「前回正常起動時の構成」を選択し、[↵]を押します。
4. 「オペレーティングシステムの選択」と表示されたら、起動するOS を選択して[↵]を押します。

(11) BIOSの設定を初期値に戻す…B・C-2・C-3

BIOSの不整合が原因で問題が発生している可能性があります。BIOSの設定を初期値に戻して問題が解決されるか確認してください。

p.184 「Load Setup Defaults（初期値に戻す）」

(12) Windowsを再インストールする…B・C-3・C-4・D

HDD 内に記録されている、起動部分のプログラムが壊れている可能性があります。Windows の再インストールを行って問題が解決されるかどうか確認してください。

p.199 「ソフトウェアの再インストール」

(13) 電源保護回路を解除する…A

過電流によってコンピュータが不安定になっている可能性があります。周辺機器/増設機器類（マウスを含む）を外して電源コードを抜いたあと、1 分程度放置し、問題が解決されるかどうか確認してください。

(14) カスタマーサービスセンターに問い合わせる…A・B・C・D

対処を行っても不具合が改善されない場合は、故障の可能性が考えられます。『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、カスタマーサービスセンターへお問い合わせください。

コンピュータ本体の不具合

制限

電源を切ってからもう一度入れなおす場合には、20 秒程度の間隔を開けてください。20 秒以内に電源を入れなおすと、電源が異常と判断され、システムが正常に起動しなくなる場合があります。

現象

起動時に電源ランプが点灯しない。

確認と対処

- バッテリだけで使用している場合は、バッテリが完全放電している可能性があります。ACアダプタを接続してください。
- バッテリ、ACアダプタが正しく接続されているか確認してください。
  p.35 「コンピュータの設置」
- 電源コンセントに電源が供給されているか確認してください。ほかの電気製品の電源コードを電源コンセントに接続して確認してください。
- バッテリ、ACアダプタ、電源コンセントに問題がない場合には、『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、テクニカルセンターまでご連絡ください。

現象

起動時に画面に警告メッセージが表示される、または警告音（ビープ音）が鳴って起動しない。

確認と対処

- 現象が発生する前に周辺機器の増設やアプリケーションのインストールを行った場合には、それらが原因となっている可能性があります。周辺機器の取り外しやアプリケーションの削除をして、現象が発生する前の状態に戻してください。
- 起動時の自己診断テスト終了後（Windowsの起動中）に警告メッセージが表示されている場合には、Windowsが正常に動作していない可能性があります。警告メッセージの内容をメモして、『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、テクニカルセンターまでご連絡ください。

- 起動時の自己診断テスト中に警告メッセージが表示されたり警告音（ビープ音）が鳴って止まったりする場合は、警告メッセージを確認するか、警告音（ビープ音）の回数をメモしてください。自己診断テストの結果、ハードウェアに問題が発生している可能性があります。問題が解決できない場合には、『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、テクニカルセンターまでご連絡ください。

  p.255 「警告メッセージが表示されたら」

- BIOSの設定が正常でない可能性があります。「BIOS Setupユーティリティ」で設定値を初期値に戻してください。

  p.184 「設定値を元に戻すには」

- コンピュータの状態が、前回使用していたときと異なる場合は、次のようなメッセージが表示されることがあります。

  Press F1 to continue, F2 to enter SETUP

  F2 を押して「BIOS Setupユーティリティ」を起動します。通常は、そのまま「Exit Saving Changes」を実行して「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。

  p.182 「BIOS Setupユーティリティの操作」

  F1 を押すとシステムが起動しますが、動作中に問題が発生する可能性があります。

現象

起動時に次のようにパスワードの入力が要求される。また、パスワードを入力しても起動しない。

```
Enter Password:
```

```
Enter Primary Master HDD User Password
```

確認と対処

- 「BIOS Setupユーティリティ」でパスワードを設定してあります。正しいパスワードを入力してください。

  p.192 「Securityメニュー画面」

- パスワードを正しく入力しているか確認してください。NumLk の状態により一部のキーが数値キーとして働きます。

  p.75 「キーボードを使う」

- パスワードを忘れてしまった場合には、『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。

現象

起動時に次のようなメッセージが表示されて、Windowsが起動しない。

●Operating System not found
●DISK BOOT FAILURE, INSERT SYSTEM DISK AND PRESS ENTER
●Invalid system disk. Replace the disk, and then press any key

確認と対処

● システムが登録されていないFDがオプションのUSB FDDにセットしてある場合は、FDを抜いてどれかキーを押してください。

● USBフラッシュメモリなどの周辺機器をUSBコネクタに接続している場合は、いったん電源を切って周辺機器を取り外してから、再度電源を入れてください。

現象

ハングアップしてしまい、何も反応しない。

確認と対処

● 応答のないプログラムをタスクマネージャで終了させます。
応答のないプログラムを終了させる手順は、次をご覧ください。
p.57「ハングアップしたときは」

● 応答のないプログラムを終了させることができない場合には、電源スイッチを押して電源を切ってください。

● 電源スイッチを押しても電源が切れない場合は、5秒以上電源スイッチを押してください。これで電源が切れます。

現象

「BIOS Setupユーティリティ」の情報、日付、時間などの設定が変わってしまう。

確認と対処

● 本機内部のバックアップ電池の残量が少なくなり、BIOSのデータを保持できなくなっている可能性があります。p.275「バックアップ電池」をご覧になり、適切な対処を行ってください。

現象

起動時に、Windowsを選択する画面が表示される（Windowsが2つになってしまっている）。

確認と対処

- Windowsの再インストールの際に手順を間違ったと考えられます。
再度、手順どおりにWindowsの再インストールを行ってください。
ポイントとなる手順は、次のとおりです。
  - p.207 「Windows XPのインストール」の手順4では必ず Esc を押す。
  - p.207 「Windows XPのインストール」の手順5、p.269 「Cドライブを分割・変更する」の手順1では必ずCドライブを選択する（Cドライブ以外にWindowsが入ってしまっている場合は、そのドライブをフォーマットする）。
  - p.207 「Windows XPのインストール」の手順7、p.269 「Cドライブを分割・変更する」の手順7では必ず「NTFSファイルシステムを使用してパーティションをフォーマット」を選択する。

▶省電力機能に関する不具合

現象

正しく省電力状態に移行できない。または省電力状態から復帰できない。

確認と対処

- 使用しているソフトウェアや常駐ソフト、増設している周辺機器の影響により省電力機能が正常に働かない可能性があります。ソフトウェアの削除や常駐ソフトの解除、周辺機器の一時的な取り外しを行い、省電力機能が正常に働くか確認してください。

- バッテリ残量が少なくなり、本機が省電力状態に移行した場合は、AC アダプタを接続してから復帰させてみてください。

- 省電力状態から復帰できない場合は、Ctrl + Alt + Delete を押して本機を再起動してください。ただし、省電力状態に移行する前に作成した未保存のデータは、すべて消失します。

- 省電力状態で PC カードやメモリカード、USB 機器などを抜き差しすると、正しく復帰できません。Ctrl + Alt + Delete を押して、本機を再起動してください。ただし、省電力状態に移行する前に作成した未保存のデータは、すべて消失します。

バッテリパック使用時の不具合

現象

充電されない。

確認と対処

- バッテリパックが正しく装着されているか確認してください。

- 充電時にバッテリ充電ランプが点灯しているか確認してください。点灯していない場合は、コンセントに電源が供給されているか確認してください。ほかの電気製品をコンセントに接続してください。

- コンセントに問題がない場合は、ACアダプタまたは本機に問題があります。『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、テクニカルセンターまでご連絡ください。

現象

すぐにバッテリが終わってしまう。バッテリでの使用時間が短い。

確認と対処

- バッテリ残量を正しく認識していない可能性があります。完全放電してから充電しなおしてください。
  p.67 「バッテリ残量が正しく表示されないときは」

- バッテリが寿命に達したと考えられます。新しいバッテリと交換してください。なお、使用済みのバッテリは、所定の方法でリサイクルしてください。
  p.68 「バッテリの交換」
  p.70 「使用済みバッテリの取り扱い」

- バッテリの劣化を抑えて寿命を延ばす方法は、p.68 「バッテリの寿命を延ばすには」をご覧ください。

▶キーボードの不具合

現象

どのキーを押しても応答がない。

確認と対処

- タッチパッドを操作してください。タッチパッドで操作できる場合もあります。

- アプリケーションソフトが時間のかかる処理を実行している可能性もあります。アプリケーションソフトのマニュアルをご覧ください。

- プログラムがハングアップしている可能性もあります。このような場合には、タスクマネージャでプログラムを終了してください。
  ☞ p.57 「ハングアップしたときは」

現象

キートップにある文字や記号が入力できない。

確認と対処

- 直接入力モードで日本語を入力することはできません。
  ☞ p.76 「文字を入力するには」

- Windows上でキーボードが正常に設定されていない可能性があります。
  Windows上で次のキーボードが選択されていることを確認してください。
  101/102英語キーボードまたはMicrosoft Natural PS/2キーボード

  確認方法は、次のとおりです。

  [スタート] －「コントロールパネル」－「プリンタとその他のハードウェア」－「キーボード」－「ハードウェア」タブをクリック

現象

Fn や Ctrl が機能しない。

確認と対処

- Fn と Ctrl の機能が入れ替わっている可能性があります。
  BIOSの設定で、「Advancedメニュー画面」の「Exchange FN & CTRL key」が「Enabled」になっていないか確認してください。
  ☞ p.182 「BIOS Setupユーティリティの操作」
  ☞ p.191 「Advancedメニュー画面」

6

タッチパッドの不具合

現象

ポインタの動きが悪い。

確認と対処

- 手がぬれていたり、湿気を帯びていたりしないか確認してください。

- LCDユニットを長時間閉じたままにしていた場合や、使用環境により湿度や温度の急激な変化があった場合に正常に動作しなくなることがあります。一度電源を切って入れなおしてください。

現象

ポインタが動かない。

確認と対処

- タッチパッドが無効になっていないか確認してください。
  p.74 「タッチパッド機能を無効にする」

LCDユニットの不具合

現象

LCD画面に何も表示されない。

確認と対処

- 画面の明るさを調節してください。Fn + F5 / Fn + F6 で調節できます。
  p.109 「LCDユニットの設定」

- 省電力状態になっている可能性があります。キーボードまたはタッチパッドを操作してください。
  p.167 「省電力状態から復帰する」

- バッテリ使用時に、バッテリ残量が低下してもそのまま放置すると、スタンバイに移行して画面表示が消えます（購入時の設定）。ACアダプタを接続してください。

- コンピュータの電源を切ってから20秒以内に電源を入れると、システム管理機能が電源を異常と判断する場合があります。一度電源を切って、20秒以上待ってから電源を入れてみてください。

● 起動時の自己診断テストにて異常が発見されました。警告音（ビープ音）が鳴った場合は、警告音（ビープ音）の回数をメモして、『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、テクニカルセンターまでご連絡ください。

p.255 「警告メッセージが表示されたら」

現象

画面がちらつく。

確認と対処

● LCD画面が明るくなったり、暗くなったりしてちらつく場合には、BIOS Setupユーティリティ画面でも同様の現象が発生するか確認して、『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、テクニカルセンターまでご連絡ください。

現象

画面の解像度などを変更したあと、画面が乱れたり何も表示されなくなった。

確認と対処

● 使用中のディスプレイでは、表示できない解像度を選択した可能性があります。セーフモードで起動しなおし、解像度を正しく選択してください。
セーフモードで起動する方法は、次をご覧ください。

p.253 「セーフモードでの起動」

HDDの不具合

現象

それまで問題なく使用していたHDDが認識されなくなった。

確認と対処

● HDDに問題が発生している可能性があります。「BIOS Setupユーティリティ」を実行してHDDの設定を確認してください。

p.191 「Advancedメニュー画面」

現象

特定のファイルのみ読み書きできなくなった。

確認と対処

● ファイルのデータが壊れているおそれがあります。HDDのメンテナンスユーティリティなどを実行してください。

▶光ディスクドライブの不具合

現象

光ディスクドライブが動作しない。「マイコンピュータ」や「エクスプローラ」に光ディスクドライブが表示されない。

確認と対策

- 光ディスクドライブの電源が OFF になっていないか確認してください。[Fn]＋[F3]を押して、光ディスクドライブの電源をONにします。
  ☞ p.85 「光ディスクドライブのON/OFF」

現象

音楽用CDの音が聞こえない。

確認と対処

- スピーカの音量が小さくなっている可能性があります。ボリュームを調節してください。
  ☞ p.118 「音量の調節」

現象

セットしたメディアにアクセスできない。

確認と対処

- メディアが正しくセットされているか確認してください。
- メディアを挿入した直後、アクセスランプ点灯中は読み込み準備のためアクセスできません。この場合はアクセスランプの消灯を待って、もう一度アクセスしてください。
- メディアの表面にキズなどがないか確認してください。
- 別のメディアにアクセスできるか確認してください。問題がない場合は、アクセスできないメディアに問題がある可能性があります。
- セットしたメディアが、書き込み済みの場合、光ディスクドライブとの相性によりアクセスできない可能性があります。

現象

メディアをセットすると画面が開いてしまう。

確認と対処

- セットしたメディアに自動再生機能があると、自動的に画面が開きます。メディアに登録されている内容を見たい場合は、［キャンセル］や☒をクリックして、画面を閉じます。その後［スタート］－「マイコンピュータ」のCD-ROMアイコンを右クリックして、［開く］を選択します。

現象

書き込み機能のある光ディスクドライブで、メディアに書き込みができない。またはエラーが発生する。

確認と対処

- 書き込みソフト「Nero 7 Essentials」がインストールされていない場合は、インストールをしてください。
  ☞ p.215 「Nero 7 Essentialsのインストール」

- メディアのフォーマットに関する不具合や、書き込みに関する不具合については、『Neroユーザーズガイド』を参照してください。
  ☞「マニュアルびゅーわ」－『Neroユーザーズガイド』

- データの書き込みをドラッグアンドドロップで行うには、「InCD」でメディアをフォーマットする必要があります。
  ☞ p.88 「Nero 7 Essentialsの使い方」

- 「InCD」で使用できるメディアは、CD-RW、DVD±RW、DVD-RAMのみです。
  ☞ p.88 「Nero 7 Essentialsの使い方」

- 「InCD」でフォーマットしたメディアは、「Nero 7 Essentials」での書き込みができません。「Nero 7 Essentials」で「ディスクの消去」を行ってください。
  ☞ p.88 「Nero 7 Essentialsの使い方」

- Windowsが省電力状態に切り替わると、書き込み可能なメディアへのデータ転送エラーが起き、書き込みに失敗する場合があります。書き込みを始める前に省電力機能を無効にしてください。
  ☞ p.166 「時間経過で移行させない」

- お使いの光ディスクドライブに対応しているメディアかどうか確認してください。対応メディアはインフォメーションメニューの「マニュアルびゅーわ」に登録されている光ディスクドライブのPDFマニュアルを参照してください。
  p.52 「インフォメーションメニューを使う」

- メディアが正しくセットされているかどうか、確認してください。

- メディアの表面に汚れやキズなどがないか、確認してください。

- メディアに書き込み可能な残量があるか確認してください。

- ヘッドレンズの汚れによって書き込みができない場合があります。

- 光ディスクドライブとの相性によって、セットしたメディアに書き込めない場合があります。

現象

DVD VIDEOの再生ができない。

確認と対処

- DVD VIDEOを再生する場合は、専用の再生ソフトウェアが必要です。購入時には「WinDVD」がインストールされています。

- DVD VIDEOの再生に関する不具合は、「インフォメーションメニュー」の「マニュアルびゅーわ」に登録されている『WinDVDユーザーズマニュアル』を参照してください。
  p.52 「インフォメーションメニューを使う」

現象

オーディオCDやDVD VIDEO再生時に、音声が出力されない。

確認と対処

- ボリュームコントロールが「ミュート」または「レベル0」に設定されていないか確認します。
  p.118 「音量の調節」

現象

セットしたメディアが取り出せない。

確認と対処

- コンピュータの電源が入っているか、確認してください。

▶無線LAN機能の不具合（無線LAN搭載時のみ）

現象

無線LAN機能が使用できない。

確認と対策

● 無線LANスイッチがONになっているか確認してください。
p.138 「無線LANのON/OFF」

● 無線 LAN の電波がほかの無線装置や家電製品などと干渉している可能性があります。電波に関する注意事項を確認してください。
p.101 「電波に関する注意事項」

現象

無線LANユーティリティの「SSID」や「暗号化」に関する設定で、何を入力すればよいかわからない。

確認と対策

● AP側で設定した「SSID」や「暗号化」に関する情報を入力してください。
設定内容は、APに添付の取扱説明書を参照して、確認してください。

▶セキュリティチップのセキュリティ機能（TPM）の不具合

現象

セキュリティチップの情報を初期化して、購入時の状態に戻したい。

確認と対策

● セキュリティチップの情報の初期化は、「BIOS Setupユーティリティ」の「TPM State」メニュー画面で、次の手順を行います。

(1) 「TPM State」メニュー画面－「TPM Function」で↵を押します。
「TPM Function」は「Security」メニュー画面の「TPM Support」が「Enabled」になっていると表示されます。

(2) 表示された項目から、「Clear & Enabled」を選択します。

(3) 「Exit」メニュー画面－「Exit Saving Changes」を選択して「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。

(4) 再度「BIOS Setupユーティリティ」で「TPM Support」を「Disabled」に設定します。
p.264 「セキュリティ機能を使い始めるまでの準備」

ソフトウェアの不具合

現象

ソフトウェアの使用中に突然停止（ハングアップ）した。

確認と対処

- 過度の電源ノイズ、瞬時電圧低下などが発生した可能性があります。電源ノイズによる現象には、ディスプレイのノイズ、システムの再起動、停止（ハングアップ）などが含まれます。ソフトウェアを再度実行してみてください。
- ケーブルの接続不良や、キーボード内のゴミやホコリ、電源の出力不安定、またはそのほかの部品の不良によって不具合が発生する場合があります。点検を行ってみてください。
- HDDに対するデータの読み書きの最中に振動が加わると、システムが停止（ハングアップ）する場合があります。

現象

ソフトウェアが起動しない。

確認と対処

- ソフトウェアの起動に必要とされるシステムリソース（メモリ容量やHDDの使用可能な容量など）が整っているか確認してください。エラーメッセージなどが表示される場合は、ソフトウェアのマニュアルを参照して必要な対処を行ってから、再度起動してみてください。
- ソフトウェアを正しい方法でインストールしたか、ソフトウェアの起動手順を正しく実行しているか確認してください。
- 実行しようとしているディレクトリが正しいか確認してください。オプションのUSB FDDから起動しようとしている場合は、ドライブおよびディレクトリの指定が正しく行われているか確認してください。
- ソフトウェアの使用許諾を受けていない場合（違法コピーなど）、ソフトウェアが動作しないことがあります。ソフトウェアの正式版を使用してください。
- ソフトウェアの使用方法をもう一度確認してください。それでもソフトウェアの不具合が解決できないときは、ソフトウェアの販売元にお問い合わせください。

現象

「インフォメーションメニュー」の「マニュアルびゅーわ」がグレーになって使用できない。

確認と対処

- 「マニュアルびゅーわ」のインストールを行ってください。
  p.214 「マニュアルびゅーわのインストール」

- 「マニュアルびゅーわ」を使用できない場合、当社のユーザーサポートページから当社で作成した電子マニュアルをダウンロードすることができます。
  ユーザーサポートページからダウンロードした電子マニュアルは、マニュアルごとにファイルを開いてご覧ください。
  p.263 「電子マニュアルのダウンロード」

現象

Internet Explorerの使用時に「警告」（情報バー）画面が表示される。

確認と対処

- 購入時のInternet Explorerは、セキュリティ強化のために、意図しないプログラムや実行ファイルのダウンロードについて警告するよう設定されています。Internet Explorer使用時に「警告」（情報バー）画面が表示されたら、[OK]をクリックして画面を閉じ、情報バーをクリックして、表示された項目から適切な対処を選択してください。

現象

Outlook ExpressでHTMLメールの画像が表示されない、または添付ファイルが開けない。

確認と対処

- メール添付のファイルや送信元の不明なメールによるウイルスの侵入から、コンピュータを保護するための設定が購入時にされています。
  HTMLメールの画像を見る場合は、送信元を確認して、件名の下にある情報バーをクリックします。
  添付ファイルについての設定は、次の場所で確認できます。
  Outlook Express の ［ツール］ －「オプション」－「セキュリティ」タブ－「ウイルスの可能性がある添付ファイルを保存したり開いたりしない」

現象

インストールしたネットワークアプリケーションが動作しない。

確認と対処

- コンピュータを外部の不正な侵入から保護するため、セキュリティセンターでファイアウォールが有効に設定されていると、市販のネットワークアプリケーションが正常に動作しない場合があります。
  p.54 「セキュリティ対策を行う」
  詳細についてはソフトウェアの販売元にお問い合わせください。

現象

アプリケーションやプログラムが停止し、「データ実行防止」画面が表示される。

確認と対処

- アプリケーションやプログラムがウイルスに感染している可能性があります。セキュリティソフトウェアでウイルスの検索・駆除を行ってください。

- 安全なアプリケーションを実行して「データ実行防止」画面が表示される場合は、アプリケーションの製造元へお問い合わせください。

- 問題が解決しない場合は、『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧になり、テクニカルセンターまでお問い合わせください。

メモリの不具合

現象

メモリ容量がWindows上で少なく表示される。

確認と対処

- 本機は、メインメモリの一部をビデオメモリとして使用します。Windows上ではメインメモリからビデオメモリ（最大128MB）を引いた値が表示されます。
  ※ 本機がサポートするメモリの最大容量は、2GB（2048MB）です。
  512MB（内蔵メモリ）＋2GB（増設メモリ）を搭載した場合、表示は2GB（2048MB）からビデオメモリ容量を引いた値になります。

現象

メモリ容量がBIOS上で少なく表示される。

確認と対処

- 本機は、メインメモリの一部をビデオメモリとして使用します。BIOS 上ではメインメモリからビデオメモリ（約8MB）を引いた値が表示されます。
  ※ 本機がサポートするメモリの最大容量は、2GB（2048MB）です。
  512MB（内蔵メモリ）＋2GB（増設メモリ）を搭載した場合、表示は2GB（2048MB）からビデオメモリ容量を引いた値になります。

▶PCカードの不具合

現象

PCカードを装着しても、使用できない。

確認と対処

- 本機で使用可能なPCカードかどうか確認してください。
  p.92 「PCカードを使う」

- PC カードスロットにカードが正しく装着され、認識されているか確認してください。
  p.92 「PCカードを使う」

- PC カードを使用するために必要なドライバやソフトウェアがインストールされているか確認してください。詳しくは、PCカードに添付のマニュアルをご覧ください。

- 外部機器を追加するためにPCカードを装着した場合、外部機器とPCカードの接続が正しいか、正しいケーブルを使用しているかを確認してください。詳しくは、PCカードに添付のマニュアルをご覧ください。

▶メモリカードの不具合

現象

メモリカードを装着しても使用できない。

確認と対処

- メモリカードがメモリカードスロットの仕様に対応しているか確認してください。
  p.97 「メモリカード使用時の注意」

▶内蔵スピーカの不具合

現象

システムは正常に動作しているのに音がしない。

確認と対処

- 内蔵スピーカの音声出力音量が小さくなっている、またはミュートになっている可能性があります。ボリュームを調節してください。
  p.118 「音量の調節」

- 内蔵スピーカの不良が考えられます。『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、テクニカルセンターまでご連絡ください。

▶インストール時の不具合

現象

インストールがマニュアルどおりにできない。

確認と対処

- 本書では、インストール手順中の光ディスクドライブのドライブレターを「D:」と記載しています。光ディスクドライブのドライブレターは、HDD領域の数によって変わります。光ディスクドライブのドライブレターを確認してください。
  光ディスクドライブのドライブレターの確認は「マイコンピュータ」で行うことができます。

- 本書のインストール手順は購入時のシステム構成を前提にしています。インストールは、BIOSの設定とシステム構成を購入時の状態に戻して行うことをおすすめします。

- 本書のインストール手順は、HDDのフォーマット後に行うことを前提に記載しています。それ以外の場合は、手順が異なることがあります。不明な点は『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、テクニカルセンターまでお問い合わせください。

- インストール方法に関する最新情報を記載した紙類が添付されている場合があります。梱包品を確認してみてください。

現象

Windows XPリカバリCDを入れてもWindowsの再インストールが開始されない。

確認と対処

- 光ディスクドライブのブートの順位を HDD よりも下に設定している可能性があります。「BIOS Setupユーティリティ」を実行し、「Bootメニュー画面」でブートの優先順位を変更してください。

☞ p.182 「BIOS Setupユーティリティの操作」
☞ p.195 「Bootメニュー画面」

FAXモデムの不具合

現象

「モデムが検出されませんでした。」とエラーメッセージが表示され、インターネットに接続できない。

確認と対処

- 「モデムのプロパティ」で［詳細情報］または［モデムの照会］を実行してみてください。モデムに問題がある場合は、エラーメッセージが表示されます。

［スタート］－「コントロールパネル」－「プリンタとその他のハードウェア」－「電話とモデムのオプション」－「モデム」タブ－［プロパティ］－「診断」タブの［モデムの照会］をクリックします。

現象

インターネットへ接続できない

確認と対処

- モジュラコードがモデムコネクタに接続されているか確認してください。

- 次の場所で電話番号や、設定を再確認してください。また、国番号と市外局番や、トーンとパルスの設定も確認してください。

  ［スタート］－「接続」－「接続先の名前」－［プロパティ］－［ダイヤル情報］

- 接続ユーザー名や、接続パスワードが間違っている可能性があります。次の点を確認して入力してください。
  - 全角の文字を使用していないか（全角文字は使用できません）
  - 大文字と小文字を区別しているか
  - 数字とアルファベットを間違えていないか（数字の0とアルファベットのOなど）
  - 接続ユーザー名とメールアカウントを混同していないか
  - 接続パスワードとメールパスワードを混同していないか

- DNS（ネーム）サーバのIPアドレスを入力した場合は設定が正しいか確認してください。正しくない場合は修正してください。

  次の手順でDNS（ネーム）サーバのIPアドレスを確認してください。

  (1) ［スタート］－「接続」－「接続名（任意の名前）」－［プロパティ］をクリックします。
  (2) 「ネットワーク」タブ－「インターネットプロトコル（TCP/IP）」－［プロパティ］でDNS（ネーム）サーバのアドレスを確認してください。

- 原因不明で接続できない場合は、インターネット接続ウィザードを再実行してみます。これで接続できることもあります。

- 接続してもすぐに切れたり、プロトコルが確立できないときは、アクセスポイントを変更することによってインターネットへ接続できる場合もあります。同じ市内に複数のアクセスポイントがある場合はプロバイダの電話番号を変更してみてください。

- 次の理由で接続できないことがあります。時間をおいて接続してみてください。
  - 極端に混雑していると、アクセスを拒否されることがある
  - 極端に混雑していると、接続はするがタイムアウトしてしまう
  - プロバイダのサーバが停止している

現象

V.92通信方式で通信できない。

確認と対処

- 回線状況によって、V.92通信方式で接続できない場合があります。V.92通信方式のほかにはx2方式があります。x2方式のモデムとは、V.34通信方式（33600bps）以下で接続します。またお使いになっている最寄りの電話局の交換機から、プロバイダなどの相手側までの電話回線の通信経路が、すべてデジタル化されている必要があります。デジタルからアナログへの交換機切り替えが、この通信経路で1度だけ行われる場合にのみ、V.92通信方式で接続することができます。

- PBX回線では、V.92通信方式では接続できません。V.34通信方式（33600bps）以下で接続します。

現象

V.92、V.34通信方式で通信中に、通信速度が下がる。

確認と対処

- V.92、V.34通信方式では、安定して確実な通信を行うために、モデム機能が回線状況によって自動的に調整を行い、通信速度を下げて接続する場合があります。

▶プリンタの不具合

現象

印刷できない。

確認と対処

- プリンタの電源および印刷するための準備が完了しているか確認してください。

- プリンタの設定が正しいかどうか、プリンタのマニュアルで確認してください。

- Windowsではプリンタドライバをインストールする必要があります。プリンタドライバのインストール方法についてはプリンタに添付のマニュアルをご覧ください。

▶指紋認証機能の不具合

現象

Windowsを再インストール後、コンピュータの起動時に指紋認証を要求される。

確認と対処

● Windowsを再インストールする前に使用していた指紋の情報が残っていると、コンピュータの起動時に残った情報での指紋認証が必要になります。
次の方法で残った指紋情報を削除してください。

(1) 指紋認証を要求されたら、[Back Space]を押します。

(2) Windowsが起動したら、指紋認証ユーティリティをインストールします。
☞ p.219 「指紋認証ユーティリティのインストール」

(3) 新しい指紋を登録します。
☞ p.124 「指紋の登録」

(4) [スタート] －「すべてのプログラム」－「Protector Suite QL」－「コントロールセンター」をクリックします。

(5)「Protector Suiteソフトウェア」(指紋コントロールセンター) 画面が表示されたら、「設定」－「指紋デバイス内データ管理」をクリックします。

(6)「指紋デバイス内データ管理」画面が表示されたら、削除したいユーザーを選択して [削除] をクリックします。

(7) [OK] をクリックします。

(8)「確認してください」画面が表示されたら [はい] をクリックします。
「指紋デバイス内データ管理」で削除できない場合は、☞ p.125「指紋の追加登録・変更・削除」の<登録した指紋を削除したい場合>の操作を行ってみてください。

システム診断ツールを使う

システム診断ツールは、本機の調子が悪いときに、どのハードウェアが不具合の原因かを診断するためのツールです。

▶システム診断ツールの種類

システム診断ツールには、次の2つの種類があります。

- **Windows上で起動するシステム診断ツール**
  Windows上でシステム診断を行うことができます。
  購入時は、本機にあらかじめインストールされています。

- **CDから起動するシステム診断ツール**
  Windowsが起動できない場合に、「リカバリツールCD」から起動してシステム診断を行います。
  本機の破棄時にHDD内のデータを消去することもできます。

▶システム診断を実行する

システム診断は、Windowsを起動できる場合とできない場合で、システム診断の実行方法が異なります。

Windowsを起動できる場合

Windows上でシステム診断を行います。
実行方法は、次のとおりです。

1 デスクトップ上の「システム診断ツール」アイコンをダブルクリックします。

2 「システム診断ツール」画面が表示されたら、診断したい項目名をクリックします。

該当項目の診断が開始します。
［診断項目を選択する］を選択した場合は、診断項目を選ぶことができます。
実行方法の詳細は、システム診断ツールのヘルプをご覧ください。

3 診断が終了したら、診断結果を確認します。

「異常が検出されました」の画面が表示された場合は、該当項目に不具合がある可能性があります。画面の内容を確認してください。
問題が解決されない場合は、ヘルプまたは『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、テクニカルセンターまでご連絡ください。

Windowsを起動できない場合

「リカバリツールCD」からシステム診断ツールを起動します。
実行方法は、次のとおりです。

1　本機の電源を入れ、リカバリツールCDを光ディスクドライブにセットします。

2　Ctrl + Alt + Delete を押します。

コンピュータが再起動します。

3　黒い画面の中央に「EPSON」と表示され、消えた後、「Kernel Loading・・・・・Press any key to run PC TEST.」と表示されたら、どれかキーを押します。

システム診断ツールが起動し、自動的に診断を開始します。

4　診断が終了したら、診断結果を確認します。

「F」が表示された場合は、表示された項目に不具合がある可能性があります。『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、テクニカルセンターまでご連絡ください。

5　光ディスクドライブからリカバリツールCDを取り出し、電源を切ります。

これでシステム診断は完了です。

トラブル時に役立つ機能

ここではトラブルが発生した場合に役立つWindowsが持つ機能について説明します。

▶セーフモードでの起動

コンピュータが起動できない場合や、ディスプレイで表示できない解像度を選択して表示ができなくなってしまった場合などには、セーフモードで起動してみてください。
セーフモードで起動する方法は、次のとおりです。

1 **コンピュータの電源を切り、20秒程放置してから、電源を入れます。**

2 **EPSONと表示され、消えた直後に F5 を押し、そのまま離さずにしばらく押し続けます。**

3 **「Windows拡張オプションメニュー」が表示されたら、「セーフモード」を選択し、↵ を押します。**

セーフモードで起動できた場合は、不具合への対処を行ってください。

▶システムの復元

コンピュータの動作が不安定になった場合、「システムの復元」を行ってコンピュータを以前の状態（復元ポイントを作成した時点の状態）に戻すことで、問題が解決できることがあります。
復元ポイントは通常、ソフトウェアのインストールなどを行った際に、自動的に作成されますが、手動で作成しておくこともできます。

システムを復元する

システムを復元ポイントの状態に戻す方法は次のとおりです。システムの復元を行う前に、HDDのデータを他のメディアにバックアップしておくことをおすすめします。

1 **[スタート] −「すべてのプログラム」−「アクセサリ」−「システムツール」−「システムの復元」を選択します。**

2 **「システムの復元」が表示されたら、「コンピュータを以前の状態に復元する」を選択し、[次へ] をクリックします。**

3 **「復元ポイントの選択」と表示されたら、復元ポイントを選択します。**

復元ポイントのある日が、カレンダーに太字で表示されるので、まず日付を選択し、次に画面右側の復元ポイントの一覧より、復元ポイントを選択し、[次へ] をクリックします。

6

4 **「復元ポイントの選択の確認」と表示されたら、［次へ］をクリックします。**

コンピュータが再起動します。

5 **再起動後、「復元は完了しました」と表示されたら、[OK] をクリックします。**

これでシステムの復元は完了です。

復元ポイントを手動で作成する

復元ポイントを手動で作成する方法は次のとおりです。

1 **［スタート］－「すべてのプログラム」－「アクセサリ」－「システムツール」－「システムの復元」を選択します。**

2 **「システムの復元」画面が表示されたら、「復元ポイントの作成」を選択し、［次へ］をクリックします。**

3 **「復元ポイントの作成」と表示されたら、「復元ポイントの説明」に説明を入力し、［作成］をクリックします。**

4 **「新しい復元ポイント」と表示されたら、［閉じる］をクリックします。**

以上で復元ポイントの作成は完了です。

警告メッセージが表示されたら

本機は、起動時に本体内蔵の自己診断テストを行い、内部ハードウェアの状態を診断します。起動時に次の警告メッセージが表示された場合には、各警告メッセージの処置をを行ってください。処置を行ってもなおらない場合は、『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧になりテクニカルセンターまでご連絡ください。

警告メッセージ	説明および対処法
System CMOS Checksum bad - default configuration used	CMOS RAMのデータが壊れているか、不正な値が設定されています。「BIOS Setupユーティリティ」を起動して「Exit」メニュー画面から「Load Setup Default」を行ってください。
Keyboard error	キーボードにエラーが発生しました。電源を入れ直し、システムを再起動してください。
Operating system not found	オペレーティングシステムが見つかりません。「BIOS Setupユーティリティ」を起動して「Boot」メニュー画面で起動ドライブを正しく設定してください。
System RAM Failed at offset	システムRAMのオフセットアドレスでエラーが発生しました。電源を入れ直し、システムを再起動してください。
Shadow RAM Failed at offset	シャドウRAMのオフセットアドレスでエラーが発生しました。電源を入れ直し、システムを再起動してください。
Extended RAM Failed at offset	拡張メモリに不具合があるか、正しく認識されていません。メモリを増設した場合は、メモリの仕様や取り付け状態を確認した後、BIOS Setupユーティリティを起動してメモリを再検出してください。
System battery is dead - Replace and run SETUP	内蔵電池の充電が無くなりました。「BIOS Setup ユーティリティ」を起動して、「Main」メニュー画面で日付と時刻を設定してください。 p.275 「バックアップ電池」

6

付録

お手入れ方法やHDD領域の作成方法、仕様などについて説明します。

お手入れ

本機は精密な機械です。取り扱いに注意して、定期的にお手入れを行ってください。

制限

お手入れは、本機の電源を切った状態で行ってください。

▶本機のお手入れ

本機のお手入れ方法について説明します。

外装

コンピュータ本体の外装の汚れは、柔らかい布に中性洗剤を適度に染み込ませて、軽く拭き取ってください。

制限

- 本機をたたいたり、硬いものでこすったりしないでください。変形やキズ、破損の原因となります。
- ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。変色や変形の可能性があります

LCD画面

LCD画面は乾いた布やティッシュペーパーなどで拭いてください。水や洗剤などは使わないでください。

データのバックアップ

Windowsを再インストールすると、Windowsがインストールされるドライブ（通常Cドライブ）に保存しているデータはすべて消去されます。Windowsを再インストールする前に、必要なデータのバックアップを取っておいてください。

▶バックアップ方法

Cドライブ内の「マイ ドキュメント」やInternet Explorerの「お気に入り」など、HDD内のデータをバックアップする方法やバックアップしたデータを復元する方法は、本機の「インフォメーションメニュー」にある「PCお役立ち情報」と「とらぶる解決ナビ」で詳しく紹介しています。

「PCお役立ち情報」から見る

バックアップ方法や復元方法は、次をご覧ください。

「インフォメーションメニュー」－「PCお役立ち情報」－「安全に安心して使おう！」項目の「バックアップ」



＜画面は予告なく変更される場合があります＞

「とらぶる解決ナビ」から見る

バックアップ方法や復元方法は、次をご覧ください。

1 「インフォメーションメニュー」－「とらぶる解決ナビ」－「よくある質問」項目の「こちら」をクリックします。



「こちら」をクリックします。

2 「よくある質問」が表示されます。



見たい情報をクリック

＜画面の内容は予告なく変更される場合があります＞

バックアップCDの作成

ここでは、リカバリツールを使用して、HDDの消去禁止領域に登録されている本体ドライバやソフトウェアのインストール用データをCDメディアにバックアップ（コピー）する方法について説明します。
作成したバックアップCDを使用すると、CDから本体ドライバやソフトウェアをインストールできます。
書き込み機能のない光ディスクドライブ搭載時や、外付けの光ディスクドライブでは、バックアップCDの作成ができません。

▶バックアップCDの作成方法

バックアップCDの作成方法は次のとおりです。

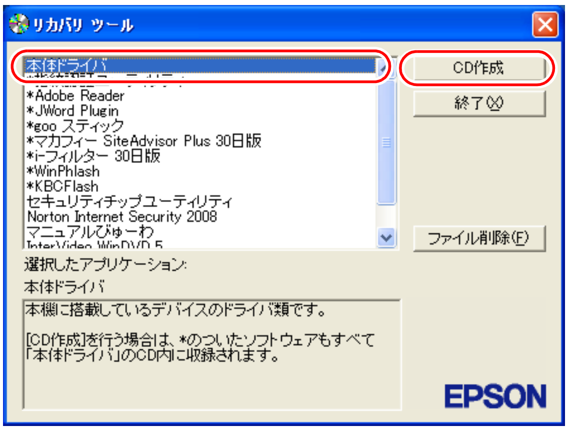
1 **デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。**



2 **「リカバリツール」画面が表示されたら、［CD作成］をクリックします。**

3 **本体ドライバやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧からCDにバックアップしたい項目を選択して［CD作成］をクリックします。**

バックアップするデータが一時的にHDDにコピーされます。選択した項目によっては、手順4の画面が表示されるまでに数分がかかります。



<イメージ>

項目名の前に「*」のついたソフトウェアは、すべて本体ドライバのCD内に収録されます。個々にCDを作成する必要はありません。それ以外の項目は、1項目につきCDメディアが1枚必要です。

4 **「書き込み設定」画面が表示されたら、以降は画面の指示に従ってCDに書き込みを行ってください。**

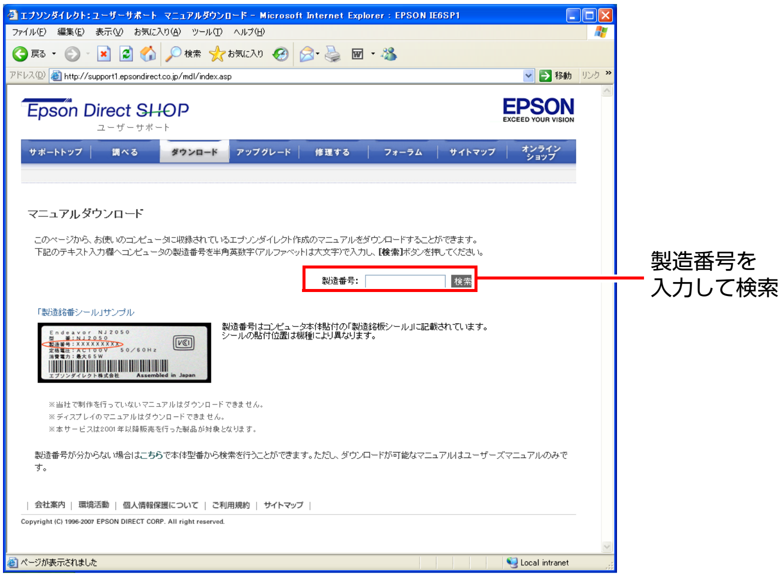
バックアップCDからインストールを行うには

作成したバックアップCDを光ディスクドライブにセットすると、自動的に本体ドライバやソフトウェアのインストール画面が表示されます。
インストールを開始するには、画面に表示された一覧から、本体ドライバは「インストール」を、そのほかのソフトウェアはソフトウェア名をクリックします。
以降の手順は、p.202 「ソフトウェアの再インストールを行う」のそれぞれの項目をご覧ください。

電子マニュアルのダウンロード

当社のユーザーサポートページからは、お使いのコンピュータや周辺機器の電子マニュアル（PDF・HTMLなど）をダウンロードすることができます。
紙マニュアルをなくしてしまった場合や、「マニュアルびゅーわ」のデータを消してしまった場合などにご利用ください。
電子マニュアルのダウンロードは、次の場所から行います。

「インフォメーションメニュー」－「ユーザーサポートページ（web）」－「ダウンロード」－「マニュアル」



＜画面は予告なく変更される場合があります＞

制限

ユーザーサポートページからダウンロードした電子マニュアルは、「マニュアルびゅーわ」で見ることはできません。マニュアルごとにファイルを開いてご覧ください。

▶ダウンロードできるそのほかのデータ

「ユーザーサポートページ（web）」－「ダウンロード」からは、次のデータもダウンロードすることができます。必要に応じてご利用ください。ダウンロードできるデータはお使いの機種により異なります。

- 最新のBIOS
- ドライバ
- ユーティリティ
- お問い合わせ情報
- 壁紙

セキュリティチップ（TPM）によるデータの暗号化

本機では、セキュリティチップ（TPM）のセキュリティ機能を使用することにより、本機に保存されているデータや電子メールに対し、高度な暗号化をすることができます。
セキュリティ機能を使用する際は、十分に注意し、お客様の責任において暗号化を行ってください。
セキュリティ機能の使用方法については、本機に添付の『セキュリティ機能（TPM）設定ガイド』（別冊）をご覧ください。

制限

セキュリティ機能を使用するには、いくつかのパスワードの設定が必要です。パスワードを忘れてしまった場合、それまでに暗号化したデータの復元ができなくなります。

セキュリティ機能を使い始めるまでの準備

セキュリティ機能を使用するための準備の前に、必ず『セキュリティ機能（TPM）設定ガイド』をご覧ください。
セキュリティ機能を使用するには、BIOSの設定を変更後、「セキュリティチップユーティリティ」のインストールが必要です。

BIOSの設定

セキュリティ機能を使用するには、BIOSの「Security」メニュー画面と「TPM State」メニュー画面で次のとおり設定を変更します。

p.192 「Securityメニュー画面」
p.194 「TPM Stateメニュー画面」

1 **「Security」メニュー画面－「TPM Support」を「Enabled」に設定します。**
「TPM State」メニュー画面が処理メニューに追加されます。

2 **「TPM State」メニュー画面－「TPM Function」を「Enabled」に設定します。**

3 **「Exit」メニュー画面－「Exit Saving Changes」で設定を保存して終了します。**

セキュリティチップユーティリティのインストール

購入時、本機にはセキュリティチップの設定を行うための「セキュリティチップユーティリティ」がインストールされていません。セキュリティ機能（TPM）を使用するには、セキュリティチップユーティリティのインストールを行ってください。
インストール方法は、『セキュリティ機能（TPM）設定ガイド』をご覧ください。

指紋認証機能をインストールしている場合

指紋認証機能をインストールしている場合、セキュリティチップ（TPM）を使用してデータを暗号化することにより、指紋認証機能のセキュリティを強化することができます。

指紋認証ユーティリティの使い方の詳細はヘルプをご覧ください。

［スタート］－［すべてのプログラム］－［Protector Suite QL］－［ヘルプ］

参考

TPMの初期化

指紋認証ユーティリティをインストールした状態で、セキュリティチップユーティリティをインストールすると、TPMの初期化を促すメッセージが表示されます。その場合は、メッセージに従って初期化を行ってください。初期化を行うと、TPMと指紋認証機能との連携が可能になります。

HDD領域（ドライブ）の分割・変更・作成

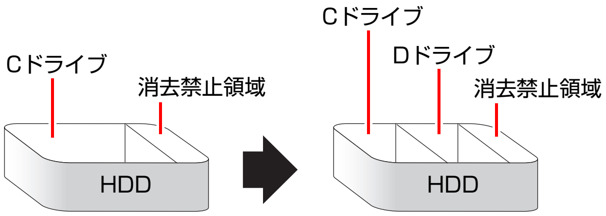
ここでは、HDD領域（ドライブ）を分割・変更して使用する方法について説明します。

▶HDD領域を分割して使用する（概要）

HDD領域（ドライブ）の分割

HDD領域は、いくつかに分割して、それぞれ別々のドライブとして使用することができます。
HDDを分割した1つ1つを「HDD領域」または「パーティション」とも呼びます。
また、Windowsで使えるHDD領域が、「ドライブ」になります。

＜1台のHDDを分割する＞
例：1つのHDD領域（Cドライブ）を、2つのHDD領域（CドライブとDドライブ）に分割します。



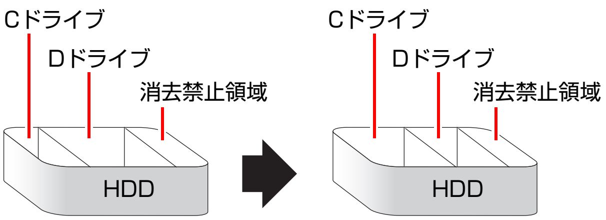
参考

消去禁止領域
「消去禁止領域」には、本体ドライバやソフトウェアなどの再インストールのためのデータが登録されています。この領域を削除すると再インストールができなくなります。絶対に削除しないでください。

HDD領域（ドライブ）のサイズの変更

すでに分割されているHDD領域のサイズ（容量）を変更することもできます。

＜ドライブのサイズを変更する＞
例：Cドライブのサイズを大きくします。



この場合は、CドライブとDドライブを削除して、分割しなおす必要があります。

▶Cドライブを分割・変更する

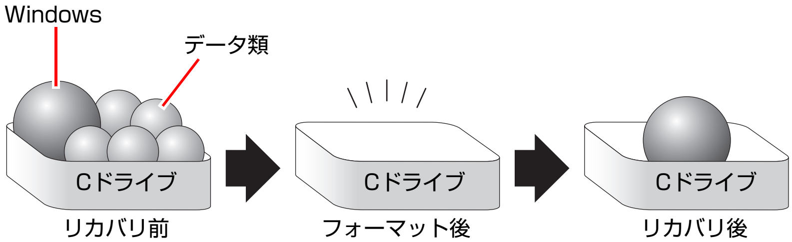
Cドライブ分割のメリットとデメリット

Cドライブを分割すると、次のようなメリット・デメリットがあります。
Cドライブを分割する場合は、これらをよく理解した上で行ってください。

● メリット

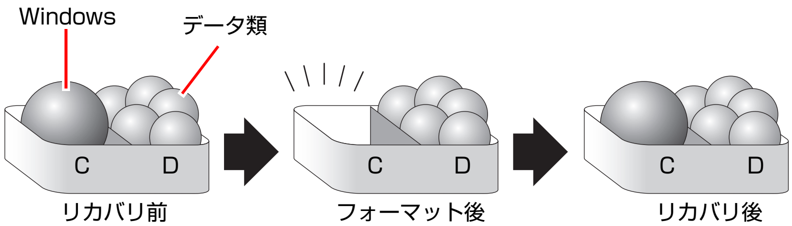
HDD領域を分割してデータの保存先を分けておくことで､リカバリ時に最小限の作業で元の環境に復帰することができます。

＜HDD領域が1つの場合＞



リカバリ（Windowsの再インストール）を行うと、Cドライブのデータはすべて消去されます。

＜HDD領域を分割した場合＞



たとえば、WindowsやアプリケーションはCドライブに、作成したデータなどはDドライブに保存しておきます。
この状態でリカバリ（Windowsの再インストール）を行うと、消去されるのはCドライブのみとなるため、Dドライブのデータは、リカバリ後、すぐにそのまま使用することができます。

制限

HDD 領域を分割した HDD のリカバリをする場合は、万一に備えて C ドライブ以外のドライブにある重要なデータをバックアップしてください。

● デメリット

- Cドライブ（Windowsの入っているドライブ）の分割を行うには、リカバリ（Windowsの再インストール）が必要です。
- HDD 領域を変更すると、変更したドライブ内のデータはすべて消去されます。
- HDD 領域を分割して使用すると、それぞれ分けられた領域の最大容量までしか使用できないため、それぞれの領域により、容量が制限されます。

Cドライブの分割・変更の流れ

Cドライブの分割・変更は、リカバリ（Windowsの再インストール）中に行います。サイズ（容量）を変更するには、まず変更するドライブを削除してからサイズを指定して再作成します。

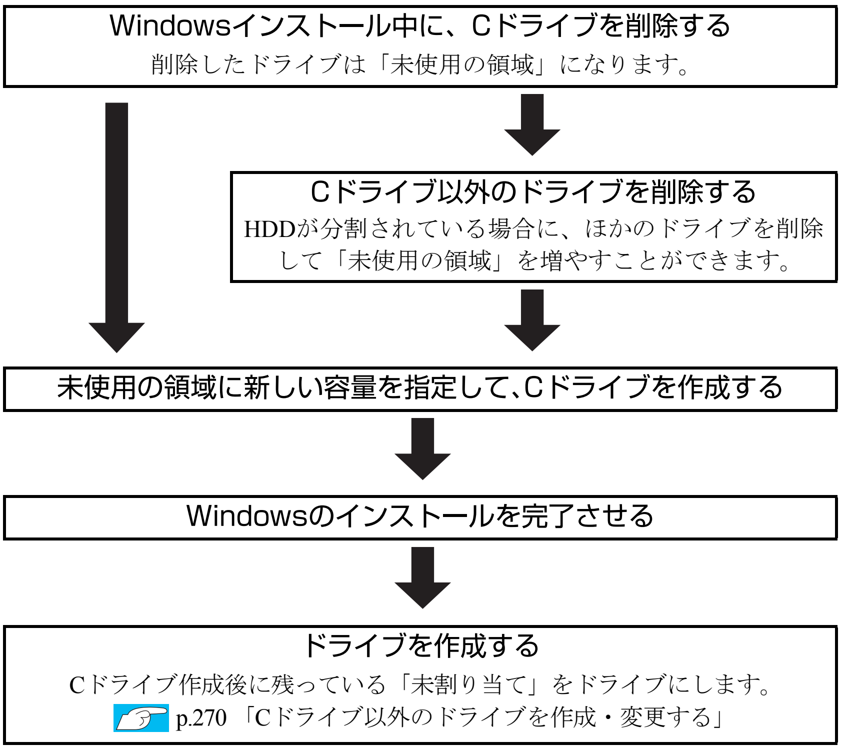
Cドライブ以外のドライブの変更方法は、p.270 「Cドライブ以外のドライブを作成・変更する」をご覧ください。

制限

ドライブを分割・変更すると、分割・変更したドライブ内のデータはすべて消去されます。必要に応じてバックアップを取っておいてください。
p.259 「データのバックアップ」

Cドライブの分割・変更の流れは次のとおりです。

作業はp.269 「Cドライブを分割・変更する」に従ってください。

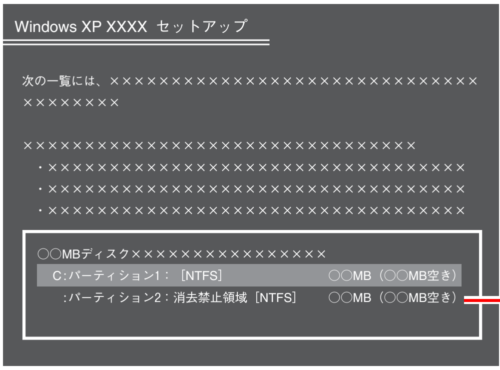


Cドライブを分割・変更する

Cドライブの分割・変更をする場合はWindowsのインストールが必要です。p.206「Windows XPをインストールする」の手順5～8を、次の手順に読み替えてWindowsのインストールを行ってください。

＜p.207 「Windows XPのインストール」の手順5～8の読み替え＞

1 **「次の一覧には、このコンピュータ上の・・・」と表示されたらCドライブを選択し、[D]（削除）を押します。**



「消去禁止領域」を、誤って削除しないでください。

一覧に表示されている「消去禁止領域」は本体ドライバやソフトウェアの再インストールに使用する領域です。絶対に削除しないでください。

2 **「削除しようとしたパーティションは…」と表示されたら、[↵]を押します。**

3 **「○○MBディスク××から次のパーティションを削除します。…」と表示されたら[L]を押します。**

ドライブが未使用の領域になります。

4 **「次の一覧には、このコンピュータ上の…」と表示されたら、次のとおり作業を続けます。**

＜Cドライブを分割したい場合＞

(1) 「未使用の領域」を選択して[C]を押します。
手順5に進みます。

＜Cドライブの容量を増やしたい場合＞

(1) 「D」や「E」などのパーティション（ドライブ）を選択して[D]（削除）を押します。

(2) 手順2、3を実行します。
選択したパーティションが「未使用の領域」になります。

(3) 「未使用の領域」を選択して[C]を押します。
手順5に進みます。

5 **Cドライブの容量を決めます。「○○MBディスク××に新しいパーティションを作成します。」と表示されたら、「作成するパーティションのサイズ（MB）」に表示されている数字を［Back Space］で削除し、任意の数値を入力して［↵］を押します。**

Cドライブには、20GB（20000MB）程度を割り当てることをおすすめします。

6 **「次の一覧には、このコンピュータ上の…」と表示されたら、「C：パーティション1（未フォーマット）」を選択して［↵］を押します。**

未使用の領域は、ここではフォーマットできません。インストール後「ディスクの管理」で行います。

7 **「選択されたパーティションはフォーマットされていません。」と表示されたら、「NTFSファイルシステムを使用してパーティションをフォーマット」を選択して［↵］を押します。**

☞ p.207 「Windows XPのインストール」の手順9に進みます。

Windowsのインストールが完了したら、「ディスクの管理」で未使用の領域をドライブにします。

▶Cドライブ以外のドライブを作成・変更する

ここでは、Cドライブ以外のドライブ（Dドライブなど）を作成・変更する方法について説明します。
次のような場合にご覧ください。

- Cドライブ以外のドライブのサイズを変更する場合。
- Windowsの再インストール中にCドライブを分割して作成された「未使用の領域」をドライブにして使用する場合。

Cドライブ（Windowsの入っているドライブ）の分割・変更を行う場合は、☞ p.267 「Cドライブを分割・変更する」をご覧ください。

ドライブ作成・変更の流れ

ドライブの作成の流れは次のとおりです。
作業は p.272「HDD領域(パーティション)の作成手順」に従ってください。

サイズ変更するドライブを削除（サイズ変更の場合のみ）
削除された領域が「未割り当て」になります。
p.274 「Cドライブ以外のドライブを削除する」

↓

「未割り当て」にパーティションを作成する

プライマリパーティション	拡張パーティション
↓	↓ 論理ドライブを作成する ↓

フォーマットが自動で行われる

↓

パーティションが新しいドライブとして認識される

※ HDD 内の「未割り当て」にパーティションを作成すると、パーティションは、Windows上でドライブ（DやEなど）として利用できるようになります。

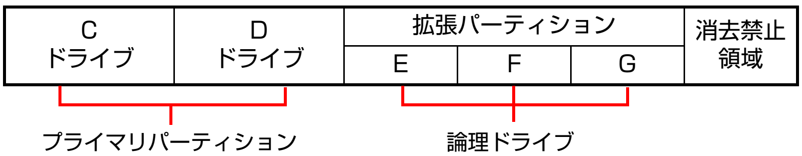
参考

パーティションとは

- ドライブの作成・変更を行う画面（ディスクの管理）では、HDD領域のことを「パーティション」と言います。パーティションには、「プライマリパーティション」と「拡張パーティション」があります。
- 1つのHDDに作成できるパーティションは最大で4つです。
  そのうち作成できる拡張パーティションは、1つです。
- 消去禁止領域はプライマリパーティションの1つです。
- 拡張パーティションには、論理ドライブをいくつも作成できます。

プライマリパーティション、拡張パーティションを組み合わせて作成すると、次のように1つのHDDに新しいドライブを5つ以上作成することもできます。

<パーティションの組み合わせの例>



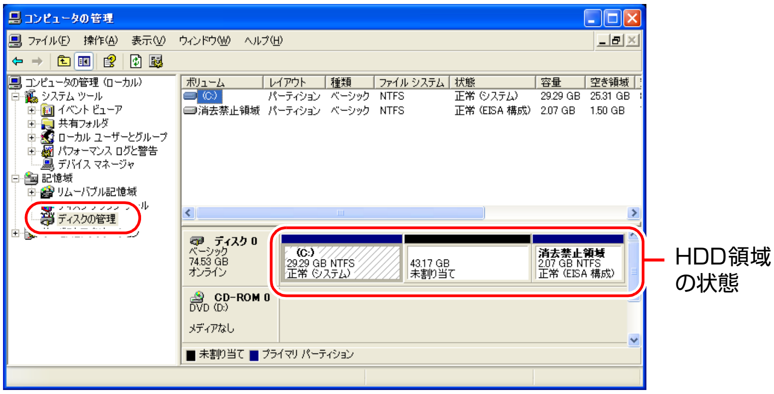
HDD領域（パーティション）の作成手順

HDD領域を作成する手順は、次のとおりです。

1 **［スタート］－「コントロールパネル」－「パフォーマンスとメンテナンス」－「管理ツール」－「コンピュータの管理」をダブルクリックします。**

2 **「コンピュータの管理」画面が表示されたら、画面左下の「ディスクの管理」をクリックします。**

画面右下のウィンドウにHDD領域の状態が表示されます。



<イメージ>

3 **パーティションを設定したい「未割り当て」の領域を右クリックして、表示されたメニューから「新しいパーティション」をクリックします。**

4 **「新しいパーティションウィザード」画面が表示されたら、［次へ］をクリックします。**

5 **「パーティションの種類を選択」と表示されたら、「プライマリパーティション」または「拡張パーティション」を選択して［次へ］をクリックします。**

通常はプライマリパーティションを選択します。

6 **「パーティションサイズの指定」と表示されたら、サイズを指定して［次へ］をクリックします。**

手順5でプライマリパーティションを選択した場合は、手順12へ進みます。

7 **「新しいパーティションウィザードの完了」と表示されます。［完了］をクリックします。**

拡張パーティションを作成した領域は、「空き領域」として表示されます。続いて「空き領域」に論理ドライブを作成します。

8 **「空き領域」を右クリックして、表示されたメニューから「新しい論理ドライブ」をクリックします。**

9 **「新しいパーティションウィザード」画面が表示されたら、[次へ] をクリックします。**

10 **「パーティションの種類を選択」と表示されたら、「論理ドライブ」が選択された状態で、[次へ] をクリックします。**

11 **「パーティションサイズの指定」と表示されたら、「パーティションサイズ」に任意の値を入力して [次へ] をクリックします。**

複数の論理ドライブを作成する場合は、画面に表示されている「最大ディスク領域」以下の値を入力します。

12 **「ドライブ文字またはパスの割り当て」と表示されたら、「次のドライブ文字を割り当てる」で任意のドライブレターを選択して、[次へ] をクリックします。**

「ドライブレター」は、ドライブの識別記号になります。

13 **「パーティションのフォーマット」と表示されたら、「このパーティションを以下の設定でフォーマットする」が選択された状態で [次へ] をクリックします。**

表示されている設定値を変更する必要はありません。

14 **「新しいパーティションウィザードの完了」と表示されたら、[完了] をクリックします。**

自動的にフォーマットが行われます。

フォーマットが終了したら、HDD領域の作成は完了です。

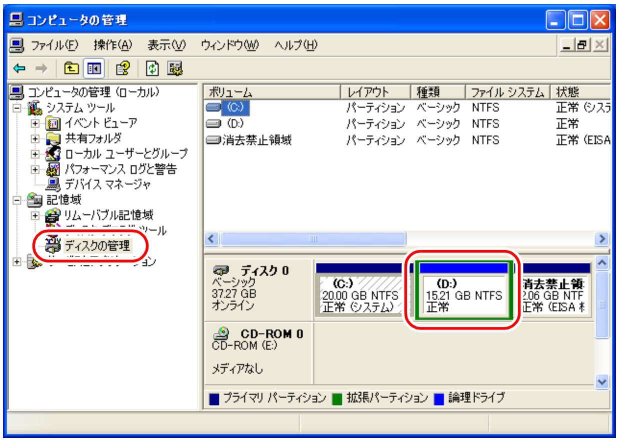
複数の論理ドライブを作成する場合は、手順8～14の作業を繰り返します。

▶Cドライブ以外のドライブを削除する

Cドライブ以外のドライブ（Dドライブなど）のサイズを変更するには、変更するドライブを削除してから、作成しなおします。
ドライブを削除すると、ドライブ内のすべてのデータは削除されます。ドライブ内の重要なデータは、CドライブやCD-Rメディアなどにあらかじめバックアップを行ってください。
ドライブを削除する手順は、次のとおりです。

1 ［スタート］－「コントロールパネル」－「パフォーマンスとメンテナンス」－「管理ツール」－「コンピュータの管理」をダブルクリックします。

2 「コンピュータの管理」画面が表示されたら、画面左下の「ディスクの管理」をクリックします。



<イメージ>

3 削除したいドライブ（パーティション）の領域を右クリックして、表示されたメニューから「論理ドライブの削除」または「パーティションの削除」をクリックします。

4 「・・・続行しますか？」と表示されたら［はい］をクリックします。

論理ドライブを削除すると、「空き領域」になります。空き領域をパーティションとして使用したい場合は、パーティションの作成を行います。

p.272 「HDD領域（パーティション）の作成手順」

バックアップ電池

ここでは、バックアップ電池について説明します。

▶BIOS設定情報の保持

BIOS Setupユーティリティで設定した情報は、本機内部のバックアップ電池によって保持されています。
コンピュータの使用状況によって異なりますが、ACアダプタおよびバッテリからの電源供給が全くない場合、約6ヶ月で「BIOS Setup ユーティリティ」の設定情報が消え、日付や時間が異常になったりBIOSの設定値が変わってしまいます。
定期的にACアダプタやバッテリを接続して、バックアップ電池に電源を供給してください。

▶BIOS設定内容が変わってしまった場合は

バックアップ電池への電源供給がなくなりBIOSの設定値が保持できなくなった場合、次の警告メッセージが表示されます。

System CMOS Checksum bad - default configuration used

このような場合は、次の対処を行ってください。

1 **本機にACアダプタまたはバッテリを接続して電源を供給します。**

バックアップ電池で設定内容が保持できる状態になるまでに、最低2～3時間かかります。バックアップ電池が満充電状態になるまでには、連続して充電して約2週間かかります。

2 **「BIOS Setup ユーティリティ」の「Exit」メニュー画面で「Load Setup Defaults」を実行します。**

☞ p.184 「Load Setup Defaults（初期値に戻す）」

3 **「BIOS Setup ユーティリティ」の「Main」メニュー画面で日付と時刻の設定を行います。**

☞ p.188 「日付と時刻の設定」

上記の手順を行っても問題が解決しない場合は、『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧になり、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。

ATコマンドの使用

コンピュータからFAXモデム機能に対してさまざまなコマンドを送り、モデムの動作を制御することができます。本機のモデムでは、モデム制御コマンドに「ATコマンド」を採用しています。

ATコマンドの使用

通信ソフトウェア（Internet ExplorerやOutlook Expressなど）でモデムを動作させる場合は、通常コマンドを使用する必要はありません。しかし、「モデムのプロパティ」画面の「追加設定」にATコマンドを入力することで、不具合を解消したり、初期的な設定を行うことができます。
次のような現象の場合は、「追加設定」の欄にコマンドを入力してみてください。

「追加設定」は次の場所にあります。

［スタート］－「コントロールパネル」－「プリンタとその他のハードウェア」－「電話とモデムのオプション」－「モデム」タブ－［プロパティ］－「詳細設定」タブの「追加設定」

<table>
<tr><th>現　象</th><th>AT コマンド</th></tr>
<tr><td>ダイヤル音やネゴシエーション音を消したい。</td><td>「ATM0」</td></tr>
<tr><td>ダイヤル音やネゴシエーション音を小さくしたい。</td><td>「ATL0」</td></tr>
<tr><td>「トーンが検出できません」などのエラーメッセージが表示されインターネットに接続できない。</td><td>「ATX3」</td></tr>
<tr><td>モデムの設定を工場出荷時の状態にする。</td><td>「AT&F」</td></tr>
<tr><td>ダイヤル回線（パルスダイヤル）でダイヤルする。</td><td>「ATP」</td></tr>
<tr><td>プッシュ回線（トーンダイヤル）でダイヤルする。</td><td>「ATT」</td></tr>
<tr><td>「互換性のあるネットワークプロトコルを処理できない」などのエラーメッセージが表示されインターネットに接続できない。</td><td rowspan="3">「AT+MS=34」（V34）
「AT+MS=92」（V92）
使用したい通信方式に応じて設定。</td></tr>
<tr><td>接続が不安定（10回に3回しかつながらない/途中で切断されてしまう）。</td></tr>
<tr><td>パスワード認証のあと、「接続が確立できませんでした。」などのエラーメッセージが表示されインターネットに接続できない。</td></tr>
</table>

複数のコマンドを入力したいときは2番目以降のコマンドのATは付けずに連続して入力します。例：ATM0X3　（ATM0+ATX3）

コンピュータを廃棄するときは

本機を廃棄するときには『サポート・サービスのご案内』（別冊）の「コンピュータの廃棄・譲渡について」をご覧ください。

▶HDDのデータを消去する

本機を廃棄する前にHDDのデータを消去してください。
「リカバリツールCD」から起動するシステム診断ツールには、HDD内のデータをすべて消去する機能が備わっています。
消去を開始すると、HDDのデータは元には戻りません。必要に応じてデータをバックアップしてください。

制限

データ消去の結果について、当社および開発元の Ultra-X 社は責任を負いません。
HDD のデータ消去・廃棄は、お客様の責任において行ってください。

データの消去

HDD内のデータを消去する手順は、次のとおりです。

1 **本機の電源を入れ、リカバリツールCDを光ディスクドライブにセットします。**
リカバリツールのインストール画面が表示された場合は、❌をクリックして画面を閉じてください。

2 **［スタート］－［終了オプション］－［再起動］をクリックして、本機を再起動します。**

3 **黒い画面の中央に「EPSON」と表示され、消えた後、「Kernel Loading・・・・・Press any key to run PC TEST.」と表示されたら、どれかキーを押します。**
システム診断ツールが起動し、自動的に診断が開始します。

4 **Ctrl ＋ C を押して診断を中止した後、どれかキーを押します。**

5 **選択項目画面が表示されたら、↓ で「HD Erase」を選択して ↵ を押します。**

6 **選択項目画面が表示されたら、↓ で「Full Erase」を選択して ↵ を押します。**

7 **選択項目画面が表示されたら、「No Verify」を選択して ↵ を押します。**
「!!WARNING!!」画面が表示されます。
消去を中止する場合は、Esc を押すと「システム診断ツール」画面に戻ります。

8 消去を開始するには、キーボードで「Yes」と入力します。

消去が始まると、途中で止めることはできません。
消去には、しばらく時間がかかります。かかる時間はHDDの容量によって異なります（40GBのHDDの場合で約30分)。

9 「Erase of HD0 :Passed Press any key to continue.」と表示されたら、リカバリツールCDを光ディスクドライブから取り出して、本機の電源を切ります。

これで、データの消去は完了です。

機能仕様一覧

CPU		インテルCore 2 Duoプロセッサ、インテルCore 2 Soloプロセッサ、またはインテルCeleron Mプロセッサ（購入時の選択による）
BIOS		Phoenix BIOS
チップセット		モバイルインテル945GMS Express Chipset+ICH7-M
セキュリティチップ		対応規格：TPM 1.2　　　コントローラ：Infineon SLB9635 TT1.2
メモリ	メインメモリ	PC2-4200 SODIMM（DDR-2 533 SDRAM）を使用して最大2GBまでサポート
	ビデオメモリ	メインメモリより最大128MBを使用
ビデオコントローラ		Mobile Intel 945GMS Express Chipset Intergrated
画面表示	液晶タイプ	12.1型XGA カラー液晶 1024×768ピクセル True Color （32ビット）＊1
	外部ディスプレイ接続	1920× 1200ピクセル、True Color （32ビット）
サウンドコントローラ		ハイディフィニションオーディオ対応 Realtek製 ALC260
キーボード		日本語対応85キー（Windowsキー付き）
ポインティングデバイス		タッチパッド
記憶装置	HDD	IDE HDD1台内蔵 Ultra ATA/100 対応
	光ディスクドライブ	購入時の仕様により異なります。
インタフェース	USB	3（USB2.0対応）
	IEEE1394	1（4ピン）
	LAN	1（RJ-45 100Base-TX/10Base-T自動認識）＊2
	FAXモデム	1（RJ-11 V.92対応）＊2
	サウンド	モノラルスピーカ、マイク入力コネクタ×1、ヘッドフォン出力コネクタ×1、モノラルマイク内蔵
	ディスプレイ（VGA）	1（アナログRGB　ミニD-SUB　15 ピン）
PCカードスロット		1　TypeII　PC Card Standard準拠　（CardBus 対応）
メモリカードスロット		1　メモリースティック（Pro対応）、マルチメディアカード、SDメモリーカード対応
カレンダ時計		内蔵 （内蔵電池によりバックアップ）
電源	ACアダプタ	入力：AC100V～240V±10%＊3、1.5A（50/60Hz）　出力：19V、2.64A、50W 質量：292g（含 電源コード）
	軽量バッテリ	容量：5200mAh　Li-ion 7.4V　駆動時間＊4：約5.3時間（Core 2 Duo搭載時）/約5.8時間（Core 2 Solo搭載時）/約5.2時間（Celeron M搭載時）
	標準バッテリ	容量：7800mAh　Li-ion 7.4V　駆動時間＊4：約8.3時間（Core 2 Duo搭載時）/約8.9時間（Core 2 Solo搭載時）/約7.9時間（Celeron M搭載時）
	長時間バッテリ	容量：13000mAh　Li-ion 7.4V　駆動時間＊4：約13.3時間（Core 2 Duo搭載時）/約14.5時間（Core 2 Solo搭載時）/約12.9時間（Celeron M搭載時）
温湿度条件		温度：10～35℃　湿度：20～80%（ただし、結露しないこと）
本体外形寸法（突起部除く）		軽量バッテリ装着時：281（幅）× 237（奥行）× 32～35（高さ）mm 標準バッテリ装着時：281（幅）× 256（奥行）× 32～35（高さ）mm 長時間バッテリ装着時：281（幅）× 275（奥行）× 32～35（高さ）mm
本体質量＊5		軽量バッテリ装着時：約1.2kg　標準バッテリ装着時：約1.4kg 長時間バッテリ装着時：約1.6kg
消費電力		61W（最大）/2.0W（スタンバイ時）/1.4W（電源オフ時）

＊1 グラフィックアクセラレータのディザリング機能により実現しています。
＊2 認証番号ラベルはコンピュータの底面に貼付されています。
＊3 標準添付されている電源コードはAC100V用（日本仕様）です。本製品は国内専用ですので海外でお使いの場合は保証対象外となります。
＊4 JEITAの測定方法Ver. 1.0に基づいています。システム構成や使用環境により異なります。
＊5 システム構成により異なります。

Bluetooth*[1]（搭載時のみ）

準拠規格	Bluetooth標準規格 Ver2.0+EDR
通信距離（規格値）	10m*[2]
転送速度（規格値）	3Mbps

＊1 本製品には、電波法の規定により、工事設計認証を取得した無線設備を内蔵しています。
認証製品名：GUBTCR42M
認証番号　：201 NY06215145
＊2 実際の通信距離は、電波環境、障害物、設置環境などの周囲条件や、アプリケーション、Windowsなどの使用条件によって短くなります。推奨される通信距離は3m以内です。

無線LAN*[1]*[2]（搭載時のみ）

準拠規格	IEEE802.11a　：ARIB STD-T71（小電力データ通信システム規格） （J52,W52, W53）5GHz　無線LAN標準プロトコル IEEE802.11b/g ：ARIB STD-T66（小電力データ通信システム規格） 2.4GHz　無線LAN標準プロトコル
データ転送速度 （規格値）＊3	802.11a/g : 54Mbps 802.11b　: 11Mbps
伝送方式	OFDM方式（IEEE802.11a/g） DS-SS方式（IEEE802.11b）
伝送距離 （理論値）	111Mbps：40m（IEEE802.11b） 54Mbps　：25m（IEEE802.11g）/12m（IEEE802.11a） 屋内におけるアクセスポイントとの通信時＊4
セキュリティ	128/64bit WEP、WPA、WPA2対応、802.1x*[5]
使用無線 チャンネル	IEEE802.11a：34/38/42/46（J52）、36/40/44/48ch（W52）、52/56/60/64ch（W53） IEEE802.11b：1～13ch IEEE802.11g：1～13ch

＊1 本製品には、電波法の規定により、工事設計認証を取得した無線設備を内蔵しています。
認証製品名：WM3945ABG
認証番号　：003NY05120 0209、003WY05061 0210
＊2 当社では、「インテル PROSet/Wireless」で動作を確認しています。
＊3 無線LAN規格の理論上の最大値であり、実際のデータ転送速度を示すものではありません。
＊4 実際の通信距離は、電波環境、障害物、設置環境などの周囲条件や、アプリケーション、Windowsなどの使用条件によって短くなります。
＊5 当社では、Windows Server 2003とのIEEE802.1x Radius Server（EAP-TLS対応認証サーバ）＋WPA（TKIP）の組み合わせによる認証において動作を確認しています。すべての環境下での動作を保証するものではありません。

索 引

J

L

M

N

P

S

T

U

V

W

あ

い

う

え

お

か

き

く

け

こ

さ

し

す

せ

Memo

Memo

使用限定について

本製品は、OA機器として使用されることを目的に開発・製造されたものです。

本製品を航空機・列車・船舶・自動車などの運行に直接かかわる装置・防災防犯装置・各種安全装置など機能・精度などにおいて高い信頼性・安全性が必要とされる用途に使用される場合は、これらのシステム全体の信頼性および安全性維持のためにフェールセーフ設計や冗長設計の措置を講じるなど、システム全体の安全設計にご配慮頂いた上で本製品をご使用ください。

本製品は、航空宇宙機器、幹線通信機器、原子力制御機器、生命維持に関わる医療機器、24時間稼動システムなどの極めて高い信頼性・安全性が必要とされる用途への使用を意図しておりませんので、これらの用途にはご使用にならないでください。

本製品を日本国外へ持ち出す場合のご注意

本製品は日本国内でご使用いただくことを前提に製造・販売しております。したがって、本製品の修理・保守サービスおよび不具合などの対応は、日本国外ではお受けできませんのでご了承ください。また、日本国外ではその国の法律または規制により、本製品を使用できないこともあります。このような国では、本製品を運用した結果罰せられることがありますが、当社といたしましては一切責任を負いかねますのでご了承ください。

電波障害について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

瞬時電圧低下について

本製品は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合を生じることがあります。

電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをおすすめします。（社団法人　電子情報技術産業協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策規格に基づく表示）

有寿命部品について

当社のコンピュータには、有寿命部品（液晶ディスプレイ、ハードディスク、冷却用ファンなど）が含まれています。

有寿命部品の交換時期の目安は、使用頻度や条件により異なりますが、本製品を通常使用した場合、1日約8時間、1ヶ月で25日間のご使用で約5年です。上記目安はあくまで目安であって、故障しないことや無料修理をお約束するものではありません。なお、長時間連続使用など、ご使用状態によっては早期に、あるいは製品の保証期間内であっても、部品交換（有料）が必要となります。

※LCDユニットを最大輝度で常時使用した場合の寿命は、10000時間です。

国際エネルギースタープログラムについて

国際エネルギースタープログラムは、コンピュータをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化推進のための国際的なプログラムです。

当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。

JIS C 61000-3-2適合品

本装置は、高調波電流規格JIS C 61000-3-2に適合しております。

PCリサイクルマークについて

PCリサイクルマーク付きの当社製品は、当社が無償で回収、再資源化いたします。
詳細は下記ホームページをご参照ください。
http://www.epson.jp/ecology/

著作権保護法

あなたがビデオなどで録画・録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用することはできません。
テレビ・ラジオ・インターネット放送や市販のCD・DVD・ビデオなどで取得できる映像や音声は、著作物として著作権法により保護されています。個人で楽しむ場合に限り、これらに含まれる映像や音声を録画または録音することができますが、他人の著作物を収録した複製物を譲渡したり、他人の著作物をインターネットのホームページなどに掲載（改編して掲載する場合も含む）するなど、私的範囲を超えて配布・配信する場合は、事前に著作権者（放送事業者や実演家などの隣接権者を含む）の許諾を得る必要があります。著作権者に無断でこれらの行為を行うと著作権法に違反します。
また、実演や興行、展示物などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

ご注意

1. 本書の内容の一部、または全部を無断で転載することは固くお断りいたします。
2. 本書の内容および製品の仕様について、将来予告なしに変更することがあります。
3. 本書の内容は万全を期して作成いたしましたが、万一誤り・お気付きの点がございましたら、ご連絡くださいますようお願いいたします。
4. 運用した結果の影響につきましては、3項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

商標について

- Microsoft、Windows、Internet Explorer、Windows Mediaは米国Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Intel、インテル、Intel ロゴ、Intel Core、Core Inside、Celeron、Intel SpeedStep は、アメリカ合衆国およびその他の国におけるIntel Corporationの商標です。
- PS/2はInternational Business Machines の登録商標です。
- Symantec、Symantecロゴ、Norton Internet Security、LiveUpdateはSymantec Corporationの登録商標です。
- McAfeeおよびマカフィーは、米国法人McAfee,Inc.またはその関連会社の米国またはその他の国における登録商標です。
- Adobe、Adobeロゴ、ReaderはAdobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。
- Memory Stick、マジックゲート、Memory Stickのロゴは、ソニー株式会社の商標です。
- Multi Media Card™は、ドイツInfineon Technologies AG社の商標です。
- SDロゴは商標です。
- Bluetooth（R）はBluetooth SIG, Inc. の商標です。
- そのほかの社名、製品名は一般にそれぞれの会社の商標または登録商標です。

EPSON DIRECT CORPORATION

C77500001 08.02-10(SO)

epsondirect.jp